

地域福祉及び人権啓発に関する市民意識調査 【調査結果報告書】

令和7年2月

袋 井 市

目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果.....	2
(1)	回答者属性.....	2
(2)	日常生活について.....	6
(3)	地域とのかかわりについて.....	16
(4)	福祉サービス、制度について.....	34
(5)	安全で安心して暮らせるよう再犯の防止等について.....	44
(6)	今後の地域福祉について.....	45
(7)	人権の問題について.....	50

I 調査の概要

1 調査の目的

「第5次袋井市地域福祉推進計画」策定の基礎資料とするため、市内在住の15歳以上の一般市民3,000人を対象に地域福祉に関する市民意識調査を実施しました。

地域福祉に対する意識や地域活動への参加意向、支援を必要とする人に対する施策等、市民視点から本市の地域福祉の状況や施策のニーズを把握することを目的としました。

2 調査対象

市内在住の15歳以上の一般市民の方3,000人を無作為抽出

3 調査期間

令和6年12月3日～令和6年12月25日

4 調査方法

郵送による配布・回収及びWEBによる回答

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
3,000通	1,092通	36.4%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

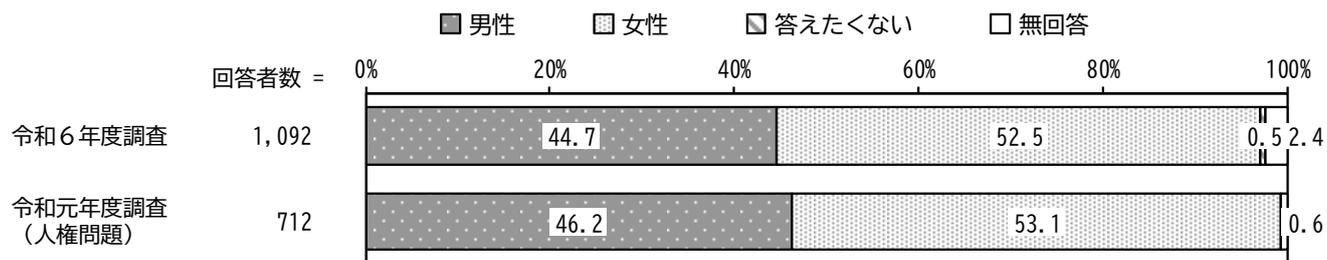
Ⅱ 調査結果

(1) 回答者属性

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ) ※自認する性別をお答えください。

「女性」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「男性」の割合が 44.7%、「答えたくない」の割合が 0.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

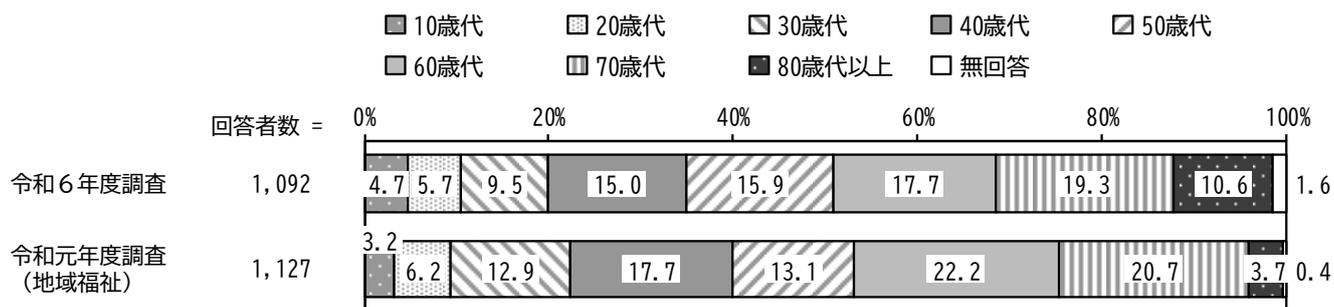


※前回調査では、「答えたくない」の選択肢はありませんでした。

問2 あなたの令和6年12月1日現在の年齢を教えてください。(○は1つ)

「70 歳代」の割合が 19.3%と最も高く、次いで「60 歳代」の割合が 17.7%、「50 歳代」の割合が 15.9%となっています。

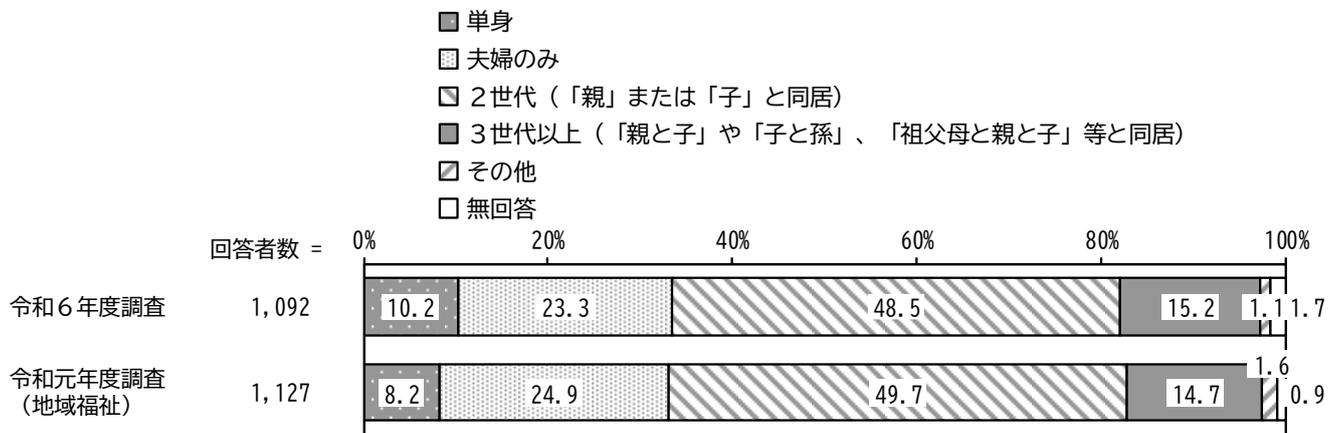
令和元年度調査と比較すると、「80 歳代以上」の割合が増加しています。



問3 あなたの世帯構成は、次のどれですか。(○は1つ)

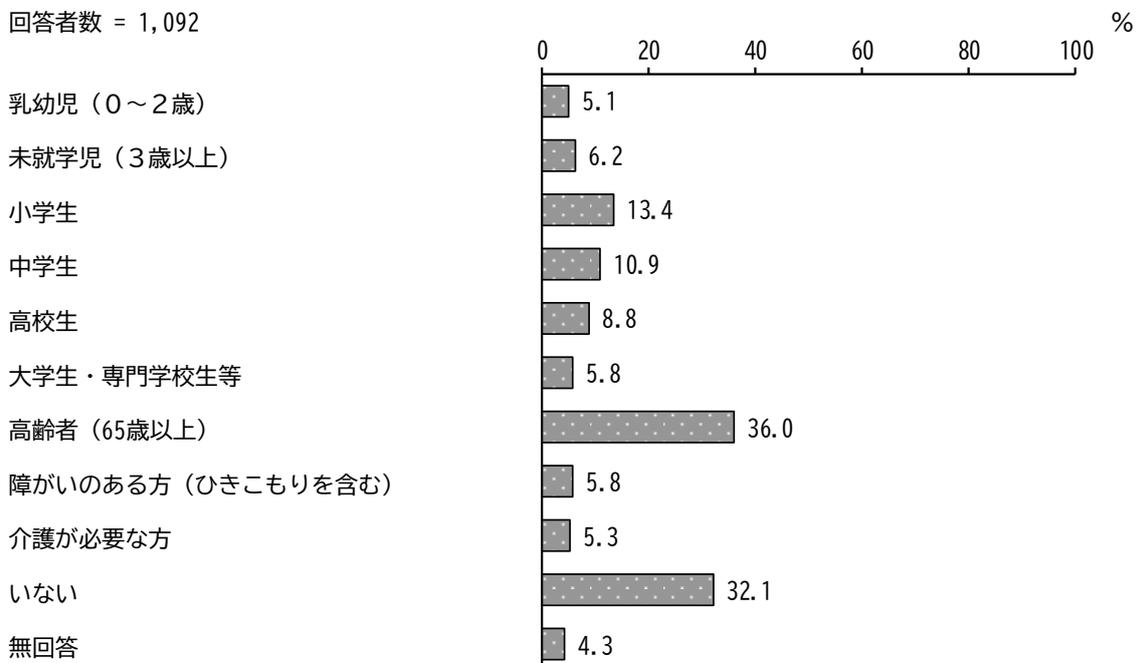
「2世代（「親」または「子」と同居）」の割合が 48.5%と最も高く、次いで「夫婦のみ」の割合が 23.3%、「3世代以上（「親と子」や「子と孫」、「祖父母と親と子」等と同居）」の割合が 15.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問4 あなた自身を除いて、世帯に次の方はいらっしゃいますか。
(当てはまるものすべてに○)

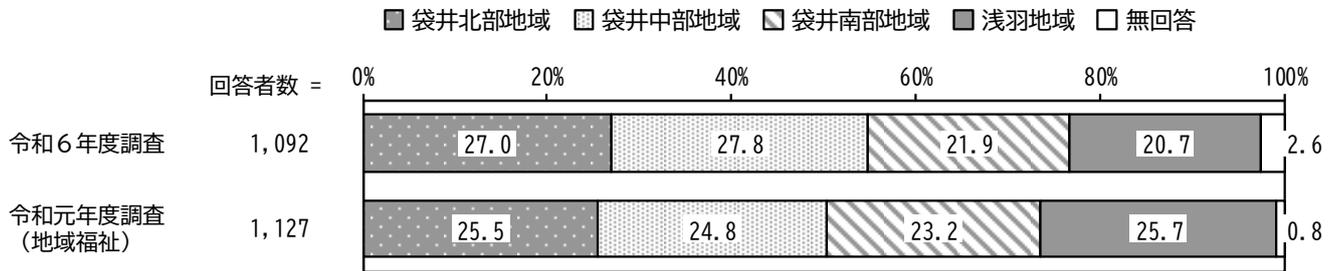
「高齢者（65歳以上）」の割合が 36.0%と最も高く、次いで「いない」の割合が 32.1%、「小学生」の割合が 13.4%となっています。



問5 あなたのお住まいは、どの地域にありますか。(○は1つ)

「袋井中部地域」の割合が27.8%と最も高く、次いで「袋井北部地域」の割合が27.0%、「袋井南部地域」の割合が21.9%となっています。

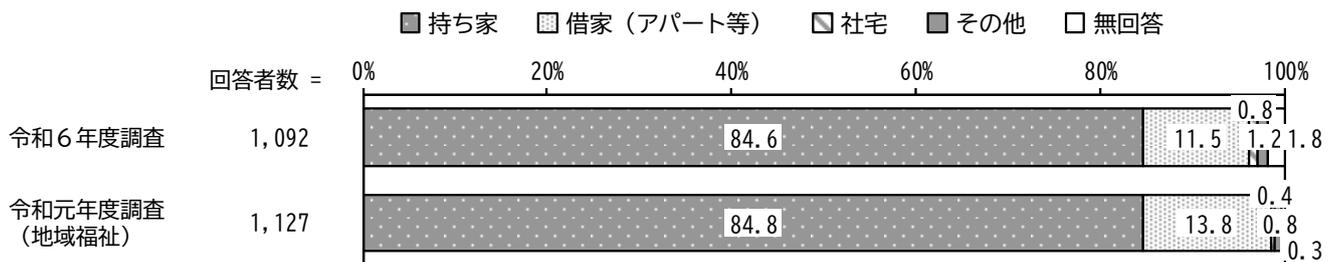
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問6 あなたのお住まいの状況は、次のどれですか。(○は1つ)

「持ち家」の割合が84.6%と最も高く、次いで「借家（アパート等）」の割合が11.5%、「社宅」の割合が0.8%となっています。

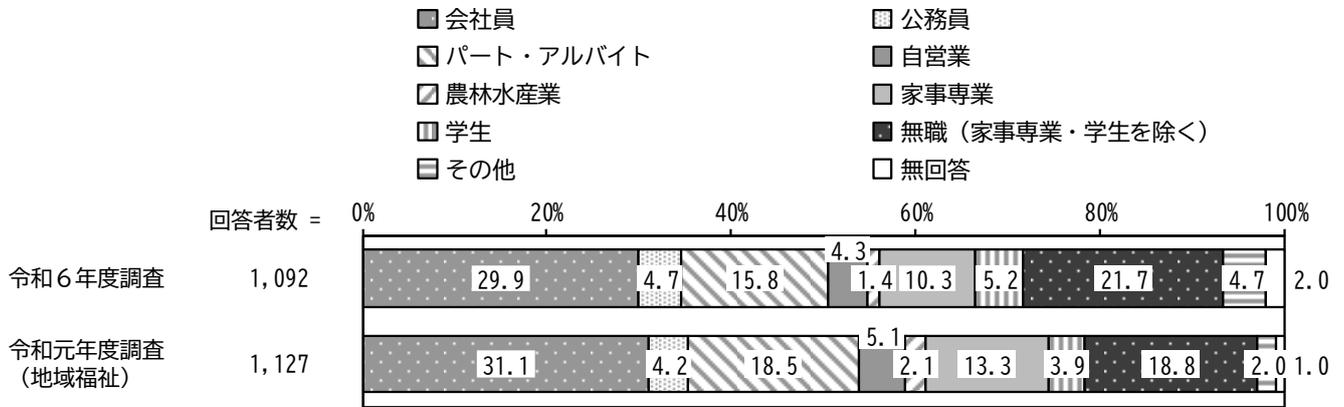
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問7 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

「会社員」の割合が29.9%と最も高く、次いで「無職（家事専業・学生を除く）」の割合が21.7%、「パート・アルバイト」の割合が15.8%となっています。

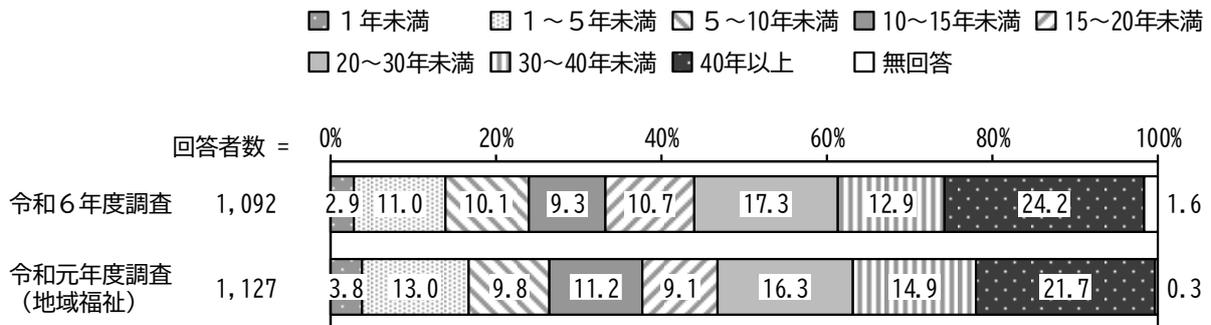
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問8 あなたのお住まいの居住年数を教えてください。(○は1つ)

「40年以上」の割合が24.2%と最も高く、次いで「20～30年未満」の割合が17.3%、「30～40年未満」の割合が12.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

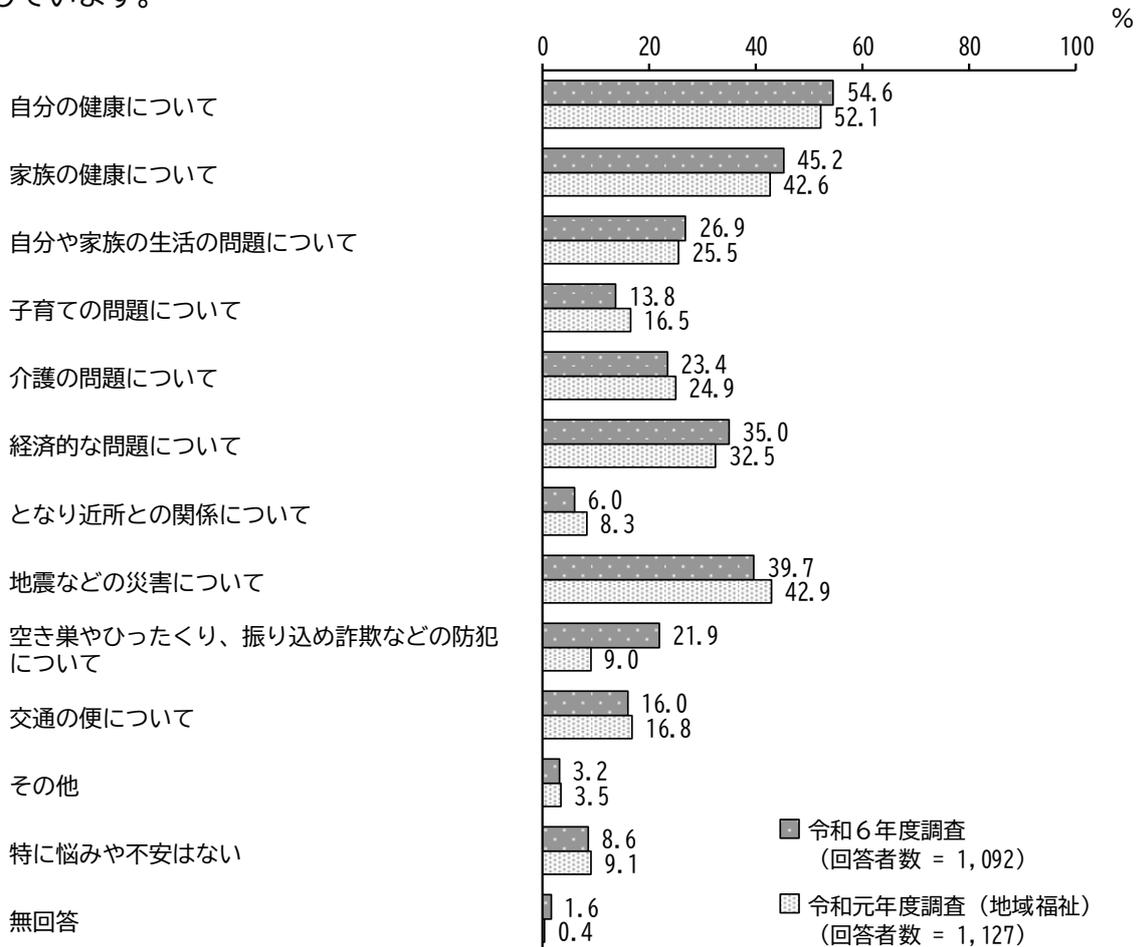


(2) 日常生活について

問9 あなたは普段どのような悩みや不安を感じていますか。(当てはまるものすべてに○)

「自分の健康について」の割合が54.6%と最も高く、次いで「家族の健康について」の割合が45.2%、「地震などの災害について」の割合が39.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「空き巣やひったくり、振り込め詐欺などの防犯について」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	自分の健康について	家族の健康について	自分や家族の生活の問題について	子育ての問題について	介護の問題について	経済的な問題について	となり近所との関係について	地震などの災害について	空き巣やひったくり、振り込め詐欺などの防犯について	交通の便について	その他	特に悩みや不安はない	無回答
全体	1,092	54.6	45.2	26.9	13.8	23.4	35.0	6.0	39.7	21.9	16.0	3.2	8.6	1.6
男性	488	55.9	40.8	25.6	11.9	23.4	36.7	6.1	36.1	17.0	15.2	2.7	9.8	0.6
女性	573	55.3	49.9	28.6	15.5	23.6	34.4	5.9	44.2	26.7	17.1	3.7	7.5	0.2

【年代別】

年代別にみると、30歳代で「子育ての問題について」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	自分の健康について	家族の健康について	自分や家族の生活の問題について	子育ての問題について	介護の問題について	経済的な問題について	となり近所との関係について	地震などの災害について	空き巣やひったくり、振り込め詐欺などの防犯について	交通の便について	その他	特に悩みや不安はない	無回答
全体	1,092	54.6	45.2	26.9	13.8	23.4	35.0	6.0	39.7	21.9	16.0	3.2	8.6	1.6
10歳代	51	31.4	17.6	25.5	2.0	3.9	23.5	2.0	39.2	15.7	15.7	3.9	25.5	—
20歳代	62	43.5	37.1	33.9	17.7	14.5	35.5	4.8	37.1	19.4	12.9	4.8	16.1	—
30歳代	104	37.5	40.4	42.3	49.0	9.6	53.8	9.6	51.9	17.3	9.6	3.8	5.8	1.0
40歳代	164	47.6	47.0	29.3	38.4	14.6	46.3	9.8	43.3	14.0	9.8	2.4	7.3	—
50歳代	174	50.6	50.6	27.0	8.6	35.1	41.4	6.3	37.9	21.8	19.0	2.3	9.2	—
60歳代	193	62.7	54.4	25.4	2.6	28.0	31.6	4.1	43.5	32.6	15.5	5.7	3.6	0.5
70歳代	211	68.7	48.3	25.6	1.4	27.0	30.3	5.2	34.6	24.6	20.4	2.4	9.5	0.9
80歳代以上	116	69.8	38.8	15.5	1.7	31.0	16.4	4.3	36.2	20.7	23.3	1.7	8.6	—

【地域別】

地域別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	自分の健康について	家族の健康について	自分や家族の生活の問題について	子育ての問題について	介護の問題について	経済的な問題について	となり近所との関係について	地震などの災害について	空き巣やひったくり、振り込め詐欺などの防犯について	交通の便について	その他	特に悩みや不安はない	無回答
全体	1,092	54.6	45.2	26.9	13.8	23.4	35.0	6.0	39.7	21.9	16.0	3.2	8.6	1.6
袋井北部地域	295	57.3	49.5	29.2	13.9	24.4	35.6	4.4	43.4	25.4	20.0	2.0	7.1	1.0
袋井中部地域	304	58.2	43.1	31.6	14.5	23.4	39.1	5.6	34.9	17.4	12.5	3.3	8.6	—
袋井南部地域	239	54.8	45.2	26.4	17.2	22.6	36.0	10.0	39.7	20.9	12.6	4.2	8.8	—
浅羽地域	226	49.1	46.0	20.4	10.6	24.3	29.2	5.3	42.0	25.2	19.9	4.0	11.1	0.4

【居住年数別】

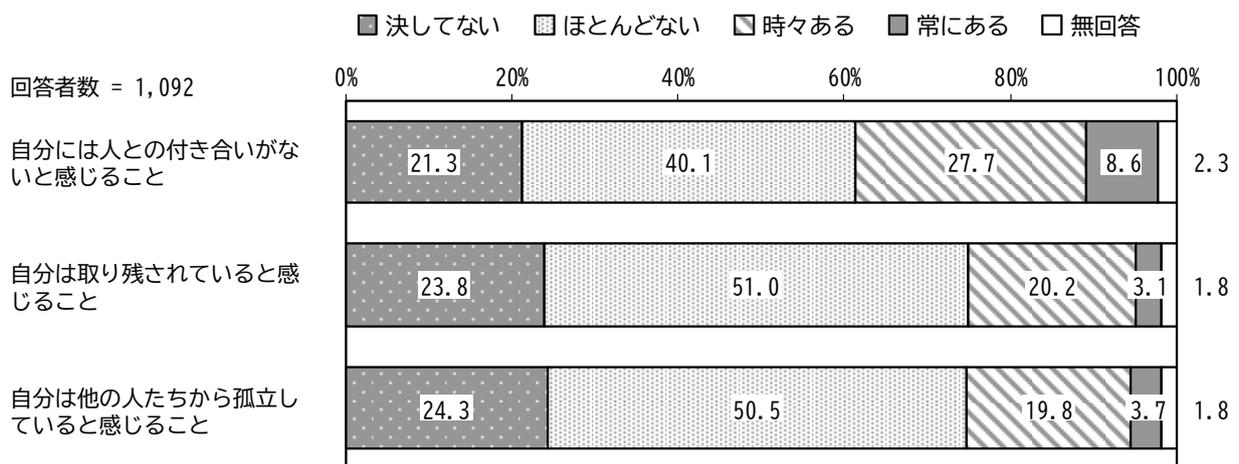
居住年数別にみると、1年未満で「子育ての問題について」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	自分の健康について	家族の健康について	自分や家族の生活の問題について	子育ての問題について	介護の問題について	経済的な問題について	となり近所との関係について	地震などの災害について	空き巣やひったくり、振り込め詐欺などの防犯について	交通の便について	その他	特に悩みや不安はない	無回答
全体	1,092	54.6	45.2	26.9	13.8	23.4	35.0	6.0	39.7	21.9	16.0	3.2	8.6	1.6
1年未満	32	34.4	37.5	28.1	37.5	12.5	34.4	—	37.5	18.8	12.5	6.3	15.6	—
1～5年未満	120	47.5	43.3	33.3	33.3	12.5	41.7	9.2	39.2	19.2	12.5	3.3	6.7	—
5～10年未満	110	53.6	39.1	32.7	35.5	18.2	49.1	13.6	43.6	15.5	14.5	4.5	5.5	—
10～15年未満	102	44.1	42.2	22.5	24.5	17.6	36.3	2.9	39.2	14.7	14.7	3.9	11.8	—
15～20年未満	117	51.3	45.3	28.2	9.4	21.4	43.6	4.3	36.8	21.4	10.3	1.7	13.7	—
20～30年未満	189	50.8	45.0	25.4	4.8	21.7	27.0	5.8	38.1	25.9	19.6	5.8	10.1	—
30～40年未満	141	63.1	60.3	31.2	6.4	34.0	38.3	5.7	46.8	24.1	20.6	—	5.7	1.4
40年以上	264	67.0	45.5	22.7	2.3	31.8	27.7	4.9	39.4	26.1	17.8	2.7	7.6	0.4

問10 あなたはどのように感じますか。(○はそれぞれ1つ)

『自分には人との付き合いがないと感じること』で「時々ある」「常にある」の割合が高くなっています。

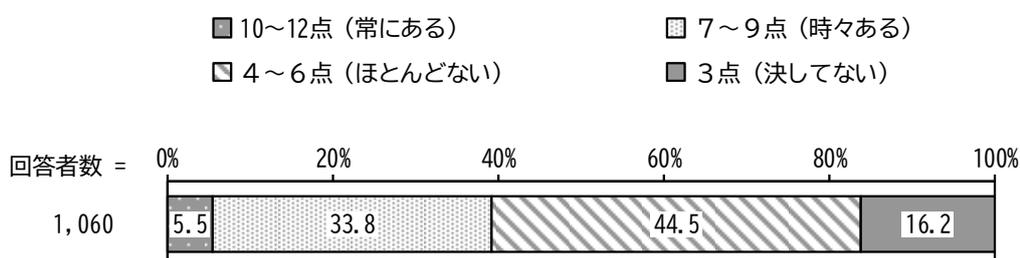


UCLA孤独感尺度

UCLA孤独感尺度とは、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）のラッセルが、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案した「UCLA孤独感尺度」の日本語版の3項目短縮版に基づくもので、3つの設問への回答をスコア化し、その合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価します。

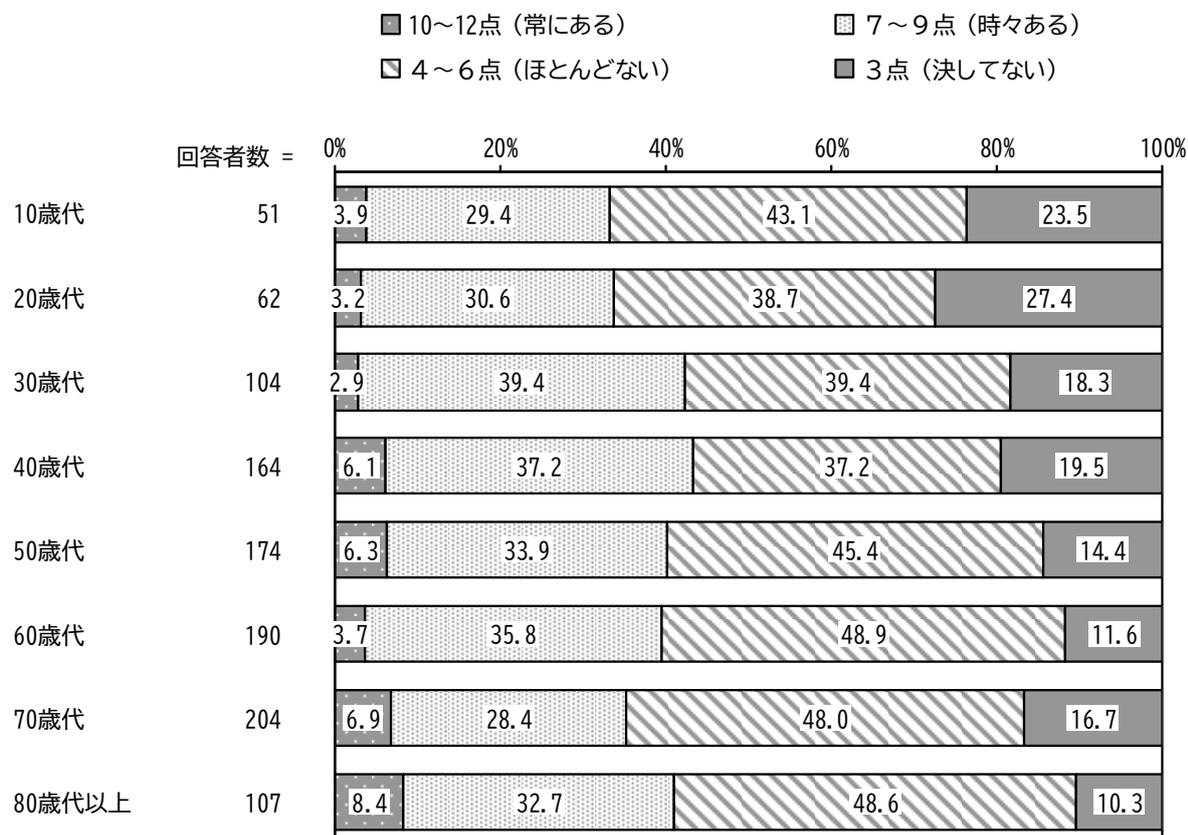
スコア化は、「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点とし、その合計スコアについては、「人々のつながりに関する基礎調査」（内閣官房孤独・孤立対策担当室）を参考に、「10～12点」（常にある）、「7～9点」（時々ある）、「4～6点」（ほとんどない）、「3点」（決してない）の4区分で整理しました。

3つの設問の回答について、孤独感スコアを算出した結果、「4～6点（ほとんどない）」（44.5%）が最も高く、次いで「7～9点（時々ある）」（33.8%）、「3点（決してない）」（16.2%）、「10～12点（常にある）」（5.5%）の順となっています。



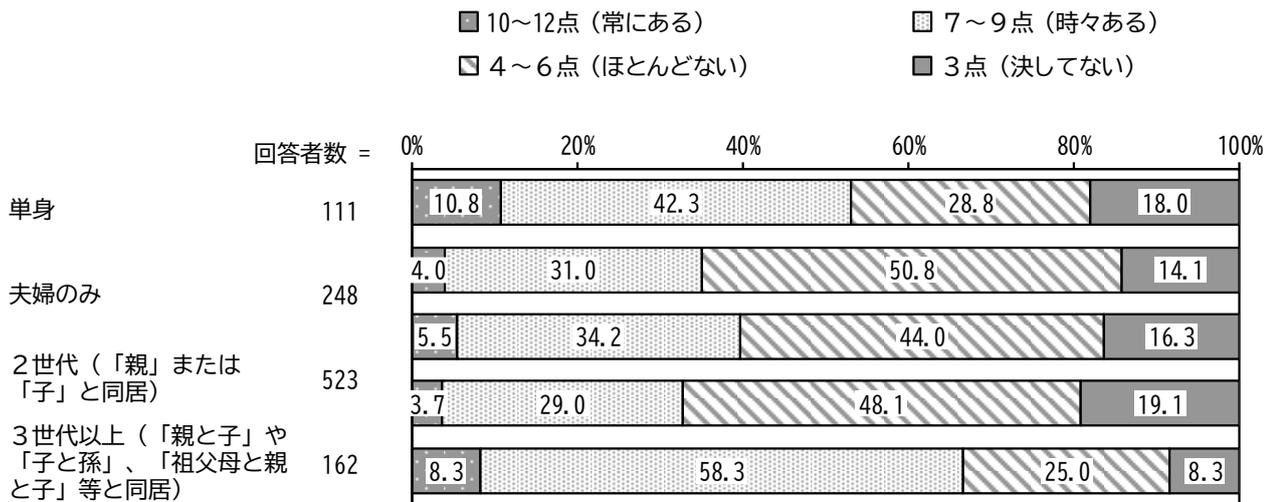
【年代別】

年代別にみると、20歳代で「3点（決してない）」の割合が高くなっています。



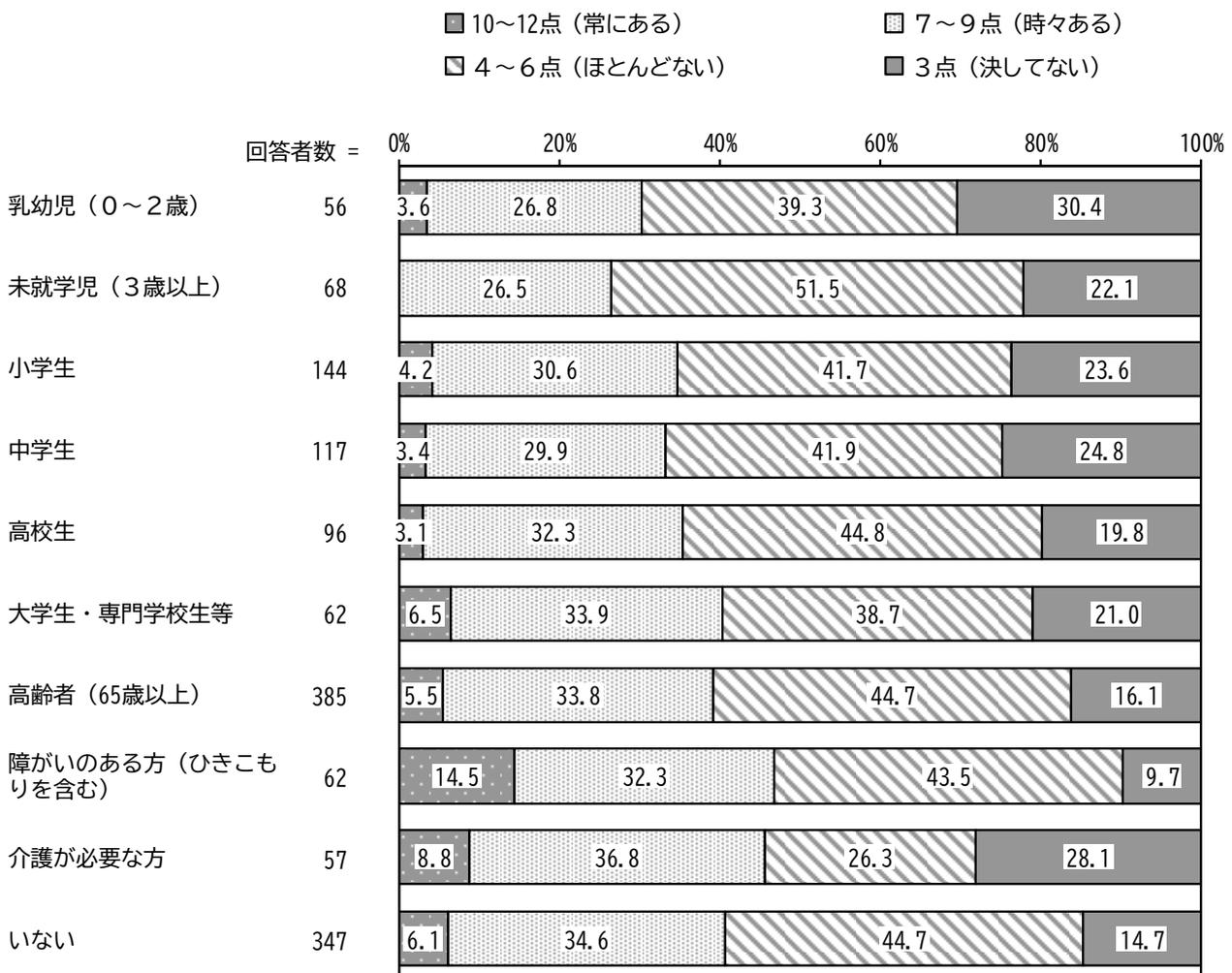
【世帯構成別】

世帯構成別にみると、単身で「7～9点（時々ある）」の割合が高くなっています。



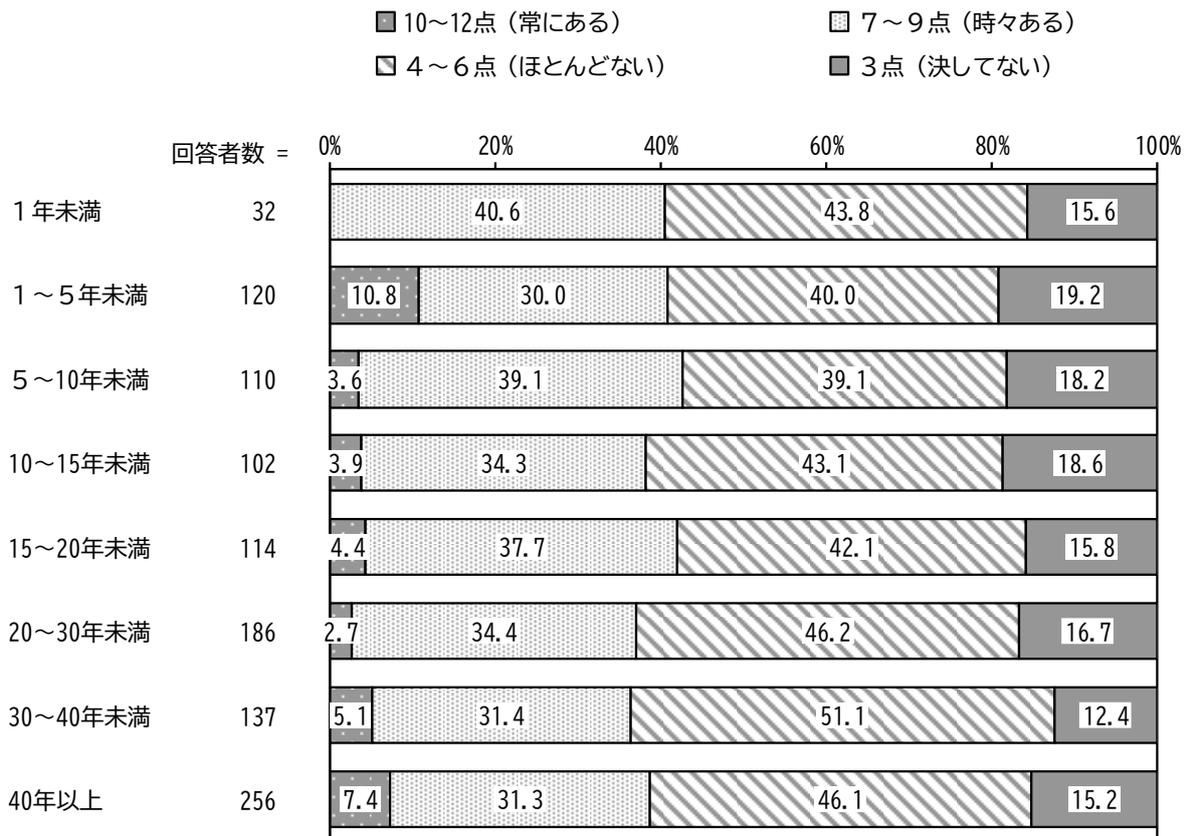
【家族構成別】

家族構成別にみると、乳幼児（0～2歳）で「3点（決してない）」の割合が高くなっています。



【居住年数別】

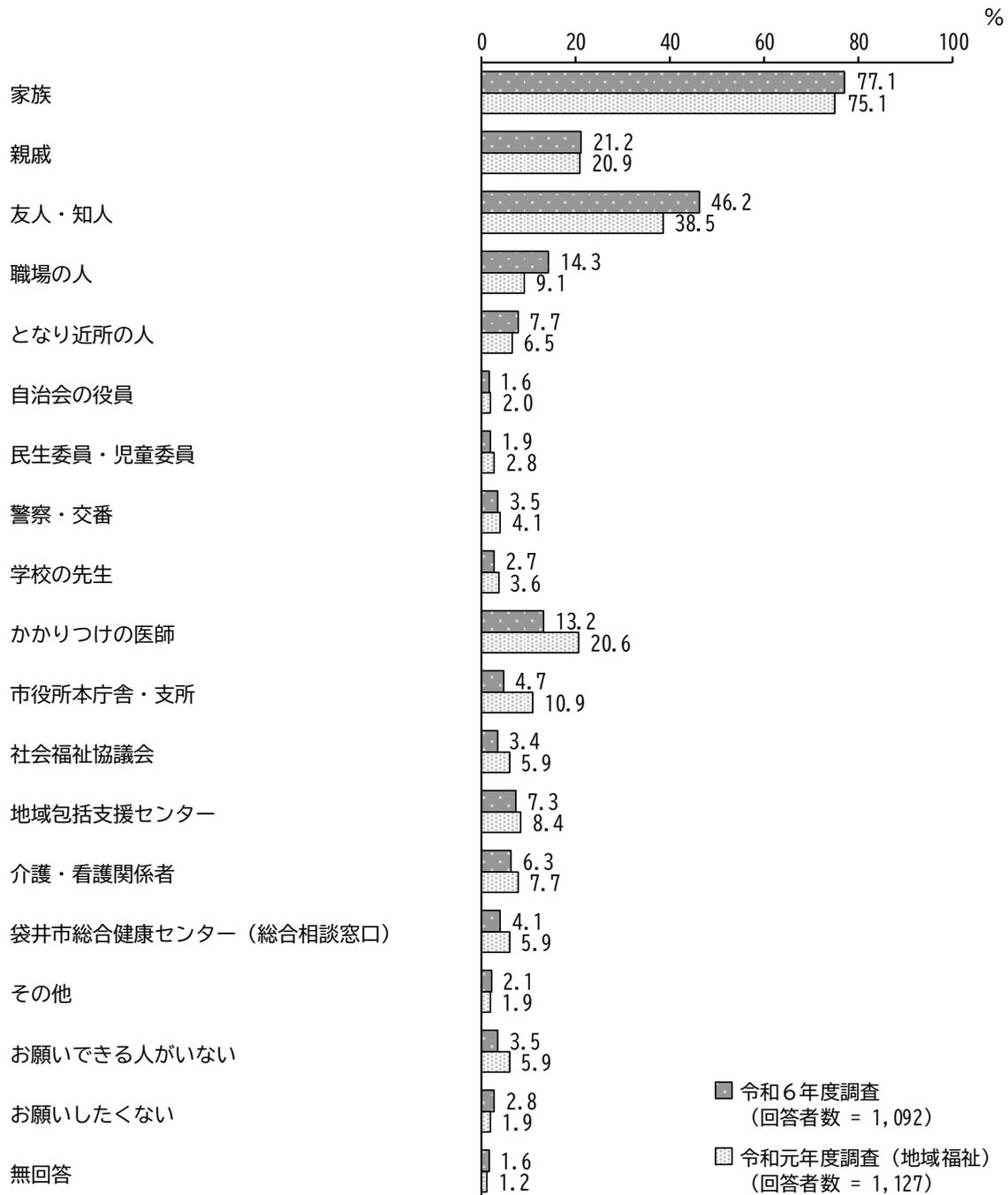
居住年数別にみると、1年未満で「7～9点（時々ある）」の割合が高くなっています。



問11 あなたは、日常生活の悩みや不安を、主に誰（どこ）に相談や支援をお願いしたいと思いますか。（当てはまるものすべてに○）

「家族」の割合が77.1%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が46.2%、「親戚」の割合が21.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「友人・知人」「職場の人」の割合が増加しています。一方、「かかりつけの医師」「市役所本庁舎・支所」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、女性で「友人・知人」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	家族	親戚	友人・知人	職場の人	となり近所の人	自治会の役員	民生委員・児童委員	警察・交番	学校の先生
全 体	1,092	77.1	21.2	46.2	14.3	7.7	1.6	1.9	3.5	2.7
男性	488	75.6	19.3	41.4	15.6	7.0	3.3	2.0	4.3	2.3
女性	573	80.8	23.7	51.3	13.8	8.2	0.3	1.9	3.0	3.1

区分	かかりつけの医師	市役所本庁舎・支所	社会福祉協議会	地域包括支援センター	介護・看護関係者	袋井市総合健康センター (総合相談窓口)	その他	お願いできる人がいない	お願いしたくない	無回答
全 体	13.2	4.7	3.4	7.3	6.3	4.1	2.1	3.5	2.8	1.6
男性	13.7	4.5	3.5	6.6	4.7	3.7	1.4	4.1	3.5	0.8
女性	12.7	4.9	3.5	8.4	7.7	4.5	2.3	3.1	2.3	0.2

【年代別】

年代別にみると、30歳代で「職場の人」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族	親戚	友人・知人	職場の人	となり近所の人	自治会の役員	民生委員・児童委員	警察・交番	学校の先生
全体	1,092	77.1	21.2	46.2	14.3	7.7	1.6	1.9	3.5	2.7
10歳代	51	74.5	11.8	72.5	3.9	—	—	2.0	2.0	23.5
20歳代	62	87.1	9.7	71.0	22.6	—	—	—	4.8	—
30歳代	104	87.5	20.2	60.6	41.3	2.9	—	—	—	2.9
40歳代	164	79.3	16.5	52.4	22.6	8.5	1.8	0.6	4.9	6.1
50歳代	174	75.9	17.8	46.6	20.7	4.0	2.3	1.7	4.6	1.1
60歳代	193	76.7	25.4	46.1	11.4	9.3	2.1	0.5	2.6	0.5
70歳代	211	75.4	27.0	37.0	0.9	11.8	2.8	4.7	4.3	0.5
80歳代以上	116	74.1	29.3	20.7	—	14.7	0.9	4.3	3.4	—

区分	かかりつけの医師	市役所本庁舎・支所	社会福祉協議会	地域包括支援センター	介護・看護関係者	袋井市総合健康センター (総合相談窓口)	その他	お願いできる人がいない	お願いしたくない	無回答
全体	13.2	4.7	3.4	7.3	6.3	4.1	2.1	3.5	2.8	1.6
10歳代	3.9	2.0	2.0	—	—	2.0	—	2.0	3.9	—
20歳代	3.2	3.2	3.2	4.8	1.6	1.6	—	—	1.6	—
30歳代	2.9	4.8	1.9	2.9	1.9	2.9	1.0	4.8	1.0	—
40歳代	7.9	5.5	1.8	4.3	0.6	2.4	3.0	4.3	5.5	1.2
50歳代	11.5	5.2	3.4	5.7	6.3	4.0	1.7	6.3	2.9	—
60歳代	19.7	5.2	5.2	8.8	7.8	3.1	2.1	3.6	1.6	0.5
70歳代	17.5	6.2	4.3	10.9	6.6	8.1	3.8	2.4	3.8	0.9
80歳代以上	25.0	1.7	3.4	14.7	21.6	5.2	1.7	1.7	1.7	—

【地域別】

地域別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族	親戚	友人・知人	職場の人	となり近所の人	自治会の役員	民生委員・児童委員	警察・交番	学校の先生
全体	1,092	77.1	21.2	46.2	14.3	7.7	1.6	1.9	3.5	2.7
袋井北部地域	295	80.7	21.4	45.8	12.2	8.1	1.7	2.0	3.7	2.4
袋井中部地域	304	78.9	19.7	43.8	17.1	6.9	3.0	2.3	4.3	1.6
袋井南部地域	239	75.3	25.9	47.7	14.2	7.9	0.8	2.1	2.5	3.3
浅羽地域	226	76.1	18.1	50.9	14.6	8.8	0.9	0.9	3.5	4.0

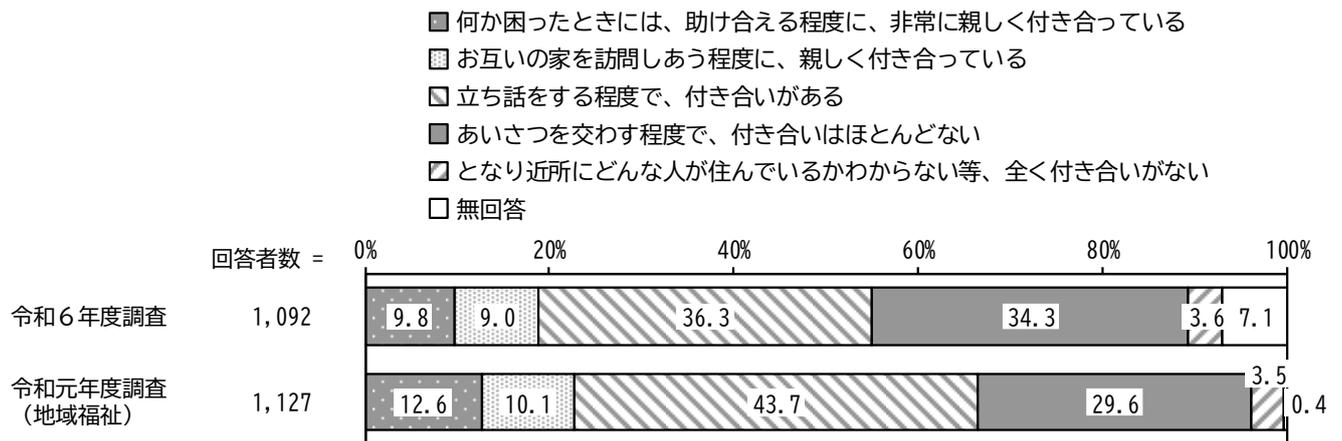
区分	かかりつけの医師	市役所本庁舎・支所	社会福祉協議会	地域包括支援センター	介護・看護関係者	袋井市総合健康センター (総合相談窓口)	その他	お願いできる人がいない	お願いしたくない	無回答
全体	13.2	4.7	3.4	7.3	6.3	4.1	2.1	3.5	2.8	1.6
袋井北部地域	16.9	3.4	3.7	6.8	6.8	6.4	2.7	2.7	2.0	1.0
袋井中部地域	13.5	5.6	3.9	6.3	6.6	3.9	1.6	3.6	3.0	0.3
袋井南部地域	10.9	5.0	2.1	7.9	4.6	2.9	1.7	3.3	3.8	—
浅羽地域	11.5	4.9	4.0	9.3	8.0	3.1	2.7	4.9	3.1	0.4

(3) 地域とのかかわりについて

問12 あなたは、となり近所とのお付き合いをどの程度していますか。(〇は1つ)

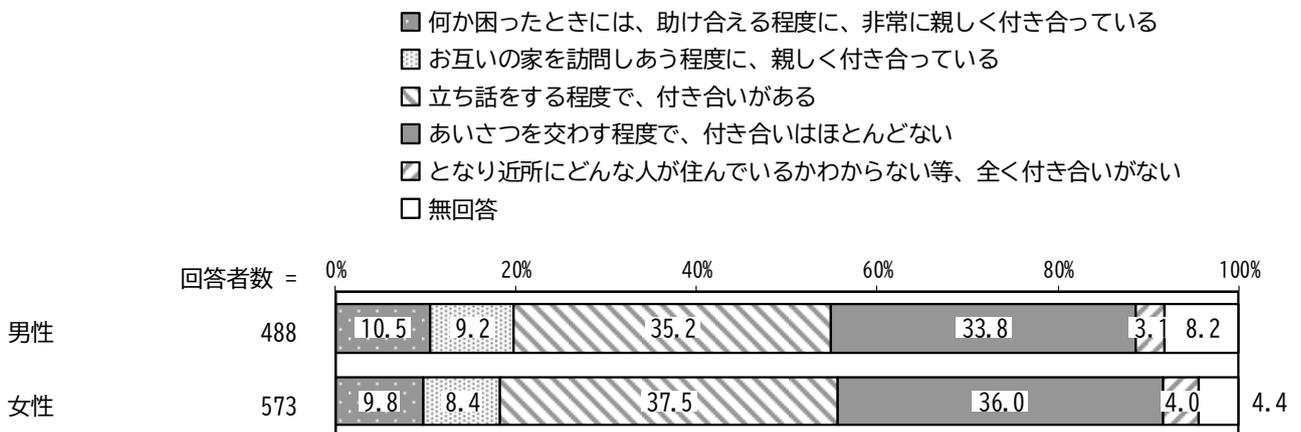
「立ち話をする程度で、付き合いがある」の割合が36.3%と最も高く、次いで「あいさつを交わす程度で、付き合いはほとんどない」の割合が34.3%、「何か困ったときには、助け合える程度に、非常に親しく付き合っている」の割合が9.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「立ち話をする程度で、付き合いがある」の割合が減少しています。



【性別】

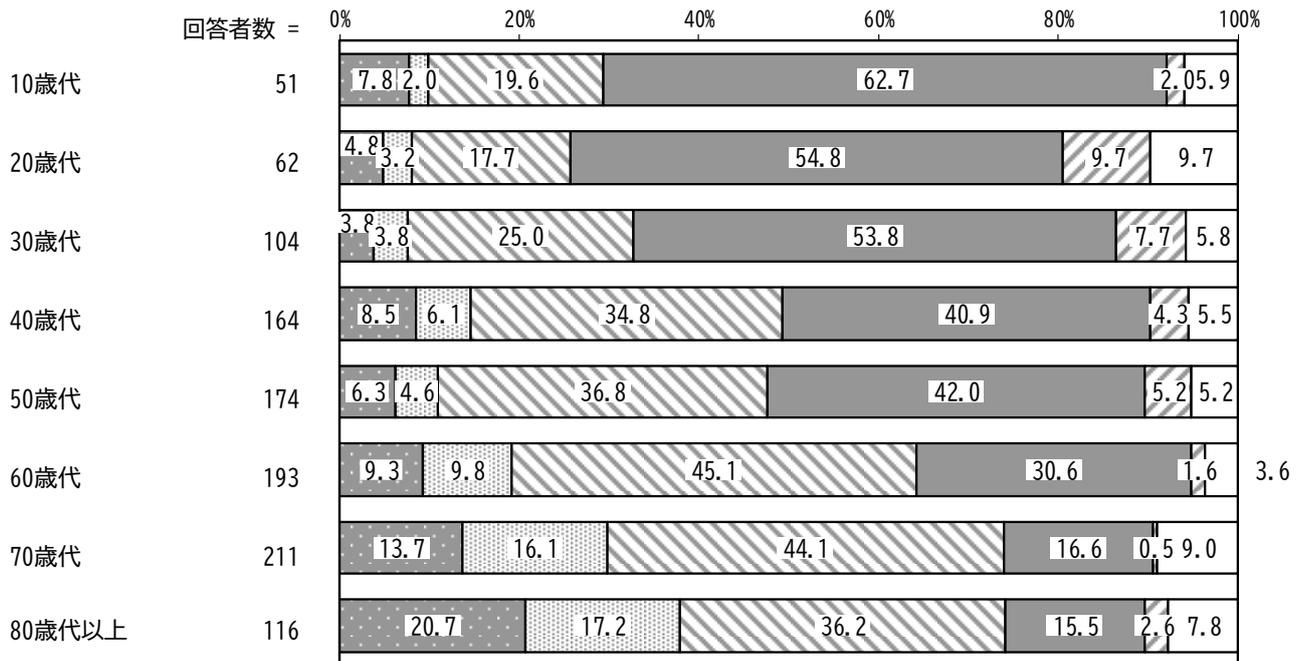
性別にみると、大きな差はみられません。



【年代別】

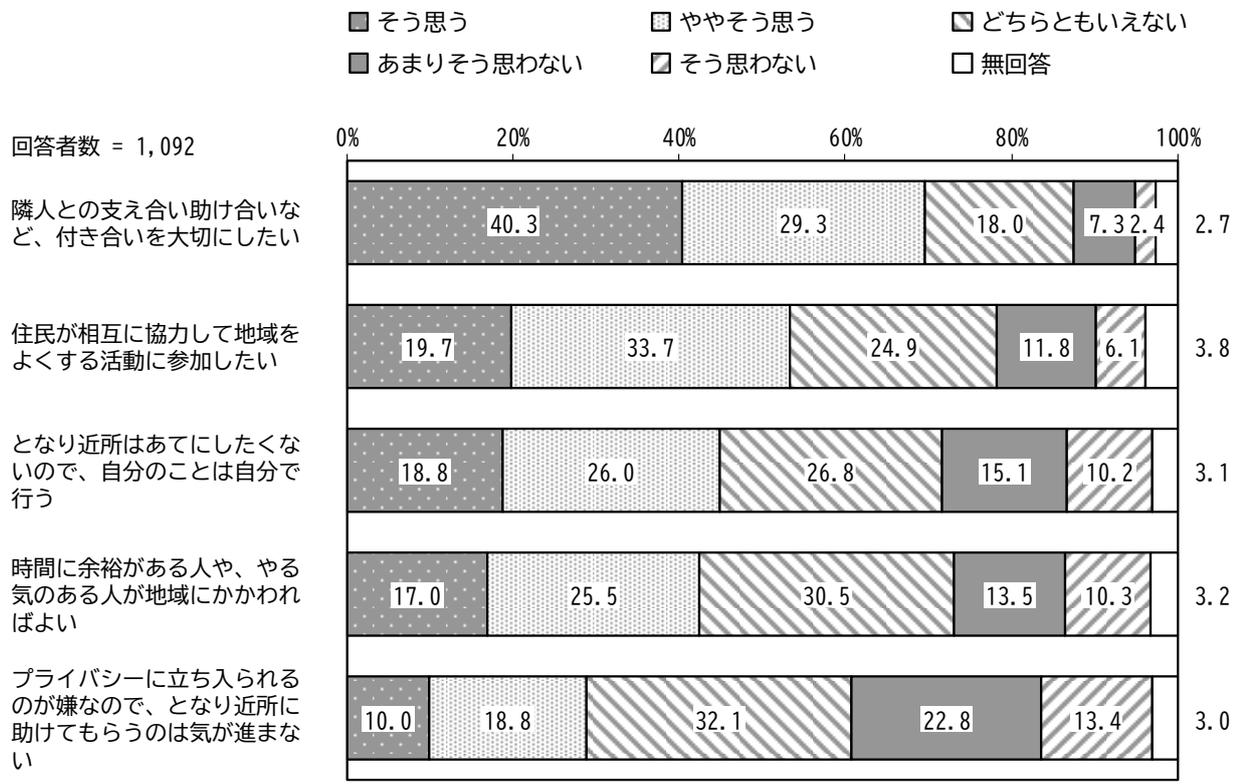
年代別にみると、10 歳代で「あいさつを交わす程度で、付き合いはほとんどない」の割合が高くなっています。

- 何か困ったときには、助け合える程度に、非常に親しく付き合っている
- ▨ お互いの家を訪問しあう程度に、親しく付き合っている
- ▩ 立ち話をする程度で、付き合いがある
- あいさつを交わす程度で、付き合いはほとんどない
- ▨ とおり近所にどんな人が住んでいるかわからない等、全く付き合いがない
- 無回答



問 13 地域社会におけるかかわりについて、以下の項目について、あなたはどうお考えですか。(〇はそれぞれ1つ)

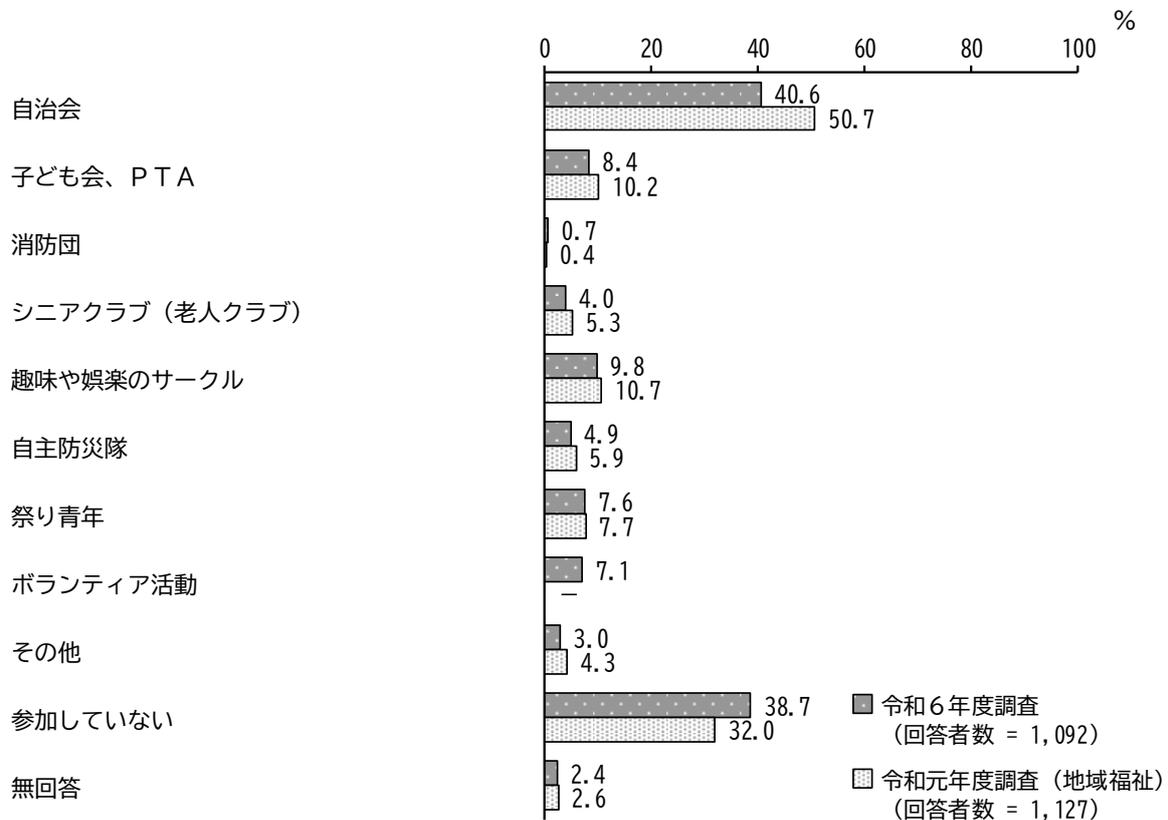
『隣人との支え合い助け合いなど、付き合いを大切にしたい』で「そう思う」の割合が高く、『プライバシーに立ち入られるのが嫌なので、となり近所に助けてもらうのは気が進まない』で「あまりそう思わない」になっています。



問 14 あなたは、現在、地域活動やボランティア活動等に参加していますか。
(当てはまるものすべてに○)

「自治会」の割合が40.6%と最も高く、次いで「参加していない」の割合が38.7%、「趣味や娯楽のサークル」の割合が9.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。一方、「自治会」の割合が減少しています。



※前回調査では、「ボランティア活動」の選択肢はありませんでした。

【性別】

性別にみると、男性で「自治会」「自主防災隊」「祭り青年」の割合が高く、女性で「趣味や娯楽のサークル」「参加していない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	自治会	子ども会、PTA	消防団	シニアクラブ (老人クラブ)	趣味や娯楽のサークル	自主防災隊	祭り青年	ボランティア活動	その他	参加していない	無回答
全体	1,092	40.6	8.4	0.7	4.0	9.8	4.9	7.6	7.1	3.0	38.7	2.4
男性	488	50.8	7.4	1.6	4.3	7.4	8.0	15.0	7.8	3.9	29.1	3.1
女性	573	32.3	9.2	-	3.5	11.5	2.3	1.4	6.6	1.7	47.3	1.4

【年代別】

年代別にみると、10歳代で「参加していない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自治会	子ども会、 PTA	消防団	シニアクラブ (老人クラブ)	趣味や娯楽のサークル	自主防災隊	祭り青年	ボランティア活動	その他	参加していない	無回答
全体	1,092	40.6	8.4	0.7	4.0	9.8	4.9	7.6	7.1	3.0	38.7	2.4
10歳代	51	13.7	3.9	—	—	—	—	2.0	7.8	2.0	72.5	2.0
20歳代	62	12.9	—	3.2	—	4.8	1.6	14.5	6.5	1.6	61.3	1.6
30歳代	104	26.9	22.1	3.8	—	1.9	1.0	13.5	1.0	—	52.9	2.9
40歳代	164	50.6	30.5	1.2	—	2.4	3.7	22.6	1.8	1.8	32.3	1.8
50歳代	174	48.3	5.7	—	—	8.0	6.3	10.3	3.4	2.3	36.2	1.7
60歳代	193	53.9	0.5	—	—	8.8	7.8	—	8.3	2.6	34.7	1.0
70歳代	211	44.5	2.8	—	9.0	19.0	7.6	0.9	15.6	6.6	26.5	2.8
80歳代以上	116	23.3	—	—	19.0	19.8	1.7	0.9	8.6	4.3	42.2	3.4

【地域別】

地域別にみると、袋井北部地域で「自治会」の割合が高くなっています。

単位：％

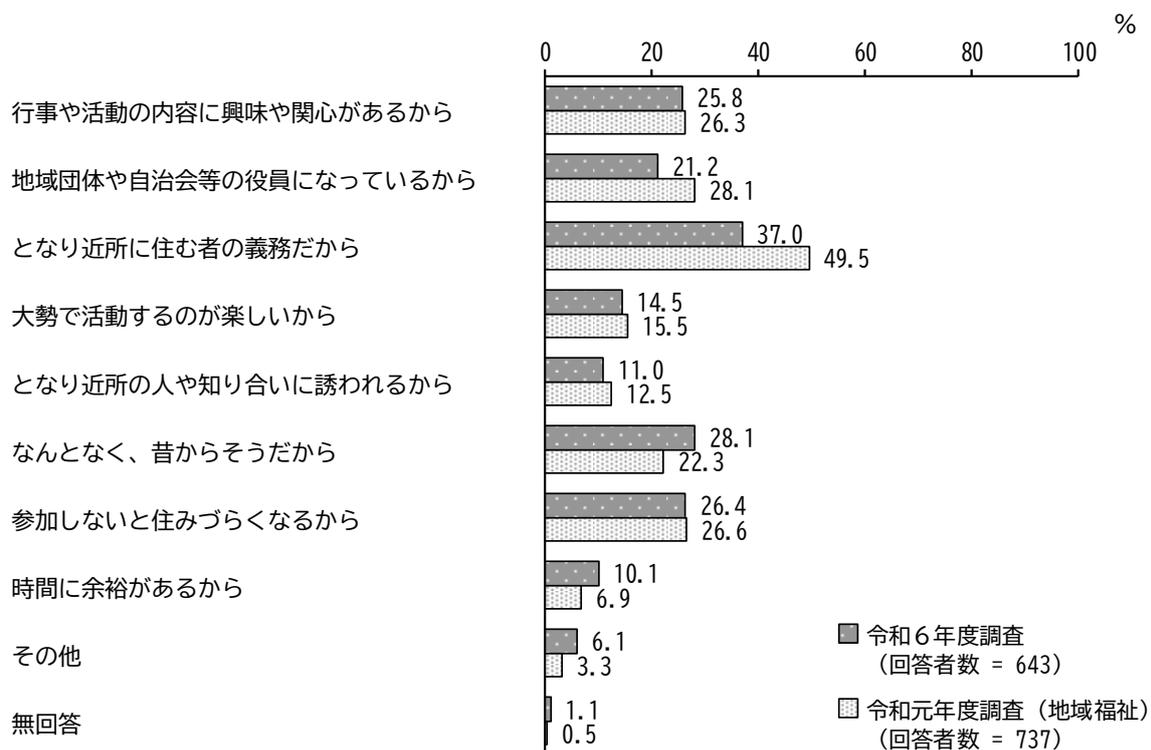
区分	回答者数 (件)	自治会	子ども会、 PTA	消防団	シニアクラブ (老人クラブ)	趣味や娯楽のサークル	自主防災隊	祭り青年	ボランティア活動	その他	参加していない	無回答
全体	1,092	40.6	8.4	0.7	4.0	9.8	4.9	7.6	7.1	3.0	38.7	2.4
袋井北部地域	295	46.4	10.5	1.7	6.4	9.5	6.4	4.7	8.5	3.7	32.2	2.0
袋井中部地域	304	39.1	8.2	0.7	3.0	7.9	3.9	7.6	4.9	3.0	42.8	2.6
袋井南部地域	239	37.2	9.2	—	2.5	11.3	6.7	10.5	6.3	1.7	43.5	0.8
浅羽地域	226	38.9	5.8	0.4	2.7	9.3	2.2	8.8	8.4	4.0	37.6	3.5

問 14 で「自治会」～「その他」を選んだ方にお聞きします

問 15 地域活動やボランティア活動に参加している主な理由は何ですか。
(当てはまるものすべてに○)

「となり近所に住む者の義務だから」の割合が 37.0%と最も高く、次いで「なんとなく、昔からそうだから」の割合が 28.1%、「参加しないと住みづらくなるから」の割合が 26.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「なんとなく、昔からそうだから」の割合が増加しています。一方、「地域団体や自治会等の役員になっているから」「となり近所に住む者の義務だから」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	行事や活動の内容に興味や関心があるから	地域団体や自治会等の役員になっているから	となり近所に住む者の義務だから	大勢で活動するのが楽しいから	となり近所の人や知り合いに誘われるから	なんとなく、昔からそうだから	参加しないと住みづらくなるから	時間に余裕があるから	その他	無回答
全体	643	25.8	21.2	37.0	14.5	11.0	28.1	26.4	10.1	6.1	1.1
男性	331	24.8	24.8	40.2	11.2	12.1	29.9	29.0	9.7	5.1	0.6
女性	294	27.6	16.7	34.0	17.3	10.2	26.9	24.1	10.2	6.5	1.4

【年代別】

年代別にみると、20歳代で「なんとなく、昔からそうだから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	行事や活動の内容に興味や関心があるから	地域団体や自治会等の役員になっているから	となり近所に住む者の義務だから	大勢で活動するのが楽しいから	となり近所の人や知り合いに誘われるから	なんとなく、昔からそうだから	参加しないと住みづらくなるから	時間に余裕があるから	その他	無回答
全体	643	25.8	21.2	37.0	14.5	11.0	28.1	26.4	10.1	6.1	1.1
10歳代	13	38.5	—	7.7	15.4	7.7	15.4	7.7	15.4	7.7	—
20歳代	23	39.1	—	26.1	26.1	8.7	43.5	21.7	—	—	—
30歳代	46	17.4	8.7	34.8	13.0	13.0	39.1	39.1	2.2	6.5	—
40歳代	108	25.0	25.0	39.8	6.5	5.6	27.8	38.9	0.9	5.6	0.9
50歳代	108	20.4	24.1	42.6	9.3	6.5	31.5	35.2	0.9	4.6	1.9
60歳代	124	22.6	34.7	40.3	9.7	7.3	28.2	29.0	8.1	5.6	1.6
70歳代	149	29.5	18.1	37.6	19.5	17.4	22.8	15.4	23.5	8.7	0.7
80歳代以上	63	34.9	9.5	27.0	28.6	20.6	25.4	7.9	22.2	6.3	—

【地域別】

地域別にみると、浅羽地域で「地域団体や自治会等の役員になっているから」の割合が高くなっています。

単位：％

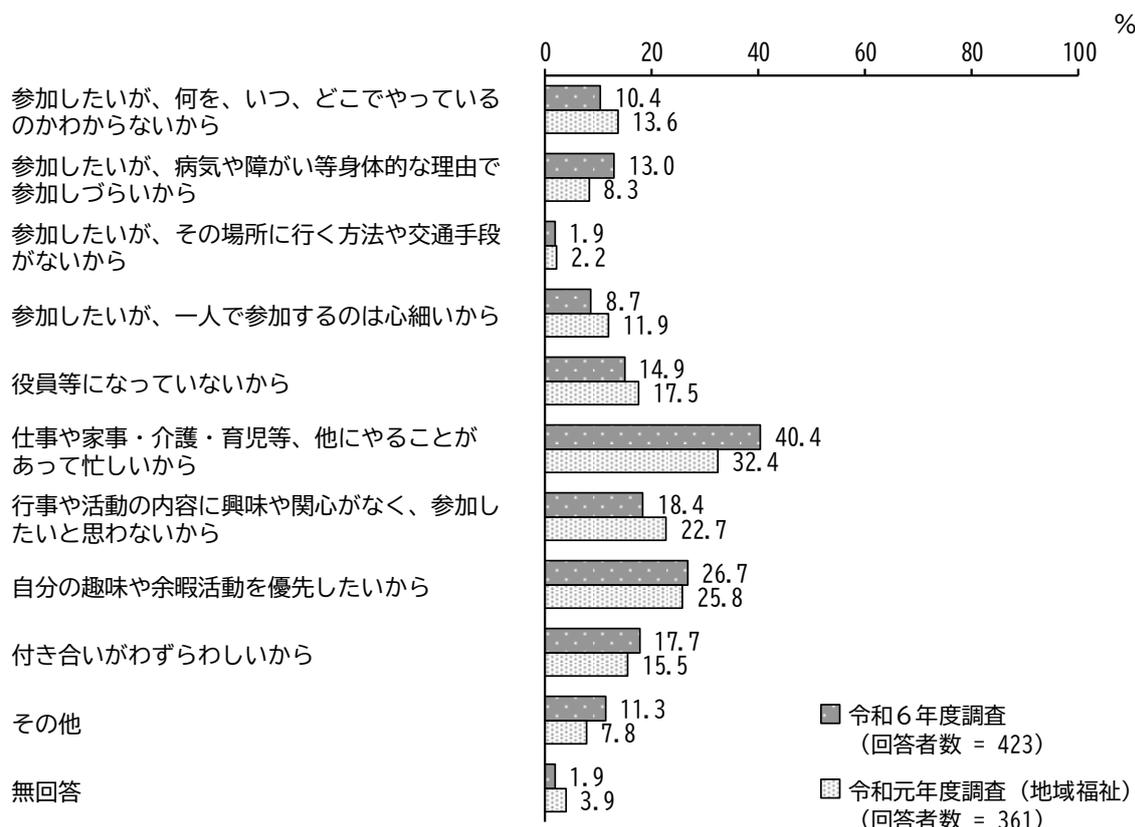
区分	回答者数(件)	行事や活動の内容に興味や関心があるから	地域団体や自治会等の役員になっているから	となり近所に住む者の義務だから	大勢で活動するのが楽しいから	となり近所の人や知り合いに誘われるから	なんとなく、昔からそうだから	参加しないと住みづらくなるから	時間に余裕があるから	その他	無回答
全体	643	25.8	21.2	37.0	14.5	11.0	28.1	26.4	10.1	6.1	1.1
袋井北部地域	194	26.3	20.6	37.6	15.5	13.9	26.3	25.8	11.9	6.2	—
袋井中部地域	166	26.5	19.3	39.2	12.7	9.6	34.3	28.9	9.0	5.4	1.2
袋井南部地域	133	27.1	14.3	35.3	18.0	8.3	24.1	27.1	10.5	7.5	3.0
浅羽地域	133	24.1	30.1	36.1	9.0	10.5	28.6	25.6	8.3	6.0	0.8

問 14 で「参加していない」と答えた方にお聞きします

問 16 地域活動やボランティア活動に参加していない主な理由は何ですか。
(当てはまるものすべてに○)

「仕事や家事・介護・育児等、他にやることがあって忙しいから」の割合が 40.4%と最も高く、次いで「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」の割合が 26.7%、「行事や活動の内容に興味や関心がなく、参加したいと思わないから」の割合が 18.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「仕事や家事・介護・育児等、他にやることがあって忙しいから」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、女性で「仕事や家事・介護・育児等、他にやることがあって忙しいから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	参加したいが、何を、いつ、どこでやっているのかわからないから	参加したいが、病気や障がい等身体的な理由で参加しづらいから	参加したいが、その場所に行く方法や交通手段がないから	参加したいが、一人で参加するのは心細いから	役員等になっていないから	仕事や家事・介護・育児等、他にやることがあって忙しいから	行事や活動の内容に興味や関心がなく、参加したいと思わないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	付き合いがわずらわしいから	その他	無回答
全体	423	10.4	13.0	1.9	8.7	14.9	40.4	18.4	26.7	17.7	11.3	1.9
男性	142	10.6	10.6	0.7	7.0	9.9	31.7	21.1	29.6	16.9	12.7	1.4
女性	271	10.3	14.0	2.2	10.0	17.0	45.4	17.0	25.8	18.5	10.7	1.8

【年代別】

年代別にみると、20 歳代で「仕事や家事・介護・育児等、他にやることがあって忙しいから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	参加したいが、何をいつどこでやっているかわからないから	参加したいが、病気や障がい等身体的な理由で参加しづらいから	参加したいが、その場所に行く方法や交通手段がないから	参加したいが、一人で参加するのは心細いから	役員等になっていないから	仕事や家事・介護・育児等、他にやることがあって忙しいから	味や関心がなく、参加したいと思わないから	行事や活動の内容に興味や関心がなく、参加したいと思わないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	付き合いがわずらわしいから	その他	無回答
全体	423	10.4	13.0	1.9	8.7	14.9	40.4	18.4	26.7	17.7	11.3	1.9	
10歳代	37	18.9	5.4	2.7	16.2	32.4	24.3	8.1	27.0	5.4	8.1	—	
20歳代	38	18.4	5.3	—	7.9	13.2	68.4	23.7	44.7	13.2	2.6	—	
30歳代	55	12.7	1.8	—	5.5	12.7	50.9	25.5	27.3	25.5	12.7	3.6	
40歳代	53	5.7	1.9	—	3.8	28.3	49.1	20.8	22.6	24.5	15.1	1.9	
50歳代	63	11.1	6.3	1.6	14.3	11.1	50.8	22.2	34.9	25.4	4.8	—	
60歳代	67	7.5	13.4	1.5	11.9	16.4	49.3	16.4	29.9	17.9	3.0	3.0	
70歳代	56	10.7	28.6	—	5.4	5.4	17.9	23.2	23.2	14.3	14.3	1.8	
80歳代以上	49	4.1	40.8	10.2	6.1	2.0	10.2	2.0	6.1	8.2	30.6	4.1	

【地域別】

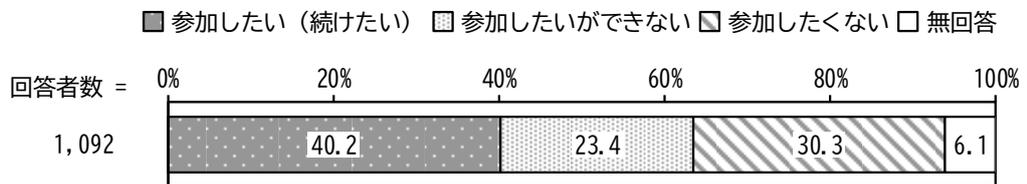
地域別にみると、袋井南部地域で「仕事や家事・介護・育児等、他にやることがあって忙しいから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	参加したいが、何をいつどこでやっているかわからないから	参加したいが、病気や障がい等身体的な理由で参加しづらいから	参加したいが、その場所に行く方法や交通手段がないから	参加したいが、一人で参加するのは心細いから	役員等になっていないから	仕事や家事・介護・育児等、他にやることがあって忙しいから	味や関心がなく、参加したいと思わないから	行事や活動の内容に興味や関心がなく、参加したいと思わないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	付き合いがわずらわしいから	その他	無回答
全体	423	10.4	13.0	1.9	8.7	14.9	40.4	18.4	26.7	17.7	11.3	1.9	
袋井北部地域	95	10.5	13.7	2.1	9.5	16.8	31.6	21.1	32.6	22.1	15.8	1.1	
袋井中部地域	130	9.2	15.4	0.8	10.8	13.8	42.3	20.0	25.4	19.2	8.5	1.5	
袋井南部地域	104	14.4	9.6	3.8	9.6	14.4	49.0	12.5	26.0	17.3	8.7	1.9	
浅羽地域	85	8.2	12.9	1.2	4.7	14.1	38.8	20.0	24.7	10.6	11.8	3.5	

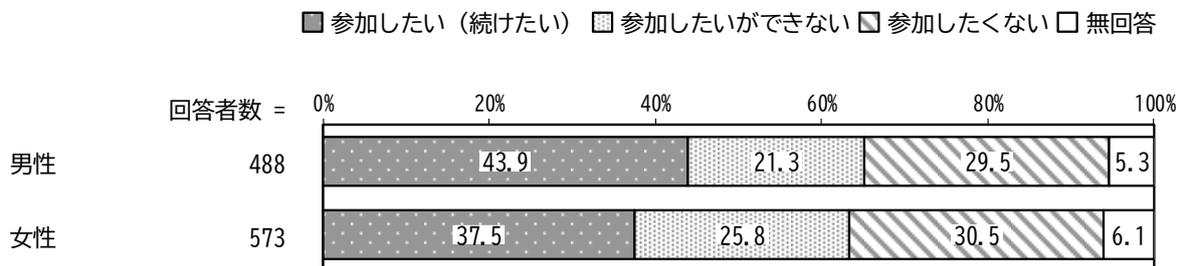
問17 あなたは今後、地域活動やボランティア活動に参加したい（続けたい）と思いますか。（○は1つ）

「参加したい（続けたい）」の割合が40.2%と最も高く、次いで「参加したくない」の割合が30.3%、「参加したいができない」の割合が23.4%となっています。



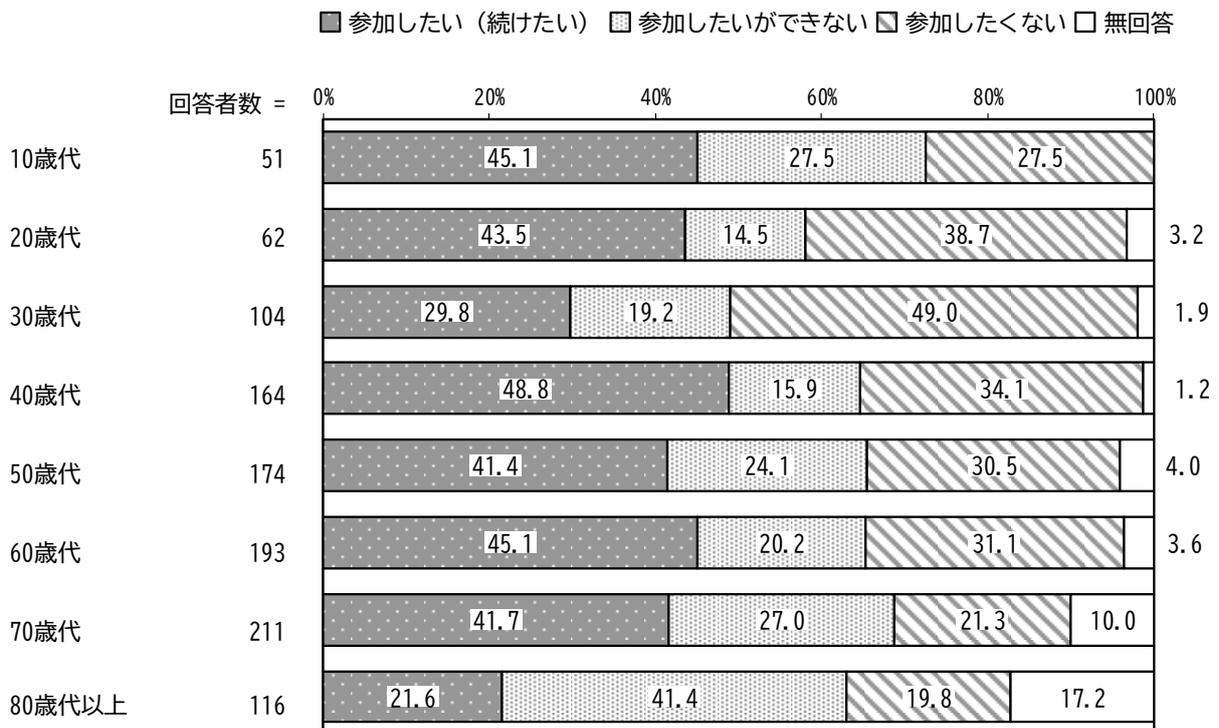
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年代別】

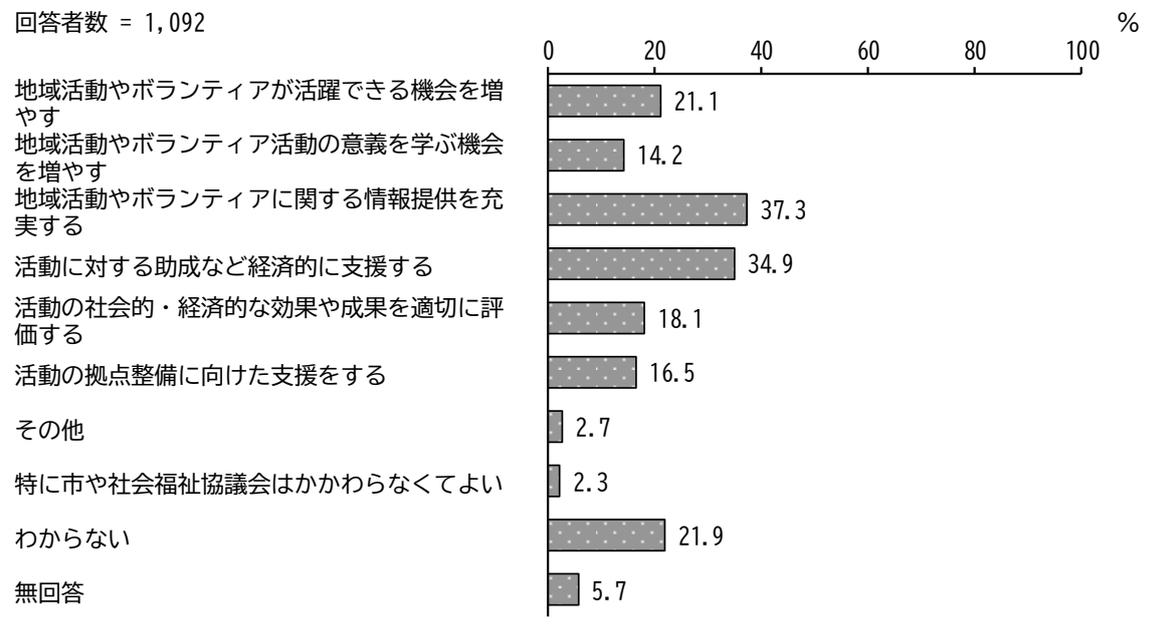
年代別にみると、30歳代で「参加したくない」の割合が高くなっています。



問 18 地域活動やボランティア活動を活性化するために、市や袋井市社会福祉協議会が行うべきサポートはどのようなものだと思いますか。(当てはまるものすべてに○)

「地域活動やボランティアに関する情報提供を充実する」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「活動に対する助成など経済的に支援する」の割合が 34.9%、「わからない」の割合が 21.9%となっています。

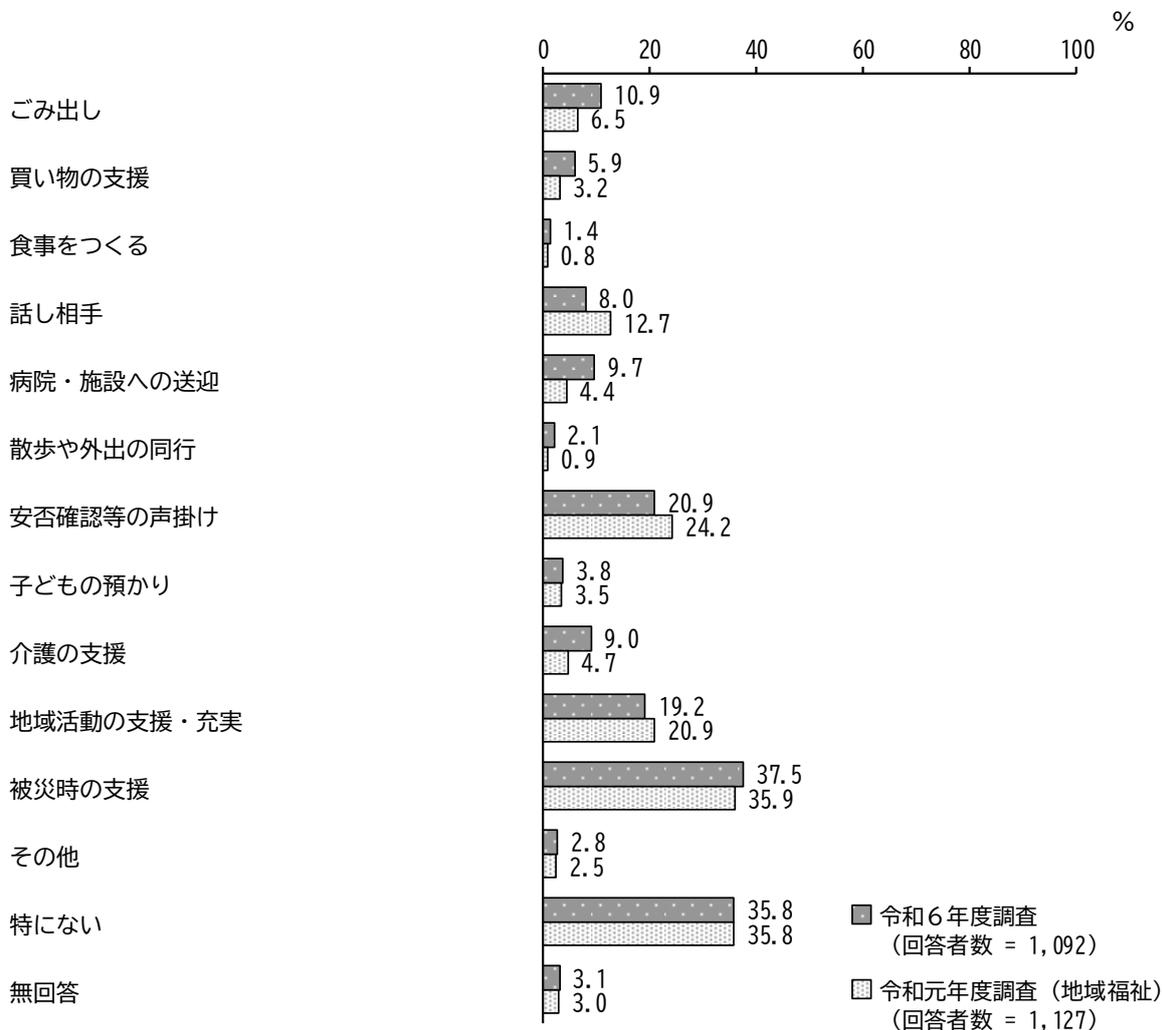
回答者数 = 1,092



問19 あなたは、現在お住まいの地域で生活するにあたって、地域や地域の人々に何を望みますか。(当てはまるものすべてに○)

「被災時の支援」の割合が37.5%と最も高く、次いで「特にない」の割合が35.8%、「安否確認等の声掛け」の割合が20.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「病院・施設への送迎」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	ごみ出し	買い物の支援	食事をつくる	話し相手	病院・施設への送迎	散歩や外出の同行	安否確認等の声掛け	子どもの預かり	介護の支援	地域活動の支援・充実	被災時の支援	その他	特にない	無回答
全体	1,092	10.9	5.9	1.4	8.0	9.7	2.1	20.9	3.8	9.0	19.2	37.5	2.8	35.8	3.1
男性	488	13.1	5.1	1.2	8.0	8.6	1.2	18.9	3.5	8.8	23.4	34.2	3.5	35.0	2.5
女性	573	8.9	6.3	1.4	8.0	10.1	2.6	22.3	4.4	9.2	15.9	40.5	1.9	37.9	3.3

【年代別】

年代別にみると、30歳代で「安否確認等の声掛け」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	ごみ出し	買い物の支援	食事をつくる	話し相手	病院・施設への送迎	散歩や外出の同行	安否確認等の声掛け	子どもの預かり	介護の支援	地域活動の支援・充実	被災時の支援	その他	特にない	無回答
全体	1,092	10.9	5.9	1.4	8.0	9.7	2.1	20.9	3.8	9.0	19.2	37.5	2.8	35.8	3.1
10歳代	51	11.8	7.8	2.0	—	7.8	—	11.8	2.0	3.9	17.6	41.2	—	47.1	—
20歳代	62	17.7	3.2	1.6	6.5	9.7	1.6	17.7	8.1	4.8	19.4	37.1	1.6	41.9	1.6
30歳代	104	11.5	9.6	2.9	8.7	10.6	2.9	27.9	12.5	7.7	24.0	38.5	1.9	34.6	1.9
40歳代	164	11.6	3.0	0.6	9.1	6.7	1.8	22.0	9.8	9.8	17.1	43.9	1.2	32.9	0.6
50歳代	174	12.1	6.9	1.7	9.2	10.9	3.4	22.4	2.3	13.2	18.4	40.2	2.3	36.2	2.9
60歳代	193	8.8	4.7	1.0	5.7	7.8	1.0	22.3	1.0	8.3	22.8	43.0	5.2	34.7	2.1
70歳代	211	9.5	5.2	0.9	7.6	9.5	2.4	17.1	0.5	7.6	19.4	31.3	3.8	38.4	2.8
80歳代以上	116	9.5	8.6	1.7	13.8	13.8	2.6	19.8	—	11.2	14.7	25.0	3.4	33.6	9.5

【地域別】

地域別にみると、袋井北部地域で「安否確認等の声掛け」の割合が高くなっています。

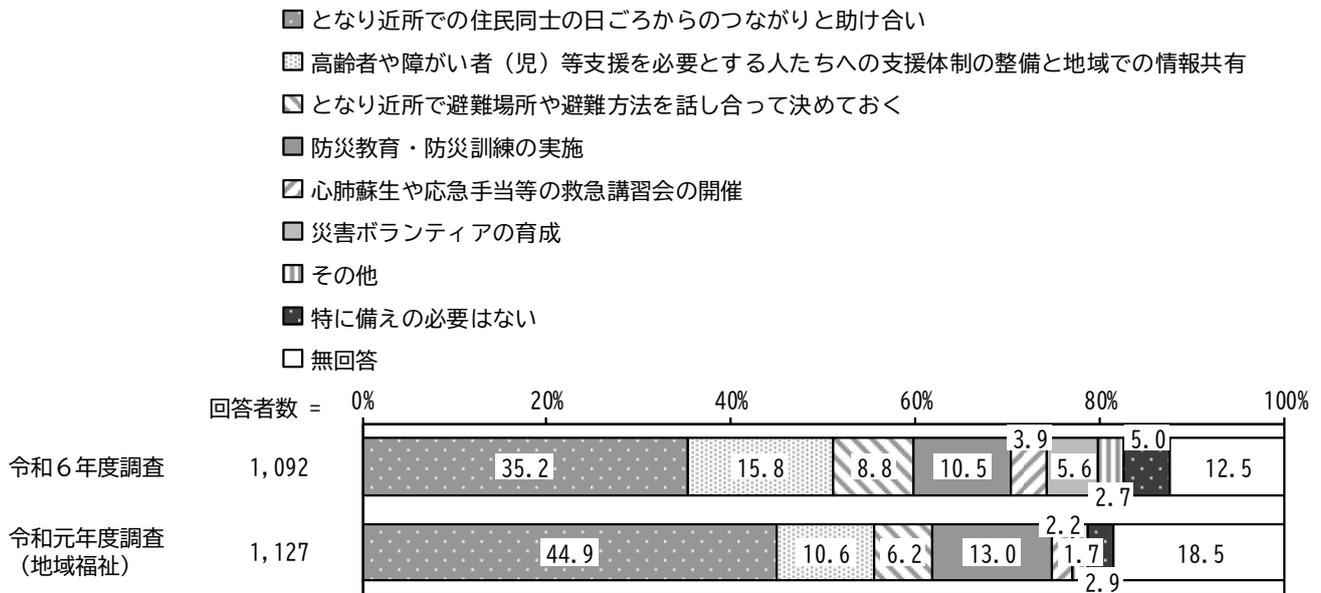
単位：％

区分	回答者数(件)	ごみ出し	買い物の支援	食事をつくる	話し相手	病院・施設への送迎	散歩や外出の同行	安否確認等の声掛け	子どもの預かり	介護の支援	地域活動の支援・充実	被災時の支援	その他	特にない	無回答
全体	1,092	10.9	5.9	1.4	8.0	9.7	2.1	20.9	3.8	9.0	19.2	37.5	2.8	35.8	3.1
袋井北部地域	295	10.5	5.4	1.4	10.2	11.5	1.0	27.1	6.1	11.2	23.7	43.1	2.7	27.5	3.1
袋井中部地域	304	13.2	4.9	1.3	5.3	8.2	2.6	15.8	3.0	7.6	15.5	33.2	3.0	39.8	2.0
袋井南部地域	239	10.5	7.9	2.1	5.9	8.8	2.5	21.3	3.8	7.5	19.2	40.2	2.9	36.0	2.9
浅羽地域	226	9.3	5.8	0.9	10.2	10.2	2.7	19.0	2.7	10.2	19.9	34.5	3.1	42.9	2.7

問 20 災害に対して、地域で最も必要だと思う備えはどれだと思いますか。(〇は1つ)

「となり近所での住民同士の日ごろからのつながりと助け合い」の割合が 35.2%と最も高く、次いで「高齢者や障がい者（児）等支援を必要とする人たちへの支援体制の整備と地域での情報共有」の割合が 15.8%、「防災教育・防災訓練の実施」の割合が 10.5%となっています。

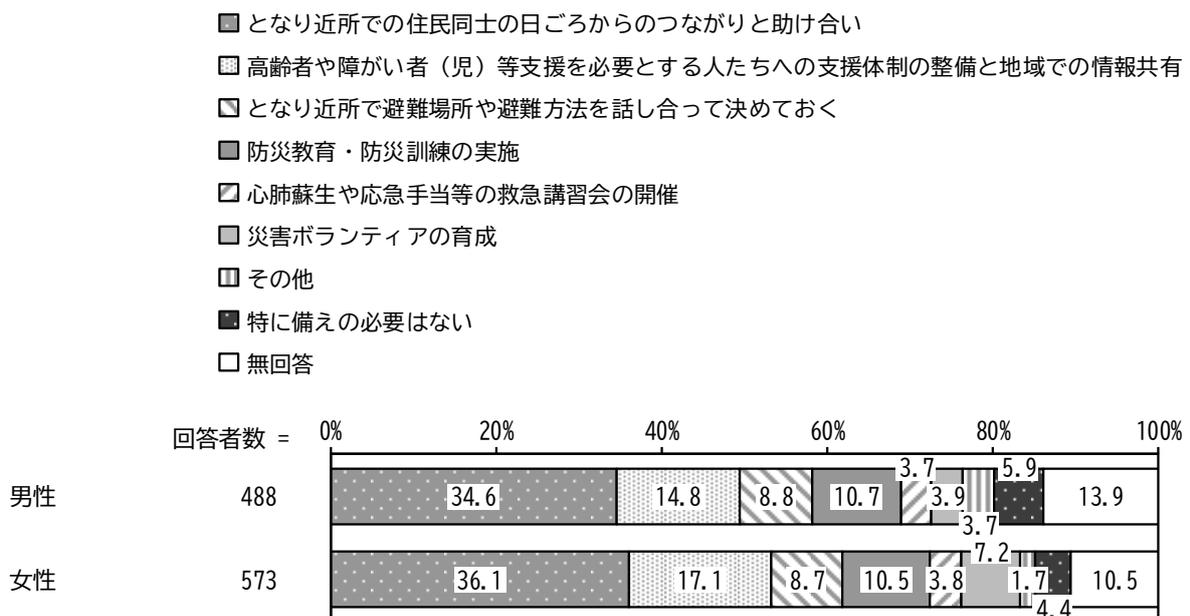
令和元年度調査と比較すると、「高齢者や障がい者（児）等支援を必要とする人たちへの支援体制の整備と地域での情報共有」の割合が増加しています。一方、「となり近所での住民同士の日ごろからのつながりと助け合い」の割合が減少しています。



※前回調査では、「災害ボランティアの育成」の選択肢はありませんでした。

【性別】

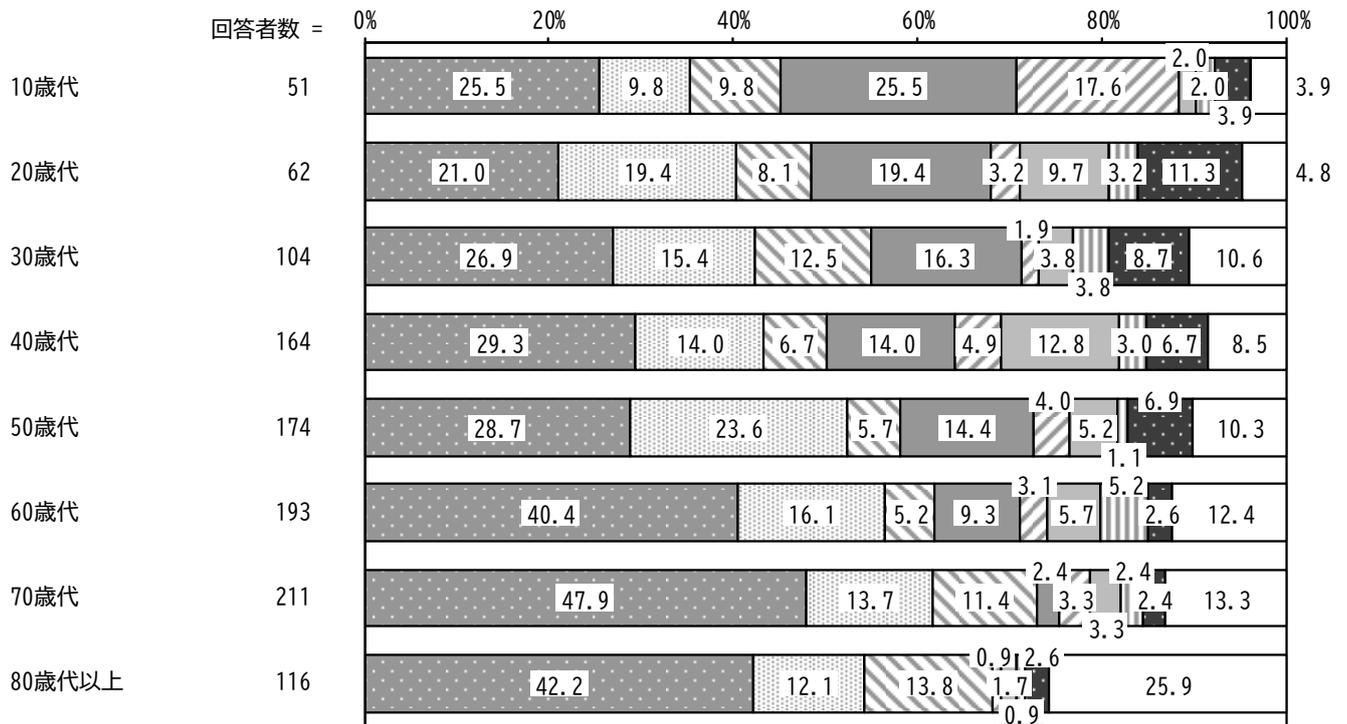
性別にみると、大きな差はみられません。



【年代別】

年代別にみると、10歳代で「防災教育・防災訓練の実施」の割合が高くなっています。

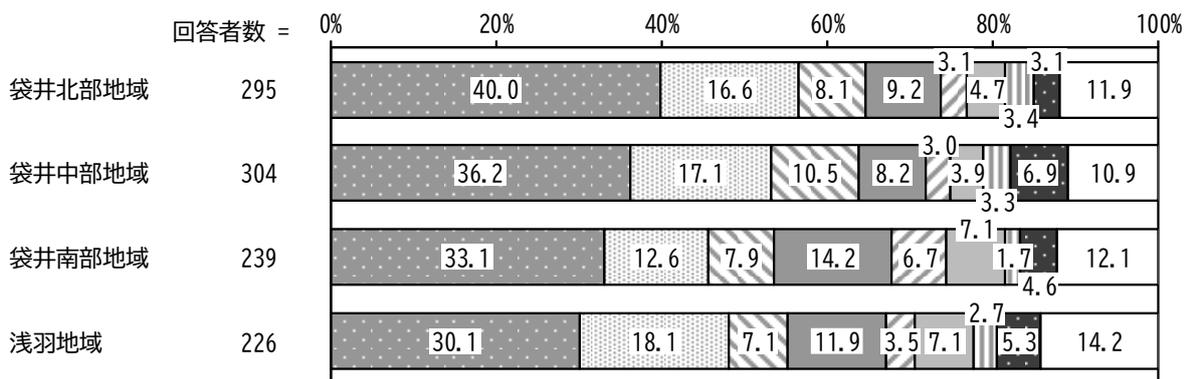
- とおり近所での住民同士の日ごろからのつながりと助け合い
- ▨ 高齢者や障がい者（児）等支援を必要とする人たちへの支援体制の整備と地域での情報共有
- ▩ とおり近所で避難場所や避難方法を話し合っておく
- 防災教育・防災訓練の実施
- ▨ 心肺蘇生や応急手当等の救急講習会の開催
- ▩ 災害ボランティアの育成
- ▨ その他
- 特に備えの必要はない
- 無回答



【地域別】

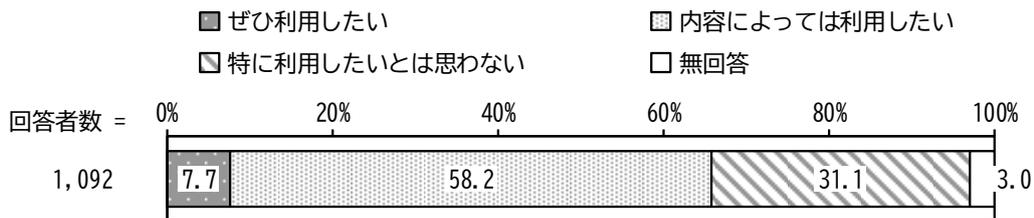
地域別にみると、大きな差はみられません。

- とおり近所での住民同士の日ごろからのつながりと助け合い
- ▨ 高齢者や障がい者（児）等支援を必要とする人たちへの支援体制の整備と地域での情報共有
- ▩ とおり近所で避難場所や避難方法を話し合っておく
- 防災教育・防災訓練の実施
- ▨ 心肺蘇生や応急手当等の救急講習会の開催
- 災害ボランティアの育成
- ▩ その他
- 特に備えの必要はない
- 無回答



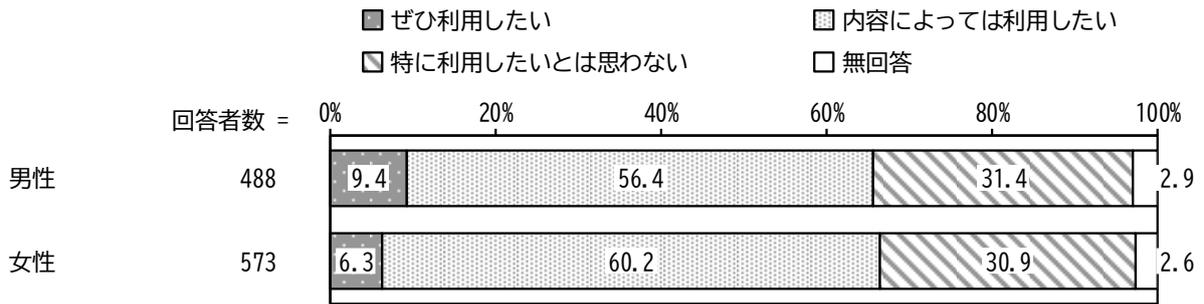
問 21 近くに地域の方々が気軽に集うことができる場所があれば利用したいですか
(〇は1つ)

「内容によっては利用したい」の割合が 58.2%と最も高く、次いで「特に利用したいとは思わない」の割合が 31.1%、「ぜひ利用したい」の割合が 7.7%となっています。



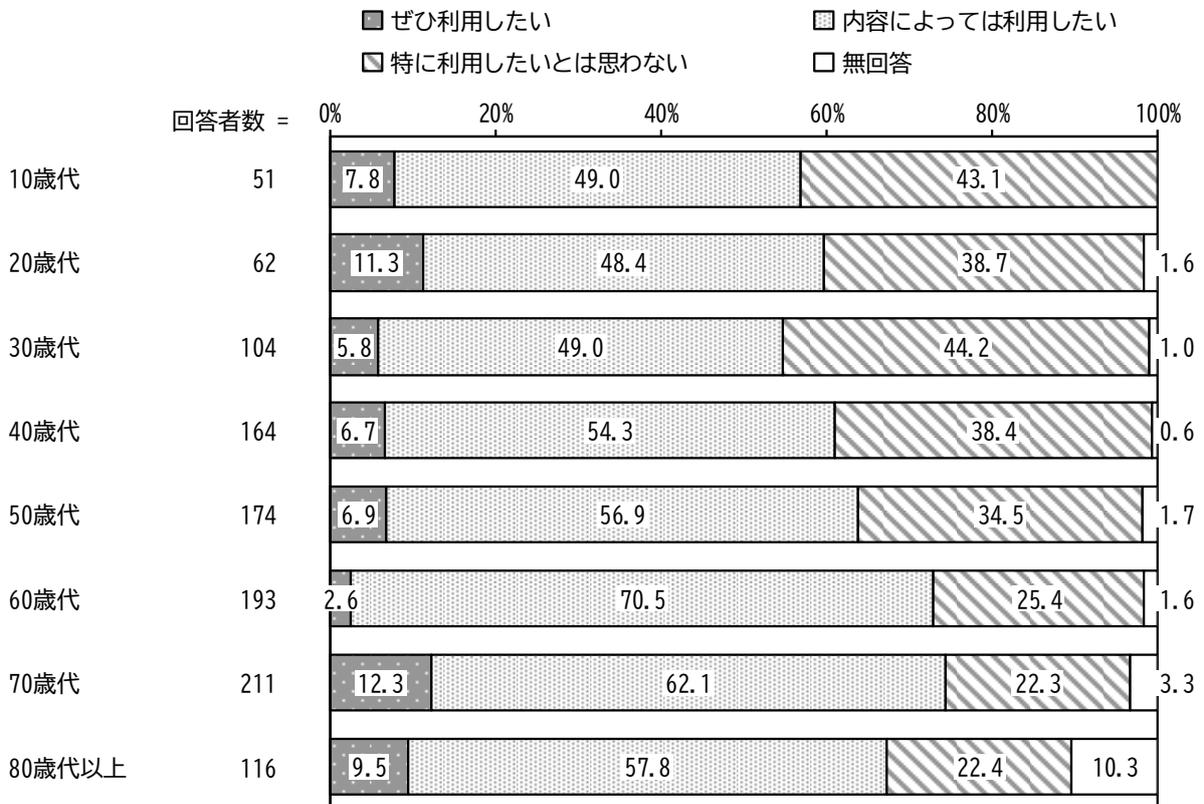
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



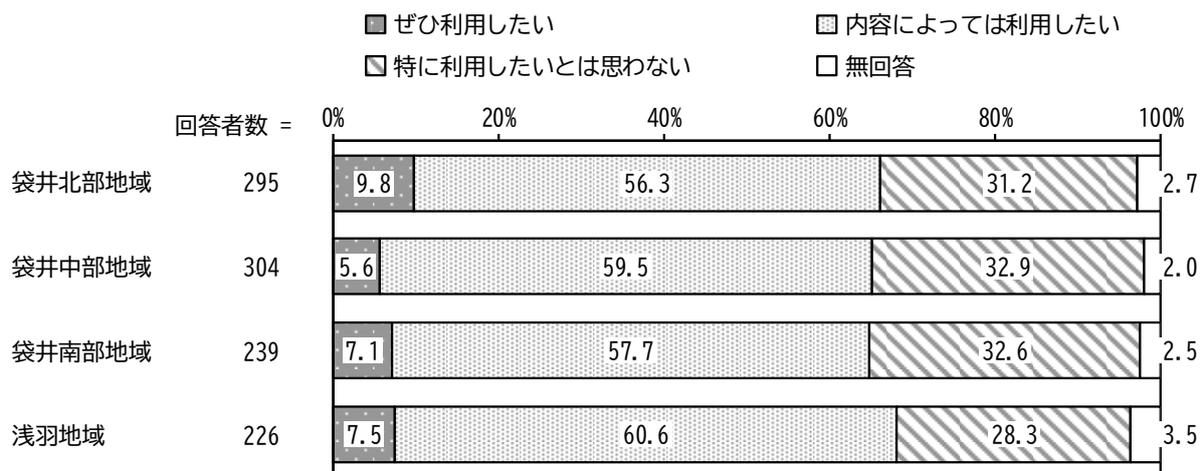
【年代別】

年代別にみると、30歳代で「特に利用したいとは思わない」の割合が高くなっています。



【地域別】

地域別にみると、大きな差はみられません。

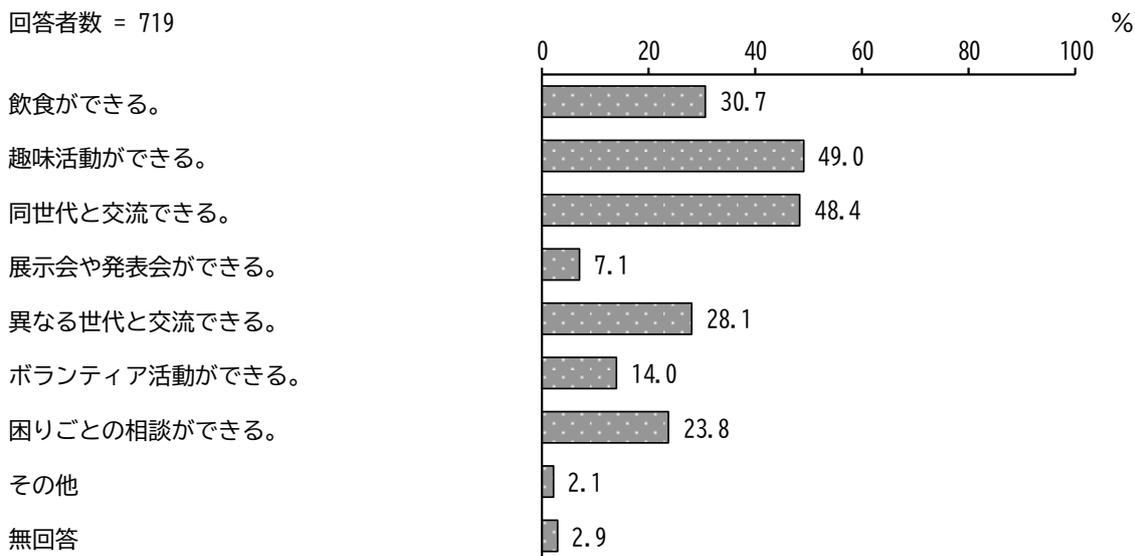


問 21 で「ぜひ利用したい」または「内容によっては利用したい」を選んだ方にお聞きします

問 21-1 どのような機能を期待しますか。(当てはまるものすべてに○)

「趣味活動ができる。」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「同世代と交流できる。」の割合が 48.4%、「飲食ができる。」の割合が 30.7%となっています。

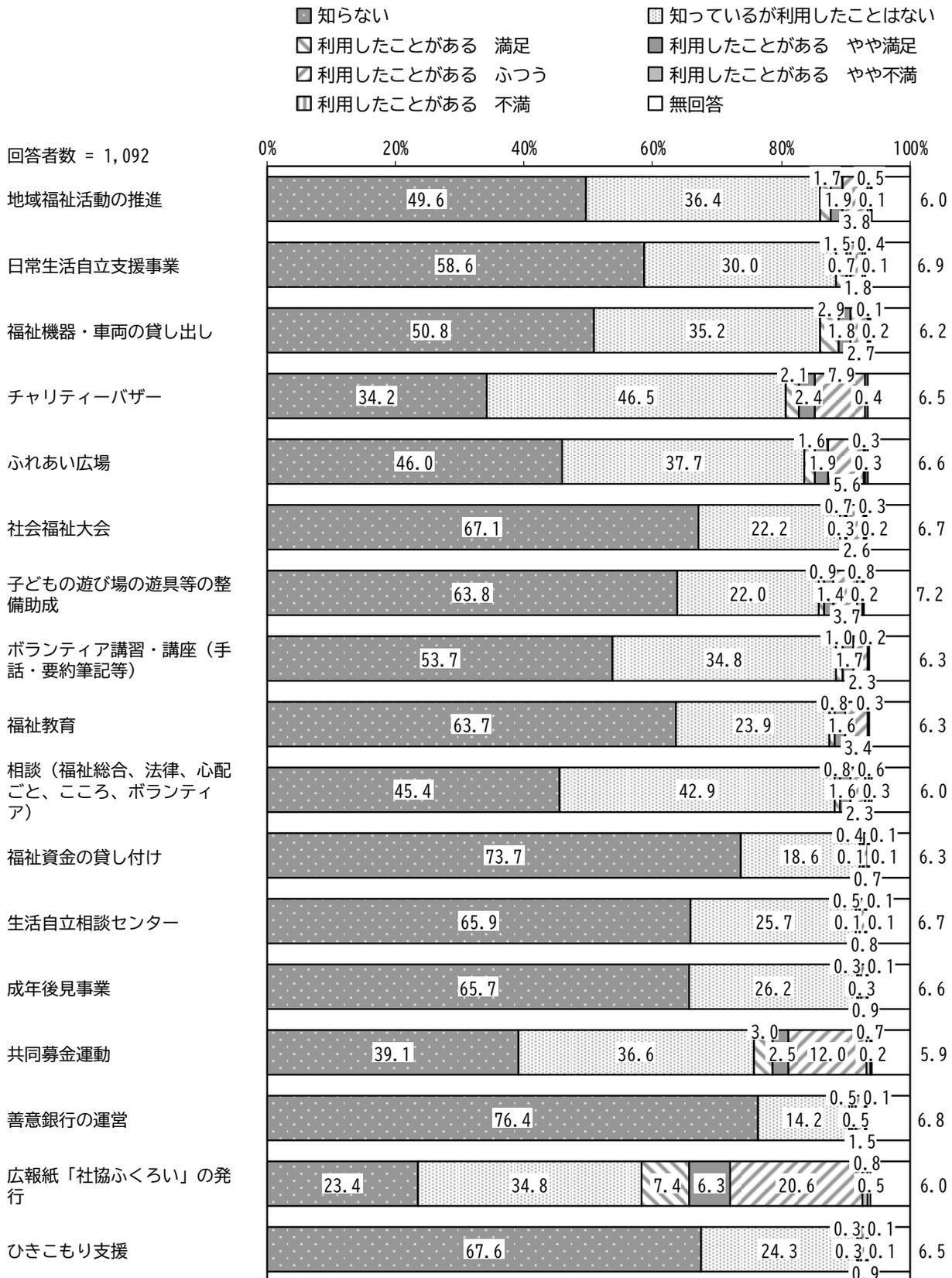
回答者数 = 719



(4) 福祉サービス、制度について

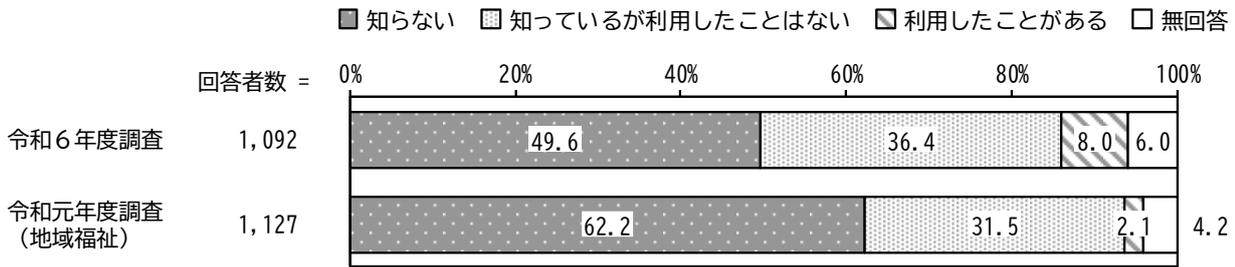
問 22 あなたは、社会福祉協議会について知っていますか。また、あなた自身や家族が利用したことがあれば、その満足の度合いはどの程度ですか。(〇はそれぞれ1つ)

『広報紙「社協ふくろい」の発行』で「知らない」の割合が低く、「利用したことがある ふつう」の割合が高くなっています。



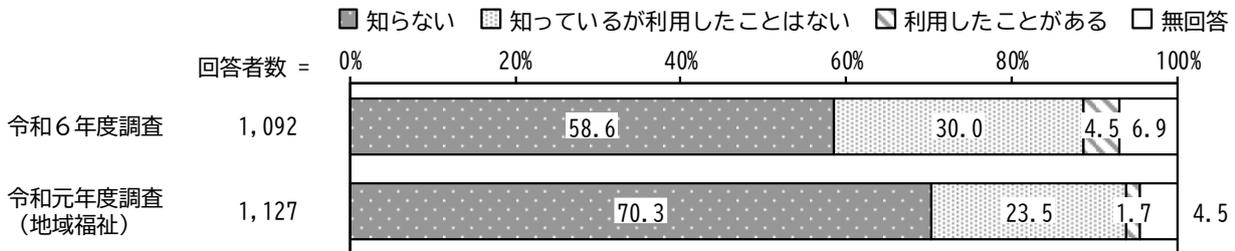
①地域福祉活動の推進

令和元年度調査と比較すると、「利用したことがある」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



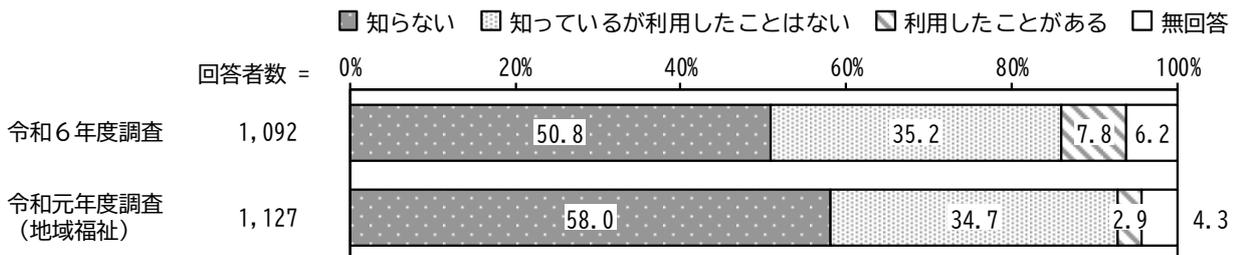
②日常生活自立支援事業

令和元年度調査と比較すると、「知っているが利用したことはない」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



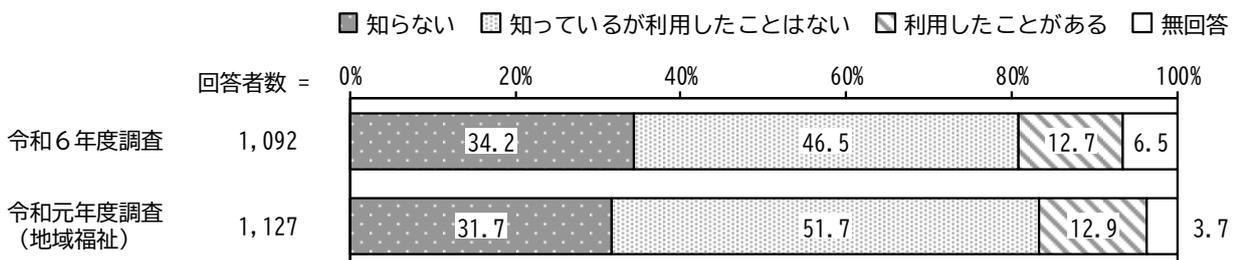
③福祉機器・車両の貸し出し

令和元年度調査と比較すると、「知らない」の割合が減少しています。



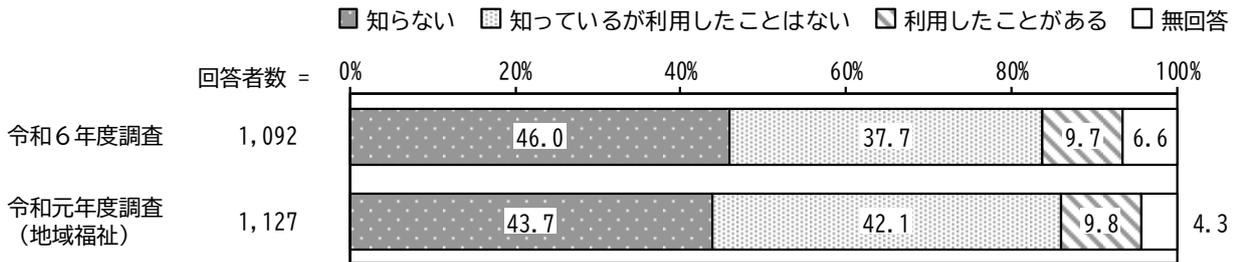
④チャリティーバザー

令和元年度調査と比較すると、「知っているが利用したことはない」の割合が減少しています。



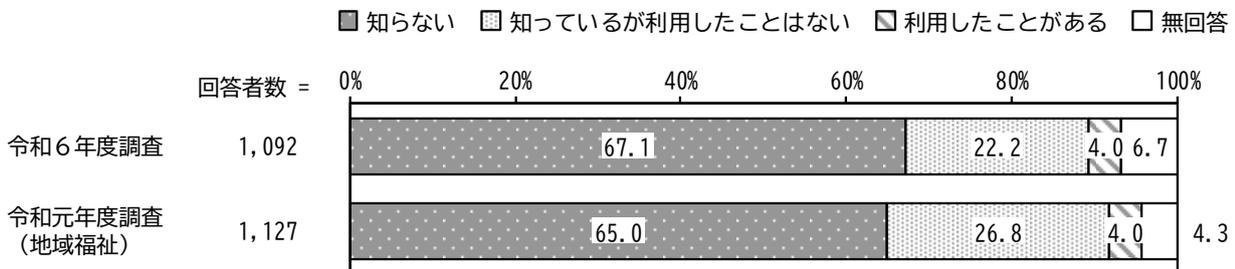
⑤ふれあい広場

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



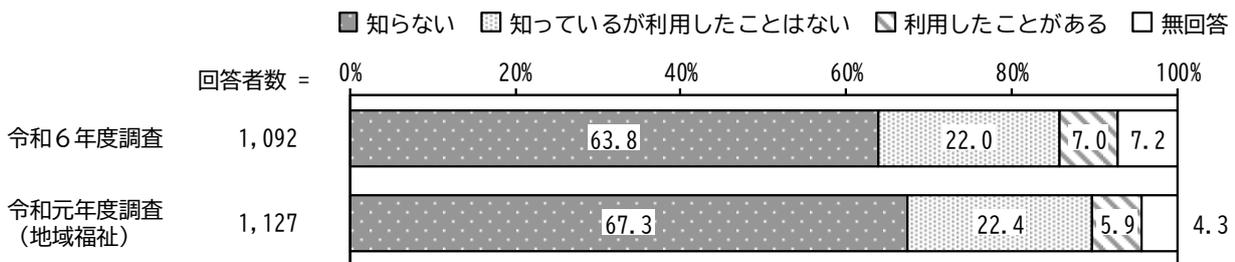
⑥社会福祉大会

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



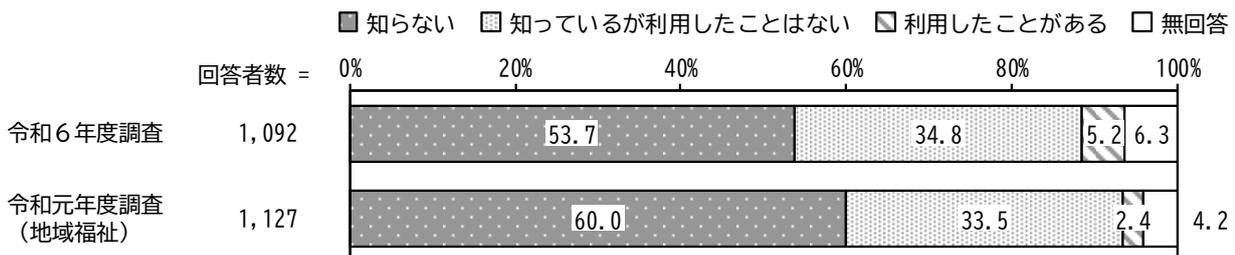
⑦子どもの遊び場の遊具等の整備助成

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



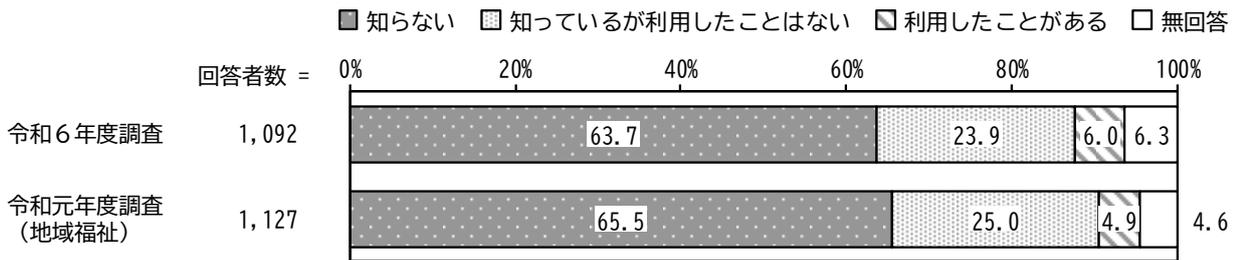
⑧ボランティア講習・講座 (手話・要約筆記等)

令和元年度調査と比較すると、「知らない」の割合が減少しています。



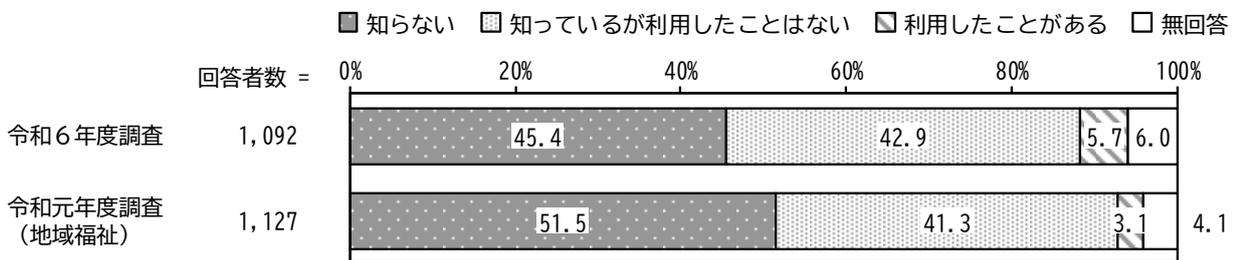
⑨福祉教育（実践校＜小・中・高＞活動支援、小・中・高ふれあい体験事業等）

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



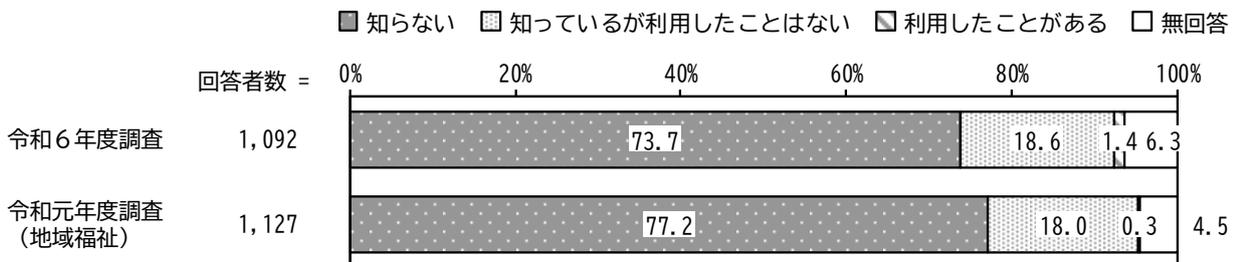
⑩相談（福祉総合、法律、心配ごと、こころ、ボランティア）

令和元年度調査と比較すると、「知らない」の割合が減少しています。



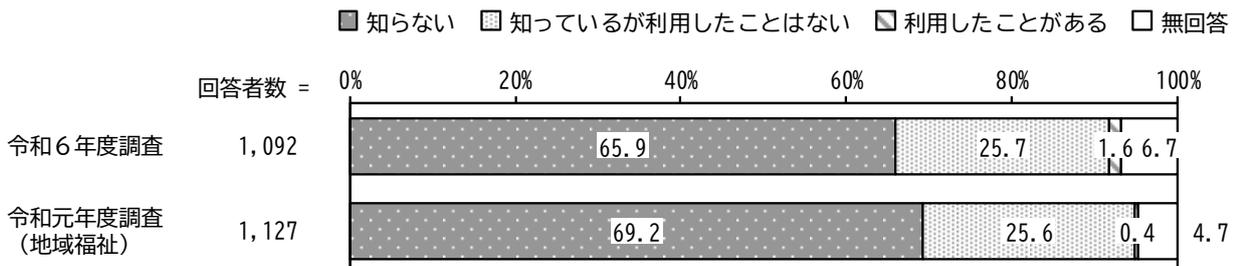
⑪福祉資金の貸し付け

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



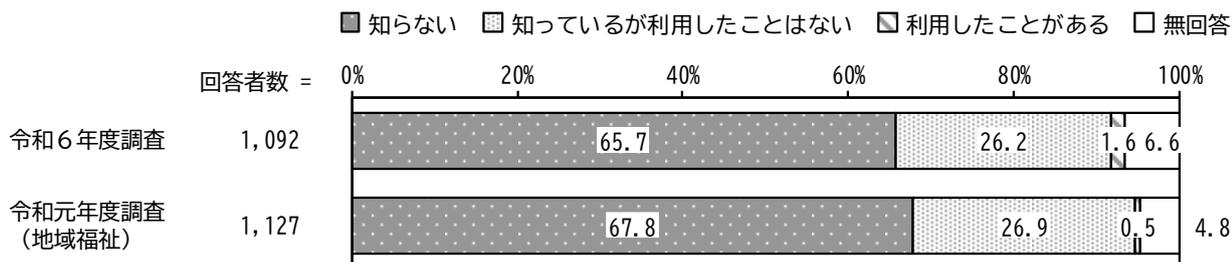
⑫生活自立相談センター

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



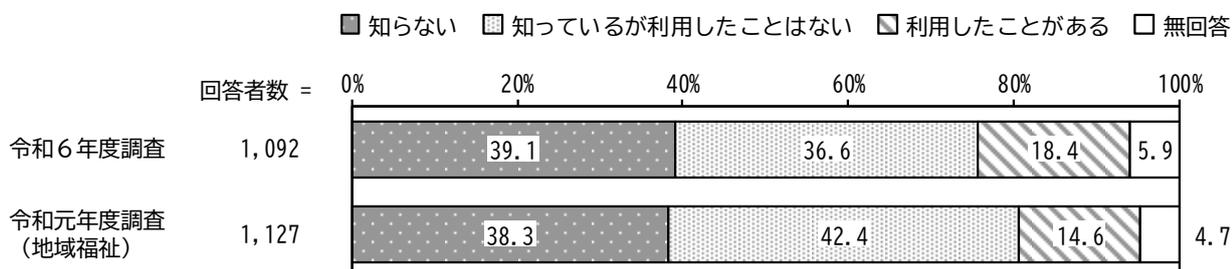
⑬成年後見事業

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



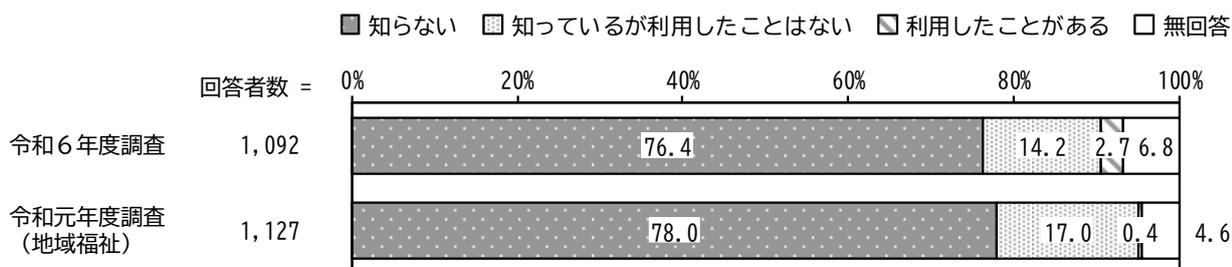
⑭共同募金運動

令和元年度調査と比較すると、「知っているが利用したことはない」の割合が減少しています。



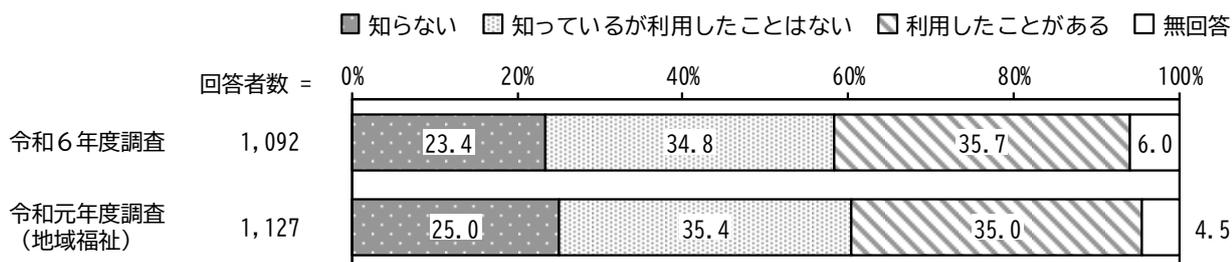
⑮善意銀行の運営

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



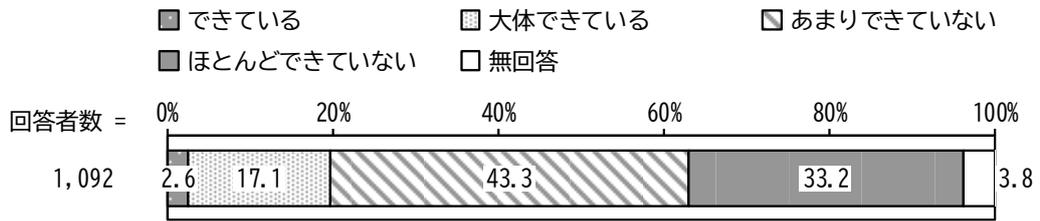
⑯広報紙「社協ふくろい」の発行

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



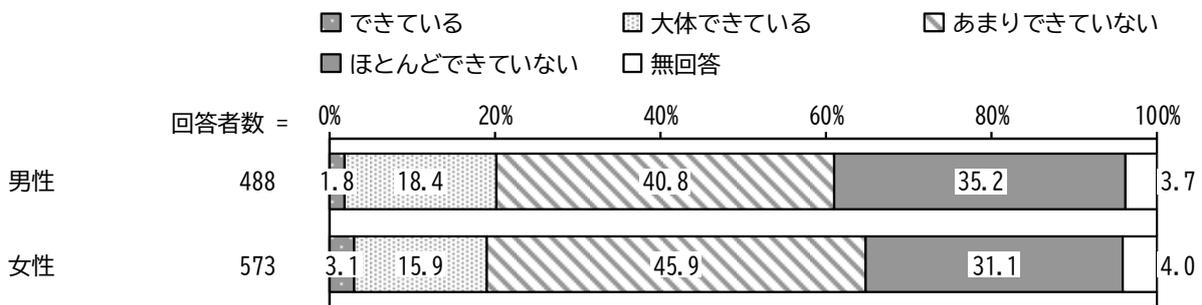
問 23 あなたは、袋井市の福祉サービス情報が十分に入手できていますか。(〇は1つ)

「あまりできていない」の割合が43.3%と最も高く、次いで「ほとんどできていない」の割合が33.2%、「大体できている」の割合が17.1%となっています。



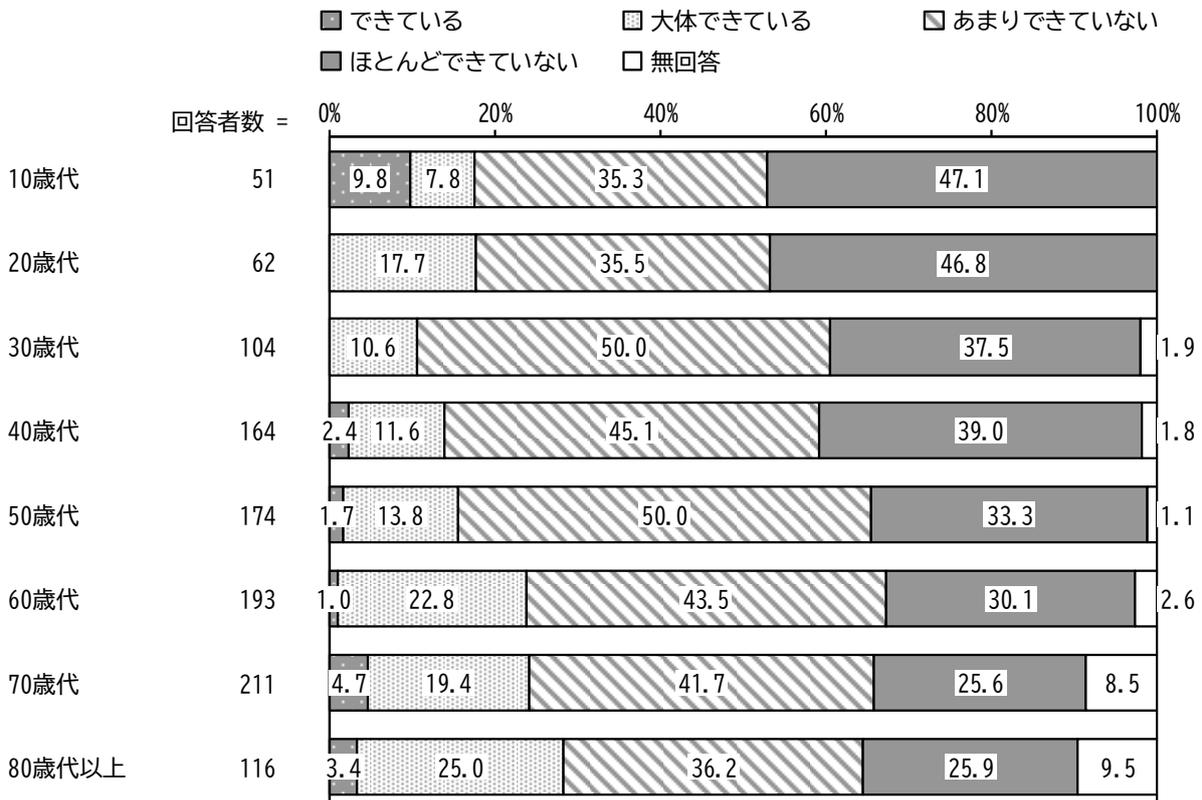
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年代別】

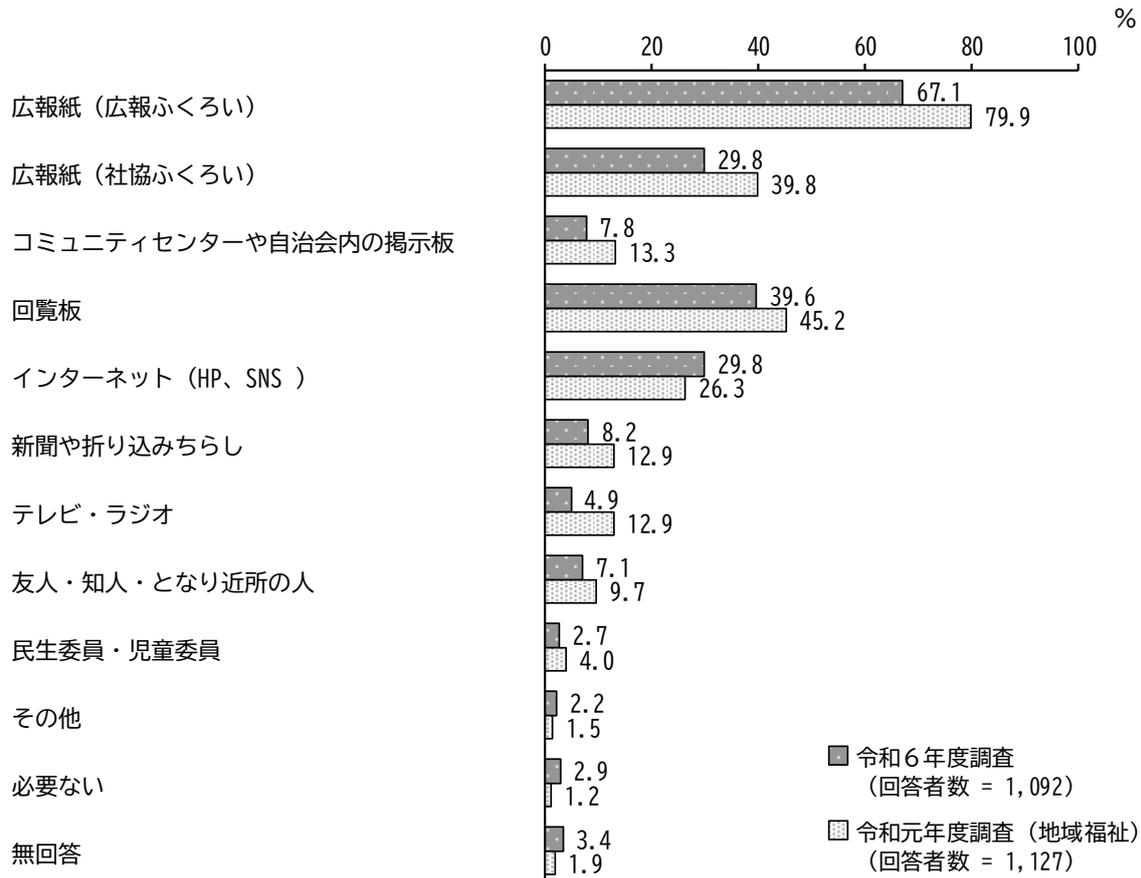
年代別にみると、10歳代で「ほとんどできていない」の割合が高くなっています。



問 24 あなたは、福祉サービスや地域福祉に関する情報をどのような方法で知りたいですか。(当てはまるものすべてに○)

「広報紙（広報ふくろい）」の割合が 67.1%と最も高く、次いで「回覧板」の割合が 39.6%、「広報紙（社協ふくろい）」、「インターネット（HP、SNS）」の割合が 29.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「広報紙（広報ふくろい）」「広報紙（社協ふくろい）」「コミュニティセンターや自治会内の掲示版」「回覧板」「テレビ・ラジオ」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	広報紙 (広報ふくろい)	広報紙 (社協ふくろい)	コミュニティセンターや自治会内の掲示版	回覧板	インターネット (HP、SNS)	新聞や折り込みチラシ	テレビ・ラジオ	友人・知人・となり近所の人	民生委員・児童委員	その他	必要ない	無回答
全体	1,092	67.1	29.8	7.8	39.6	29.8	8.2	4.9	7.1	2.7	2.2	2.9	3.4
男性	488	62.3	25.4	9.6	39.1	32.4	7.2	5.3	5.9	3.1	1.6	3.3	3.5
女性	573	71.9	33.9	6.5	40.5	28.3	9.1	4.9	7.9	2.4	2.3	2.8	3.0

【年代別】

年代別にみると、10歳代で「インターネット（HP、SNS）」の割合が高くなっています。

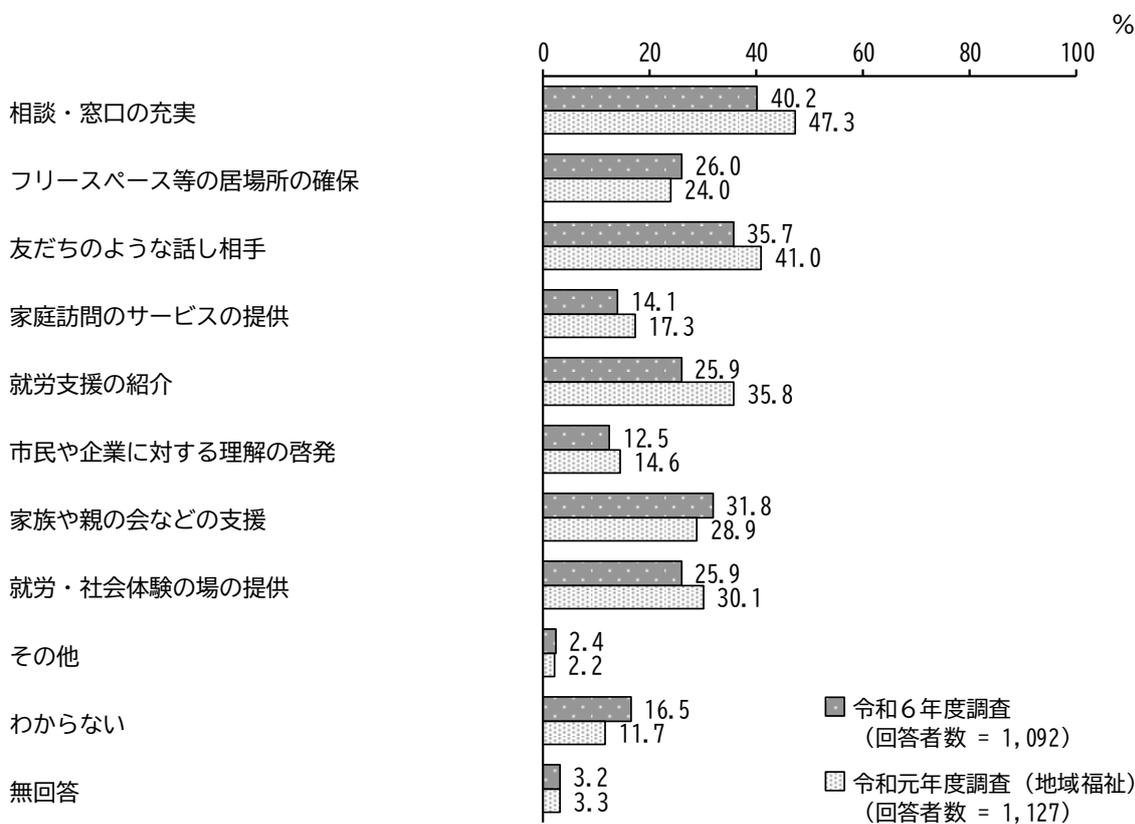
単位：％

区分	回答者数 (件)	広報紙 (広報かくろい)	広報紙 (社協かくろい)	コミュニティセンター や自治会内の掲示板	回覧板	インターネット (HP、SNS)	新聞や折り込みちらし	テレビ・ラジオ	友人・知人・となり近所	民生委員・児童委員	その他	必要ない	無回答
全体	1,092	67.1	29.8	7.8	39.6	29.8	8.2	4.9	7.1	2.7	2.2	2.9	3.4
10歳代	51	43.1	3.9	3.9	29.4	51.0	11.8	17.6	7.8	—	2.0	7.8	—
20歳代	62	41.9	8.1	3.2	25.8	50.0	8.1	9.7	11.3	1.6	3.2	12.9	—
30歳代	104	69.2	14.4	7.7	24.0	46.2	4.8	6.7	1.9	—	1.9	5.8	2.9
40歳代	164	68.3	15.9	7.3	26.8	36.0	4.3	1.2	1.2	0.6	1.8	1.8	0.6
50歳代	174	70.1	28.7	8.0	28.2	42.0	6.9	4.0	8.0	1.1	1.7	3.4	1.1
60歳代	193	77.7	40.9	10.4	53.9	32.1	10.9	2.1	5.7	1.6	2.6	0.5	1.0
70歳代	211	70.6	46.9	8.5	60.2	9.5	8.5	5.2	8.5	4.3	2.4	1.9	5.7
80歳代以上	116	61.2	37.9	7.8	40.5	1.7	12.1	6.9	16.4	11.2	1.7	—	12.9

問 25 ひきこもりの方が必要とするものは何だと思えますか。(当てはまるものすべてに○)

「相談・窓口の充実」の割合が40.2%と最も高く、次いで「友だちのような話し相手」の割合が35.7%、「家族や親の会などの支援」の割合が31.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「相談・窓口の充実」「友だちのような話し相手」「就労支援の紹介」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、女性で「家族や親の会などの支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	実相談・窓口の充	保等の居場所の確	フリースペース	話し相手	友だちのような話し相手	家庭訪問のサービスの提供	就労支援の紹介	市民や企業に対する理解の啓発	家族や親の会などの支援	就労・社会体験の場の提供	その他	わからない	無回答
全体	1,092	40.2	26.0	35.7	14.1	25.9	12.5	31.8	25.9	2.4	16.5	3.2		
男性	488	38.9	19.7	36.3	16.2	24.0	10.9	23.8	23.4	2.9	17.6	3.5		
女性	573	42.4	30.9	35.1	12.7	27.4	13.8	39.3	28.4	1.7	15.5	3.0		

【年代別】

年代別にみると、10歳代で「友だちのような話し相手」の割合が高くなっています。

単位：％

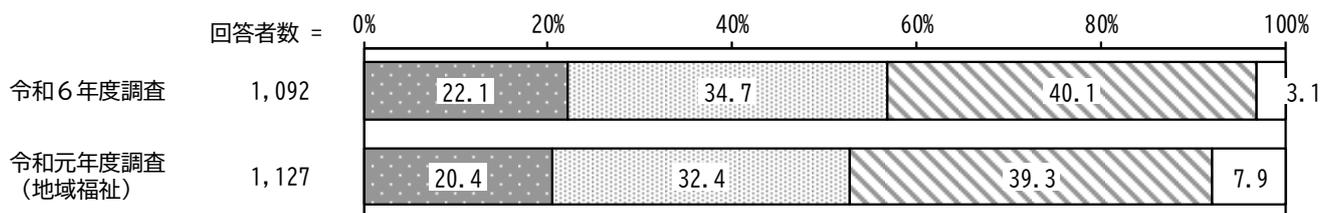
区分	回答者数 (件)	実相談・窓口の充	保等の居場所の確	フリースペース	話し相手	友だちのような話し相手	家庭訪問のサービスの提供	就労支援の紹介	市民や企業に対する理解の啓発	家族や親の会などの支援	就労・社会体験の場の提供	その他	わからない	無回答
全体	1,092	40.2	26.0	35.7	14.1	25.9	12.5	31.8	25.9	2.4	16.5	3.2		
10歳代	51	33.3	23.5	56.9	5.9	13.7	7.8	27.5	23.5	3.9	17.6	—		
20歳代	62	27.4	14.5	37.1	17.7	21.0	16.1	16.1	21.0	6.5	22.6	—		
30歳代	104	34.6	30.8	37.5	13.5	34.6	15.4	36.5	29.8	2.9	8.7	1.9		
40歳代	164	34.8	25.0	42.1	11.0	26.8	14.6	37.8	34.8	4.3	11.6	1.2		
50歳代	174	43.7	24.7	33.3	12.6	30.5	10.9	36.8	28.7	1.7	18.4	1.1		
60歳代	193	47.2	34.2	24.9	14.0	27.5	11.4	35.2	27.5	1.6	19.2	1.0		
70歳代	211	46.0	26.5	37.0	19.0	25.6	14.2	28.4	22.7	0.9	19.0	4.7		
80歳代以上	116	38.8	13.8	31.0	15.5	15.5	8.6	24.1	12.1	1.7	16.4	13.8		

問 26 判断能力が不十分な高齢者や障がい者の権利を保護する「成年後見制度」についてお聞きします。あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

「知らない」の割合が 40.1%と最も高く、次いで「制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が 34.7%、「どういった制度か知っている」の割合が 22.1%となっています。

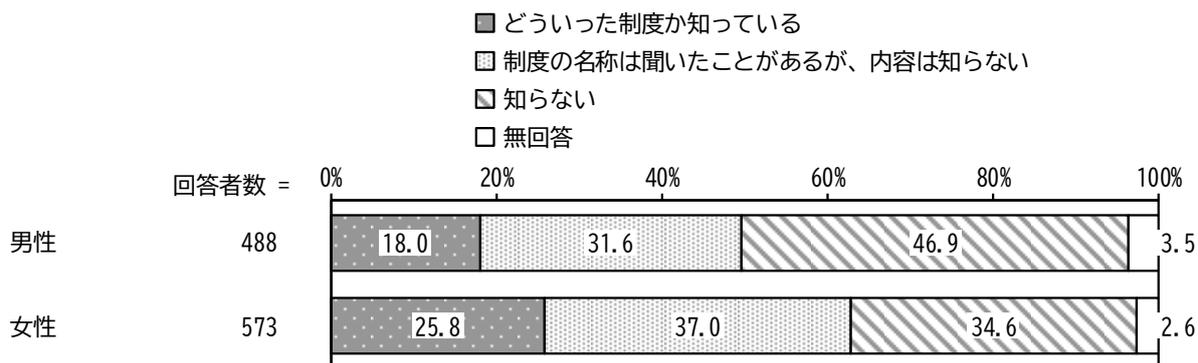
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

- どういった制度か知っている
- ▨ 制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない
- ▩ 知らない
- 無回答



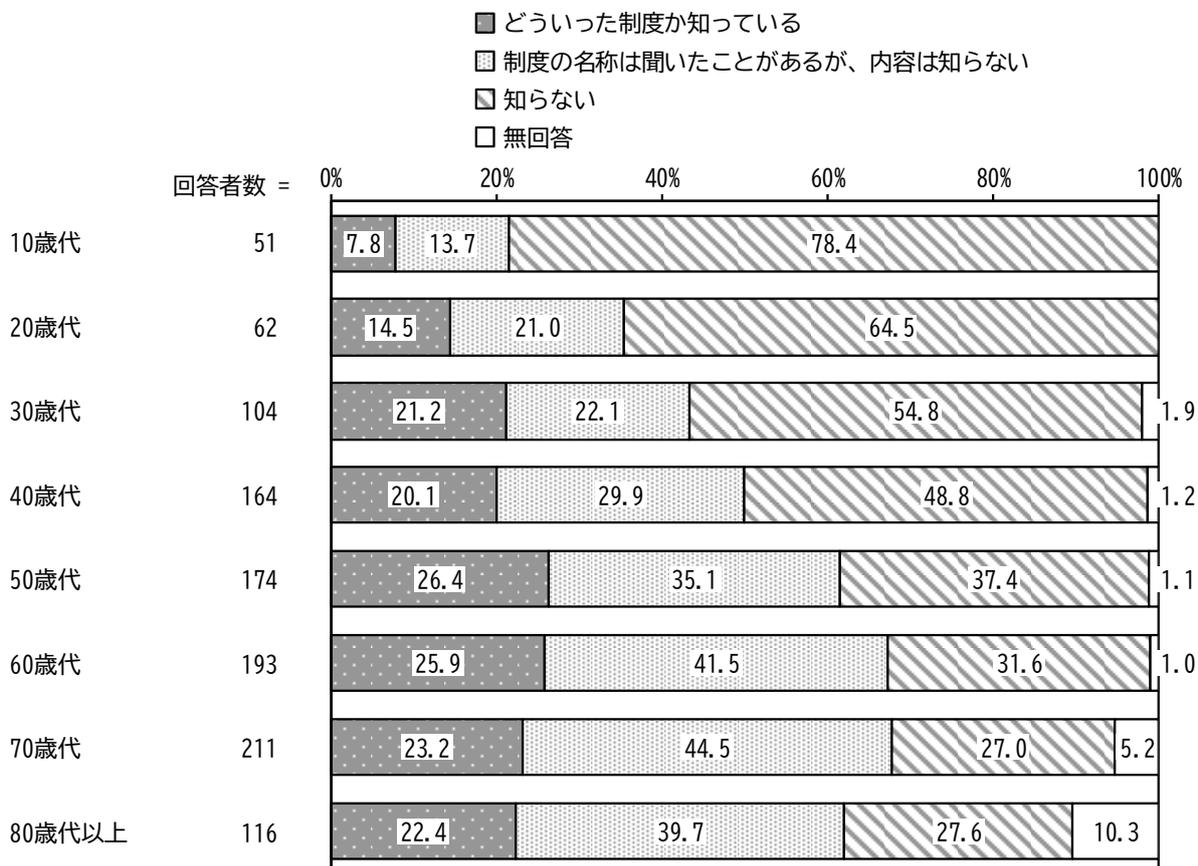
【性別】

性別にみると、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



【年代別】

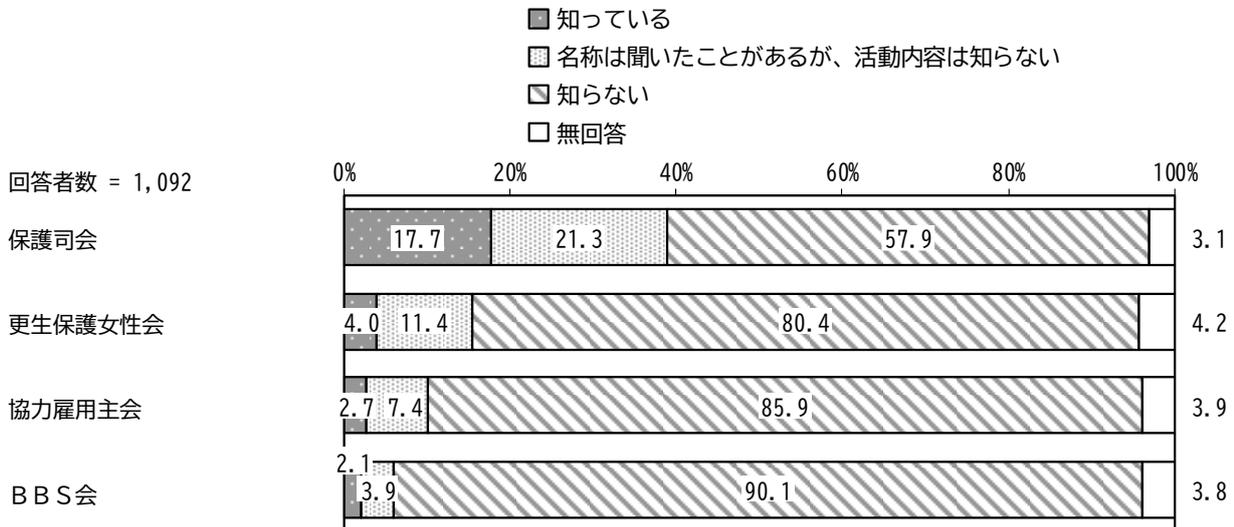
年代別にみると、10歳代で「知らない」の割合が高くなっています。



(5) 安全で安心して暮らせるよう再犯の防止等について

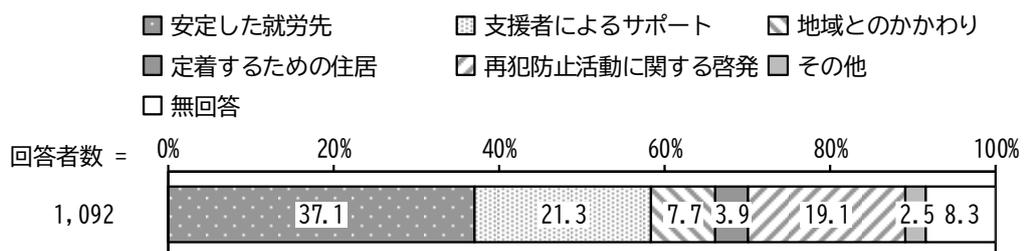
問 27 あなたは地域の中で、保護司会、更生保護女性会、協力雇用主会、BBS会など再犯防止活動等を行っている団体等があることを知っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

『保護司会』で「知っている」「名称は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」の割合が高くなっています。



問 28 犯罪をした者等が復帰に向けて地域社会の中で孤立することなく、自立した社会の構成員として安定した生活を送るために必要なものについて、あなたの考えに最も近いもの(〇は1つ)

「安定した就労先」の割合が 37.1%と最も高く、次いで「支援者によるサポート」の割合が 21.3%、「再犯防止活動に関する啓発」の割合が 19.1%となっています。

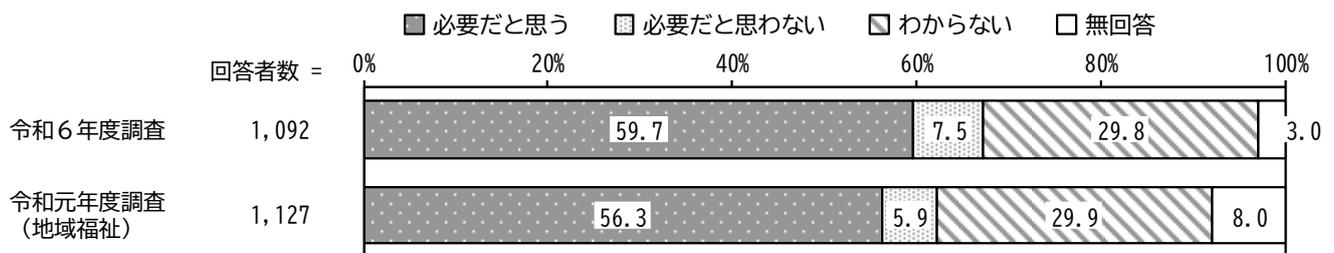


(6) 今後の地域福祉について

問 29 あなたは、日常生活の中で起きる問題に対して、地域住民の協力が必要だと思いますか。(〇は1つ)

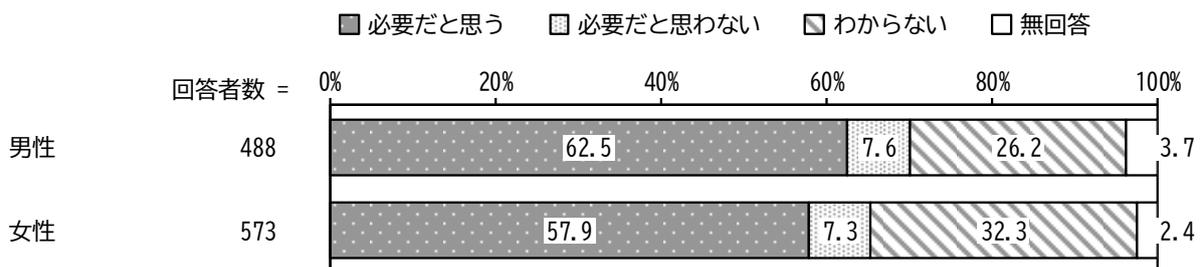
「必要だと思う」の割合が59.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が29.8%、「必要だと思わない」の割合が7.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



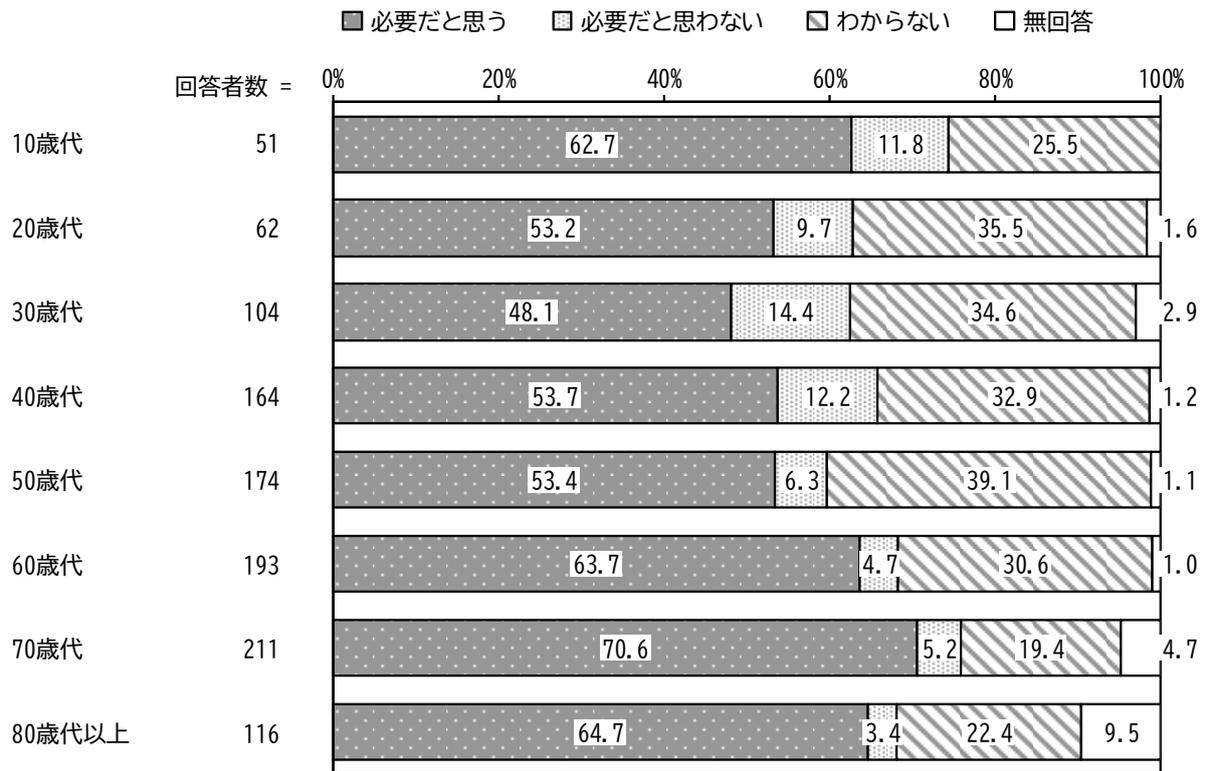
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



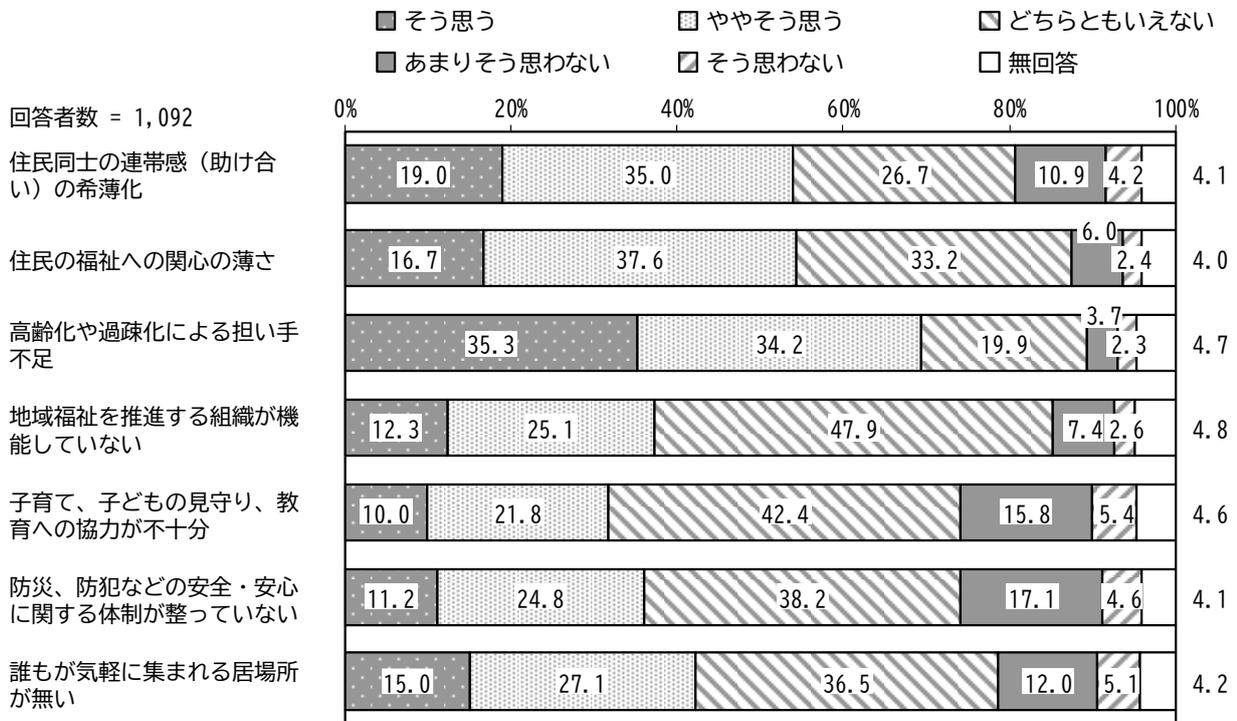
【年代別】

年代別にみると、70歳代で「必要だと思う」の割合が高くなっています。



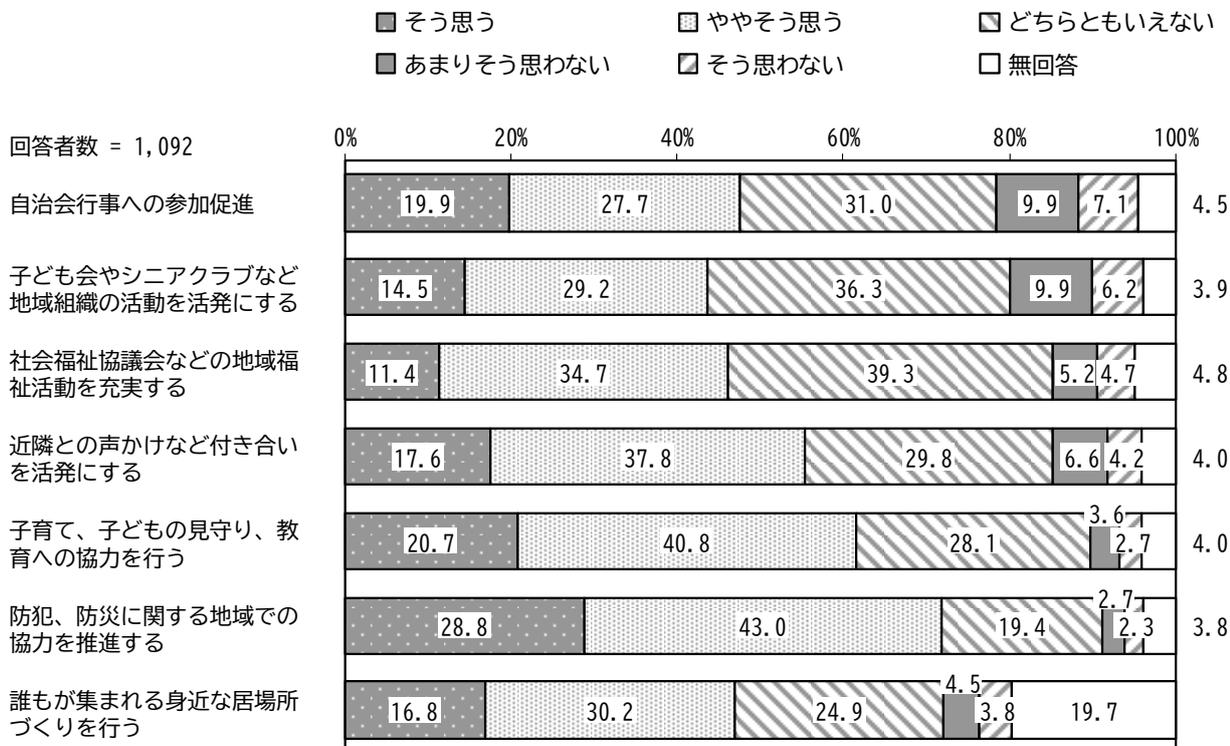
問 30 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう地域の福祉を充実させていく上で、あなたのお住まいの地域における問題点についてお聞きします。以下の項目について、お答えください。(〇はそれぞれ1つ)

『高齢化や過疎化による担い手不足』で「そう思う」の割合が高く、『子育て、子どもの見守り、教育への協力が不十分』『防災、防犯などの安全・安心に関する体制が整っていない』で「あまりそう思わない」の割合が高くなっています。



問 31 地域住民の支え合いをはぐくむために、地域住民が力を入れるべき取組みについてお聞きします。以下の項目について、お答えください。(〇はそれぞれ1つ)

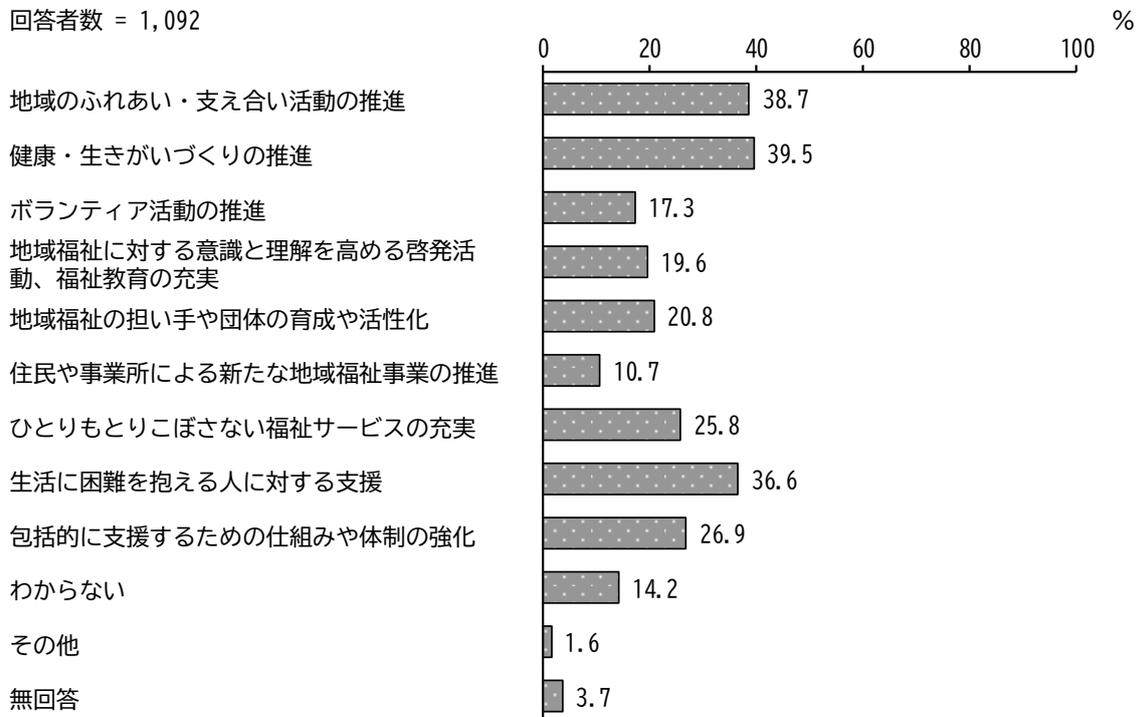
『防犯、防災に関する地域での協力を推進する』で「そう思う」の割合が高く、『子ども会やシニアクラブなど地域組織の活動を活発にする』『社会福祉協議会などの地域福祉活動を充実する』で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。



問 32 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう地域福祉を充実させていく上で、袋井市、袋井市社会福祉協議会が行う活動や支援として、今後、力を入れるべき点はどれですか。(当てはまるものすべてに○)

「健康・生きがいづくりの推進」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「地域のふれあい・支え合い活動の推進」の割合が 38.7%、「生活に困難を抱える人に対する支援」の割合が 36.6%となっています。

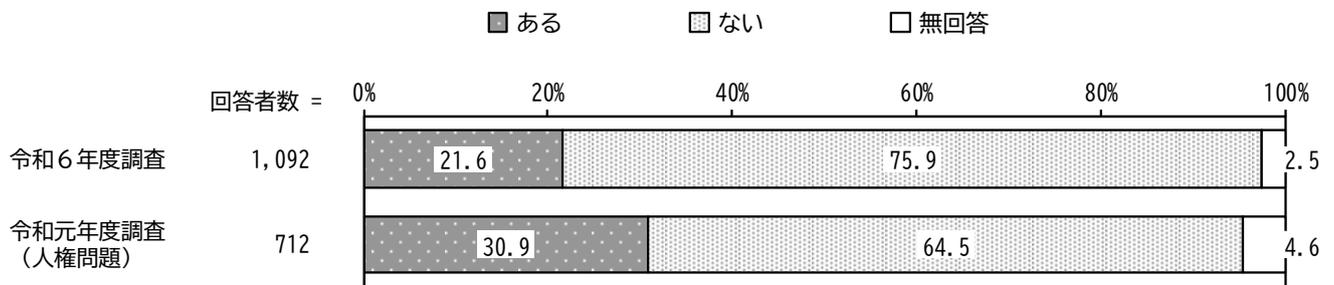
回答者数 = 1,092



(7) 人権の問題について

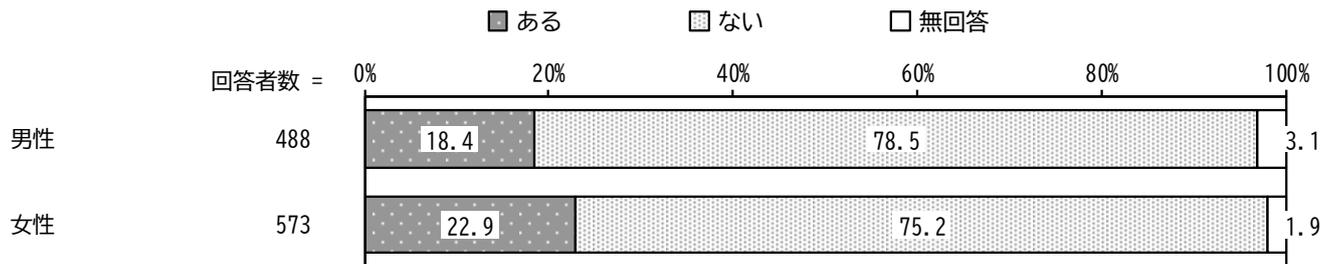
問 33 あなたはこれまで自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか。(○は1つ)

「ある」の割合が21.6%、「ない」の割合が75.9%となっています。
令和元年度調査と比較すると、「ない」の割合が増加しています。



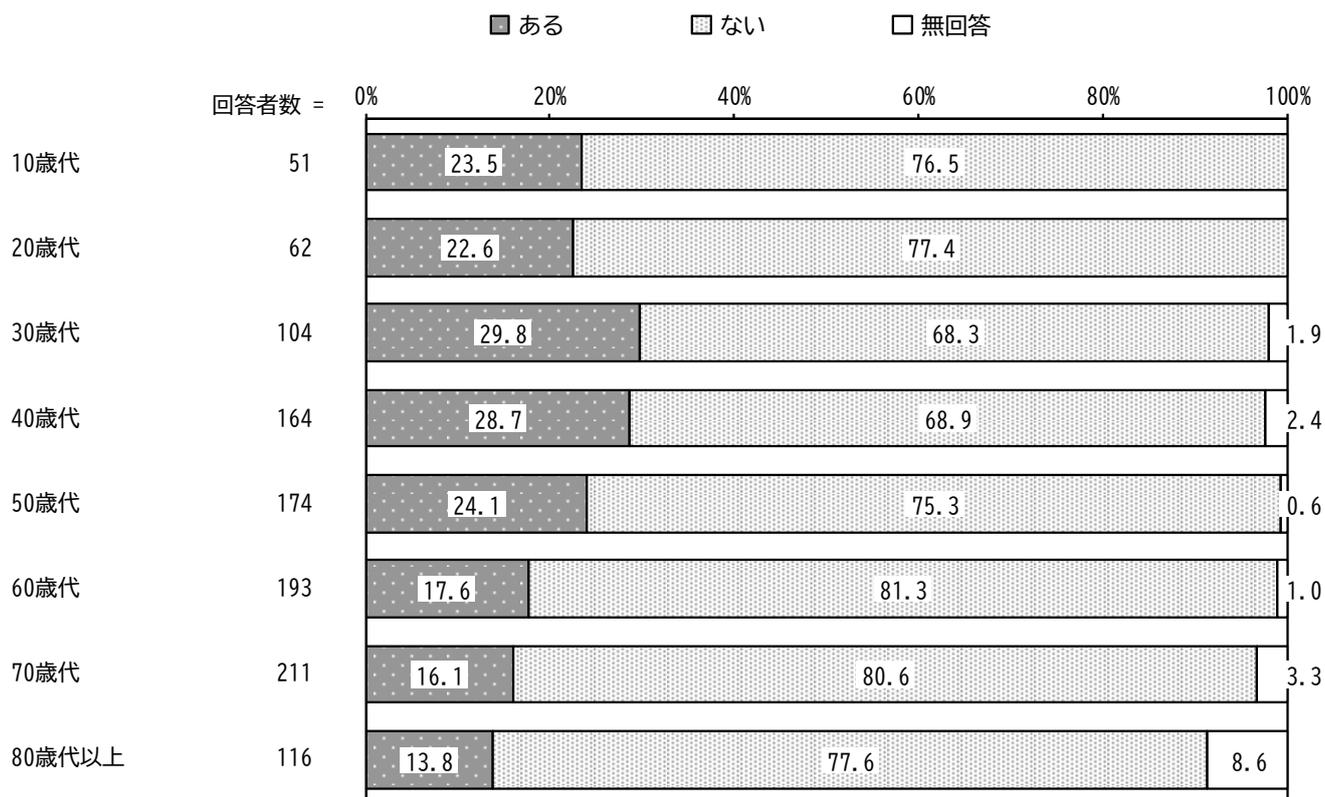
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年代別】

年代別にみると、30歳代で「ある」の割合が高くなっています。

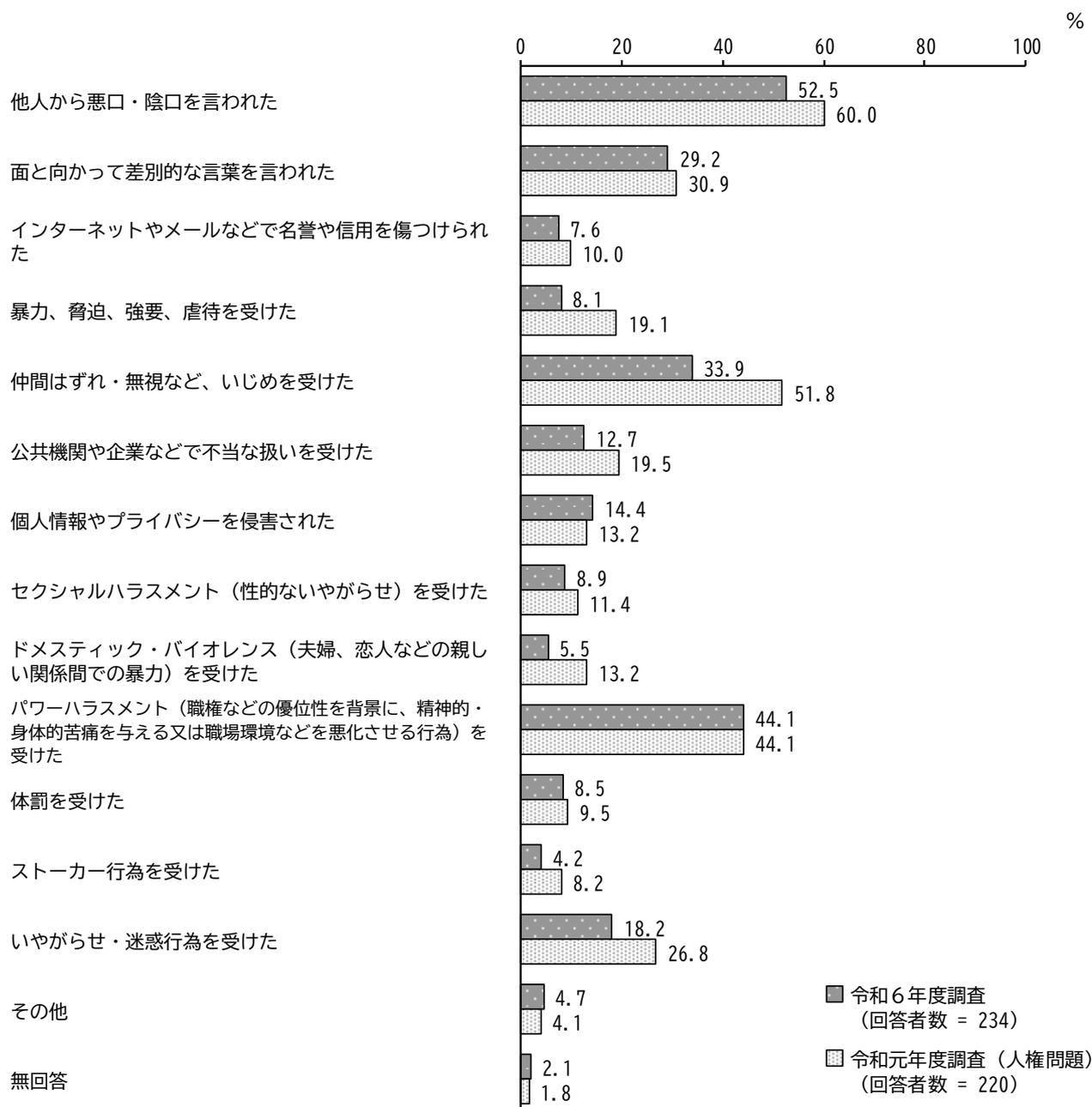


問 33 で「ある」と答えた方にお聞きします

問 33-1 人権侵害であると感じたのはどのような行為ですか。
(当てはまるものすべてに○)

「他人から悪口・陰口を言われた」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「パワーハラスメント（職権などの優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境などを悪化させる行為）を受けた」の割合が 44.1%、「仲間はずれ・無視など、いじめを受けた」の割合が 33.9%となっています。

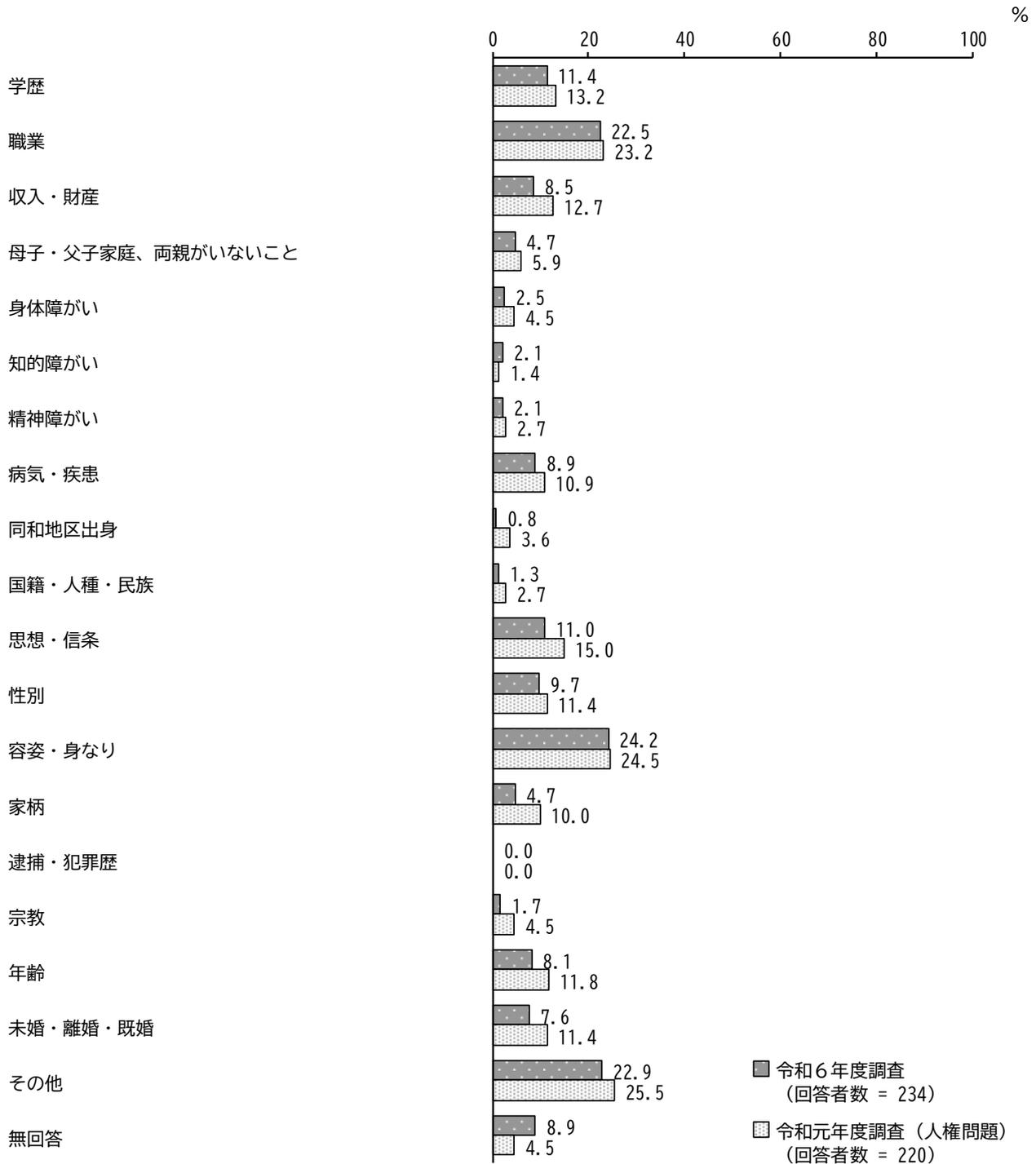
令和元年度調査と比較すると、「他人から悪口・陰口を言われた」「暴力、脅迫、強要、虐待を受けた」「仲間はずれ・無視など、いじめを受けた」「公共機関や企業などで不当な扱いを受けた」「ドメスティック・バイオレンス（夫婦、恋人などの親しい関係間での暴力）を受けた」「いやがらせ・迷惑行為を受けた」の割合が減少しています。



問 33-2 それはどのような理由によるものでしたか。(当てはまるものすべてに○)

「容姿・身なり」の割合が 24.2%と最も高く、次いで「職業」の割合が 22.5%、「学歴」の割合が 11.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「家柄」の割合が減少しています。

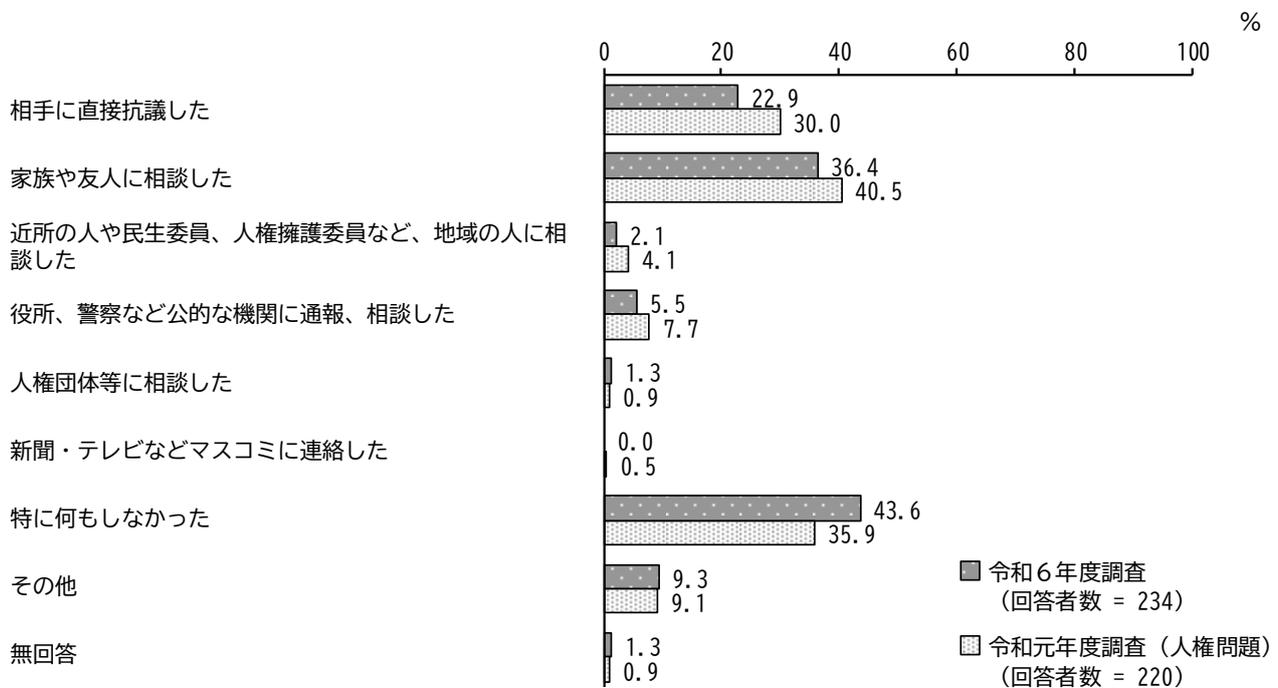


※前回調査では、「病気・疾患」の選択肢は「病気・病歴」となっていました。

問 33-3 自分の人権を侵害されたと思ったとき、あなたはどのような行動をとりましたか。
(当てはまるものすべてに○)

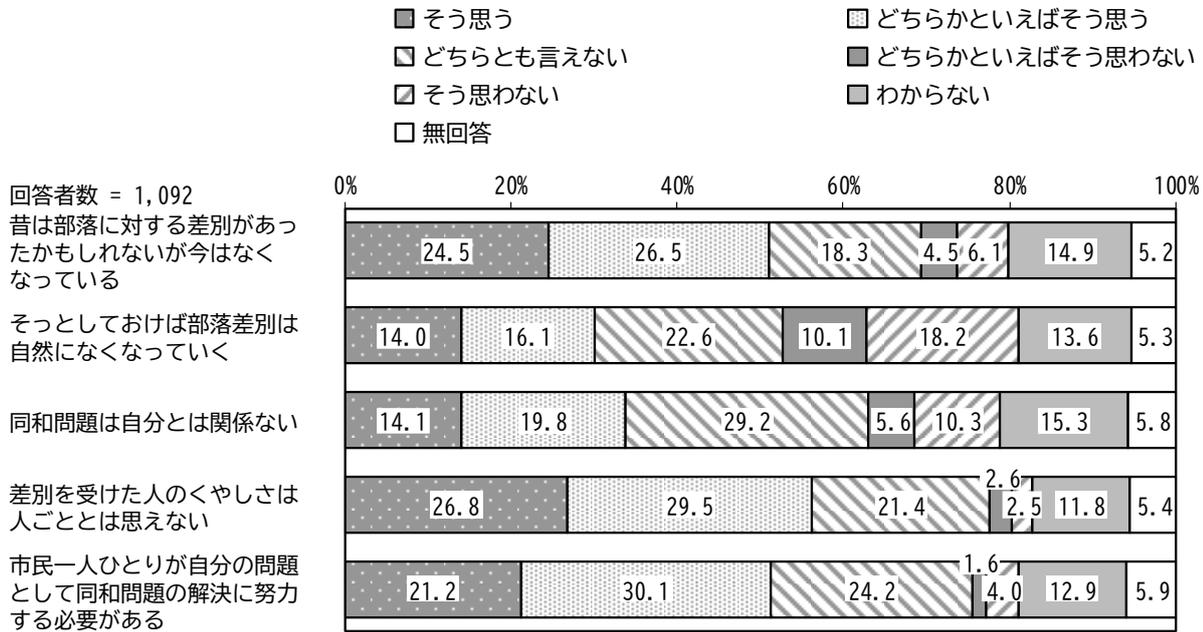
「特に何もしなかった」の割合が43.6%と最も高く、次いで「家族や友人に相談した」の割合が36.4%、「相手に直接抗議した」の割合が22.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「特に何もしなかった」の割合が増加しています。一方、「相手に直接抗議した」の割合が減少しています。



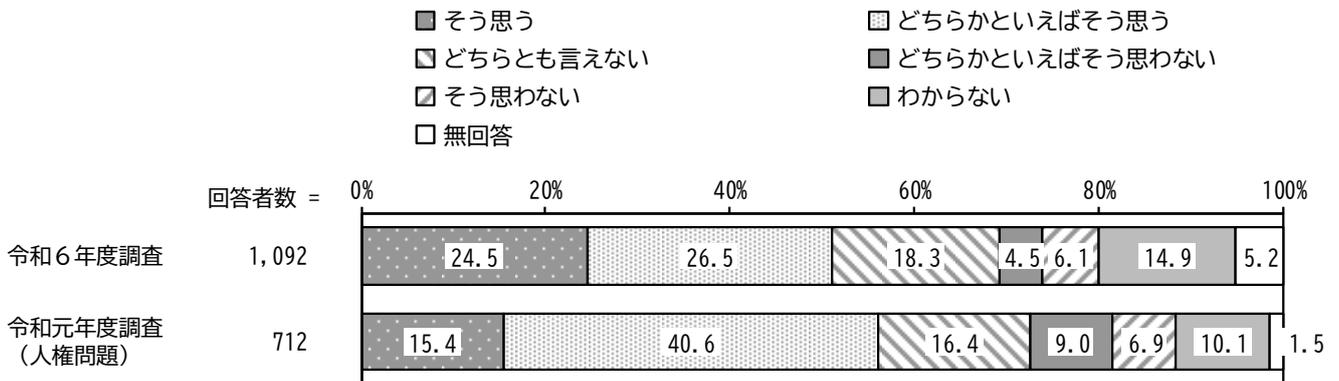
問 34 同和問題に関する以下の意見についてあなたの考えはどちらに近いですか。当てはまる回答の番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

『昔は部落に対する差別があったかもしれないが今はなくなっている』『そっとしておけば部落差別は自然になくなっていく』で「そう思わない」の割合が高くなっています。



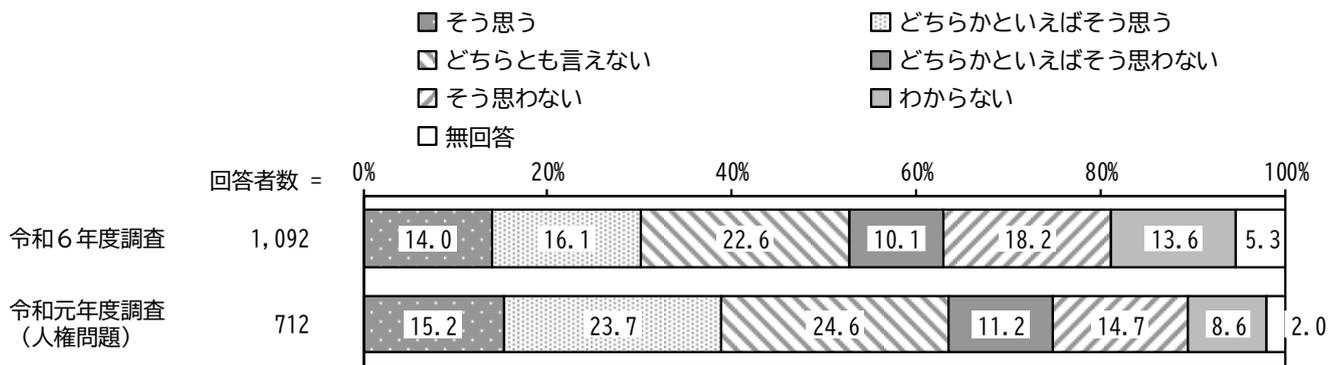
(1) 昔は部落に対する差別があったかもしれないが今はなくなっている。(○はそれぞれ1つ)

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。



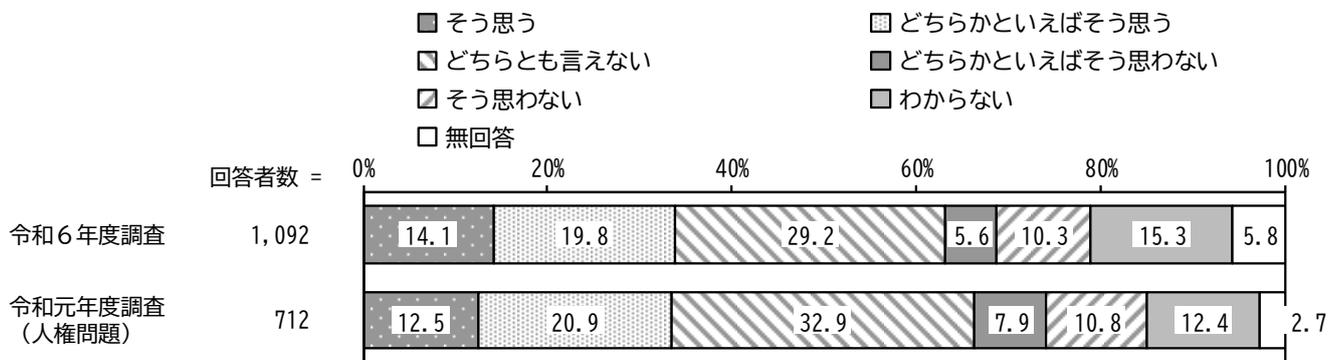
(2) そっとしておけば部落差別は自然になくなっていく。

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」の割合が減少しています。



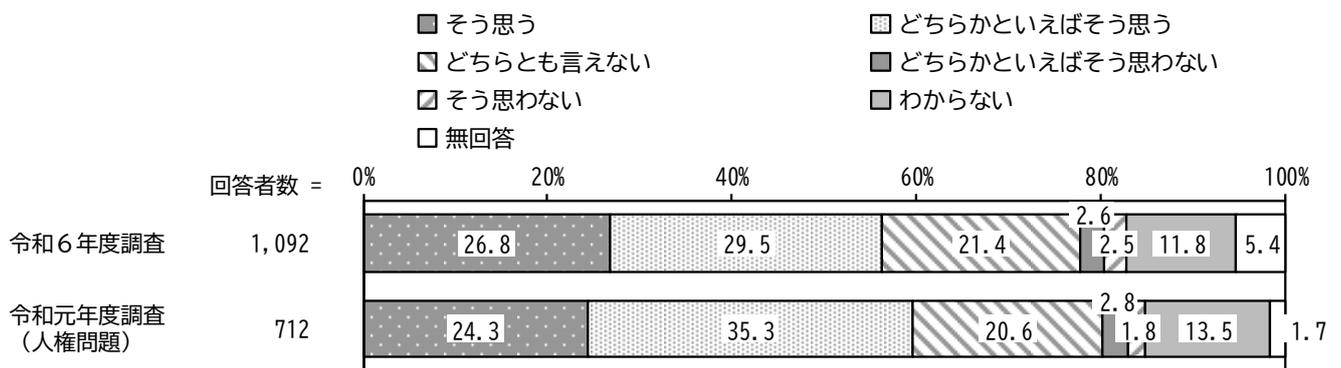
(3) 同和問題は自分とは関係ない。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



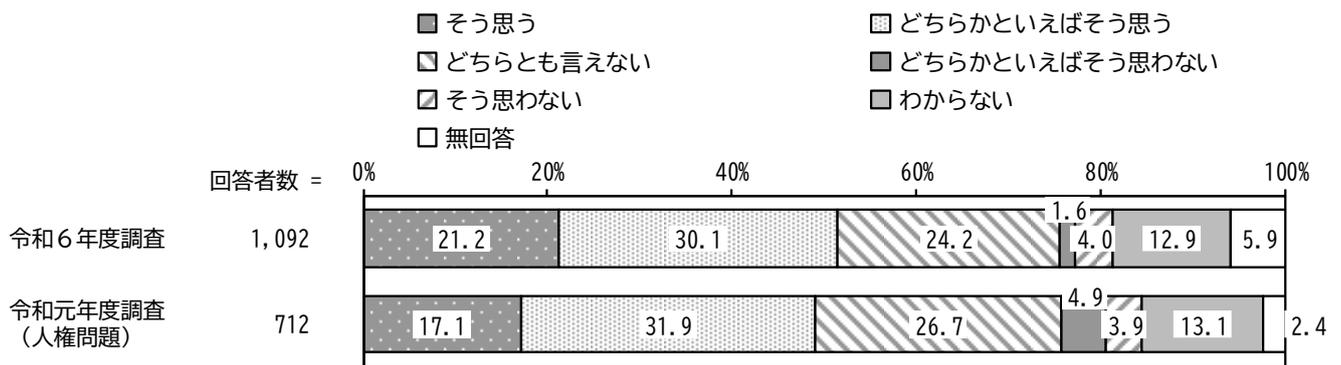
(4) 差別を受けた人のくやしさは人ごととは思えない。

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」の割合が減少しています。



(5) 市民一人ひとりが自分の問題として同和問題の解決に努力する必要がある。

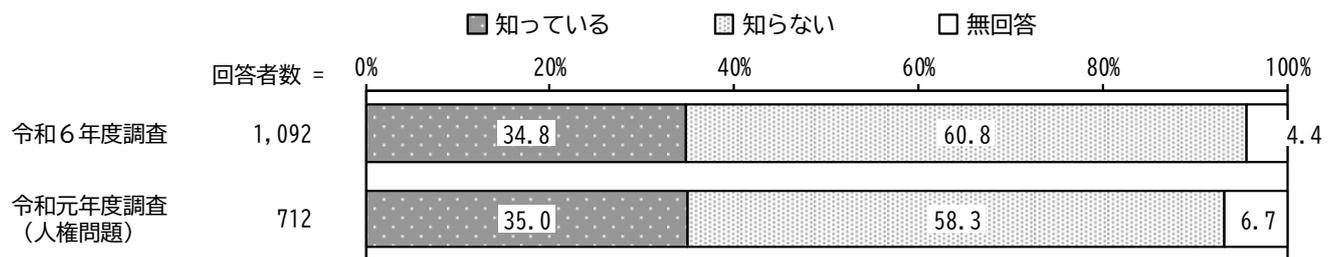
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 35 小学校、中学校及び高等学校の社会科の教科書には、歴史上の身分差別に関することや同和問題に関することが書かれています。このことをご存じですか。当てはまる番号に○をつけてください。○は1つ)

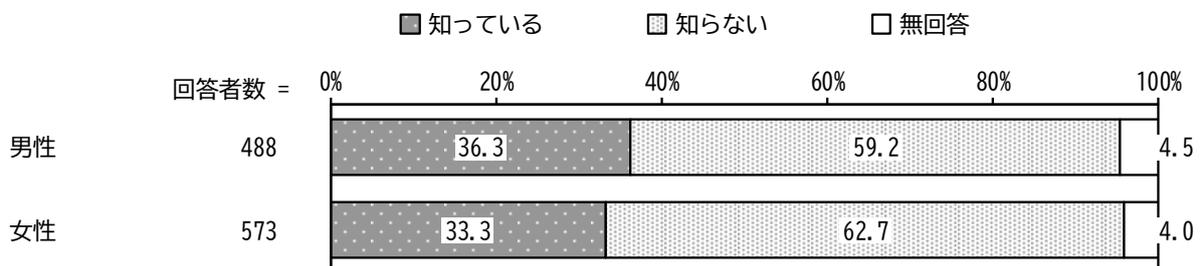
「知っている」の割合が34.8%、「知らない」の割合が60.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



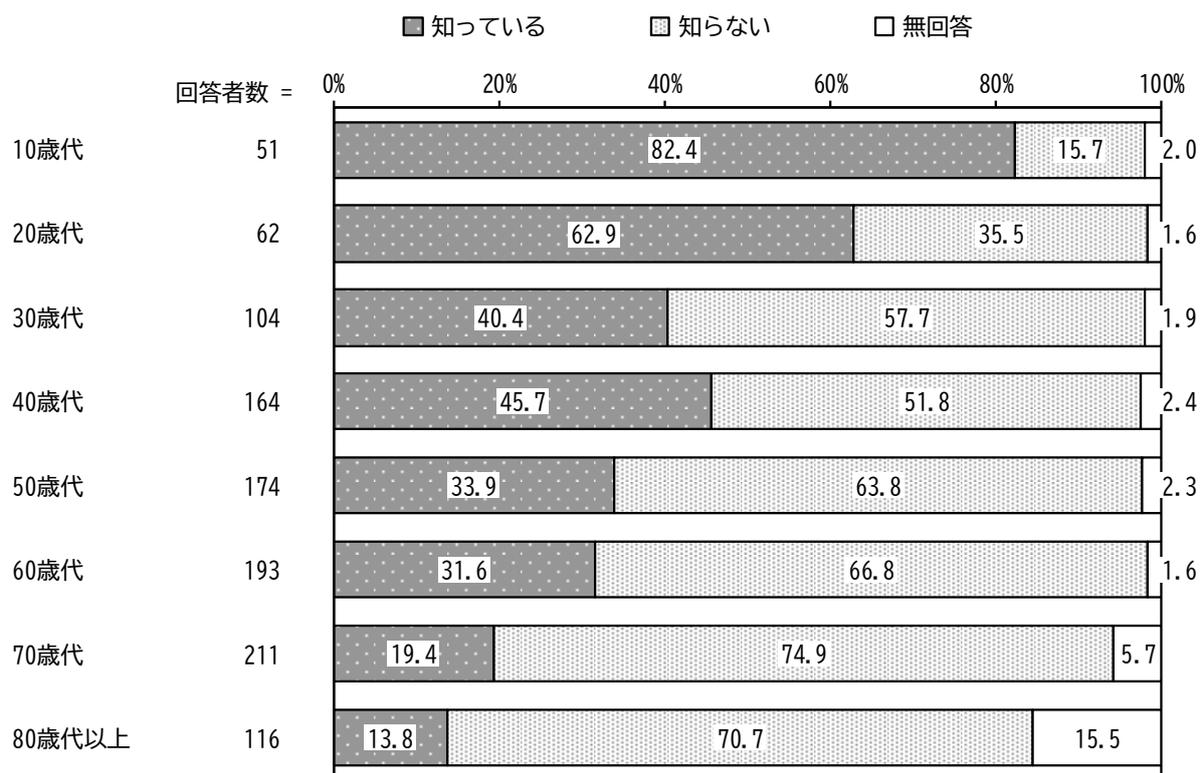
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年代別】

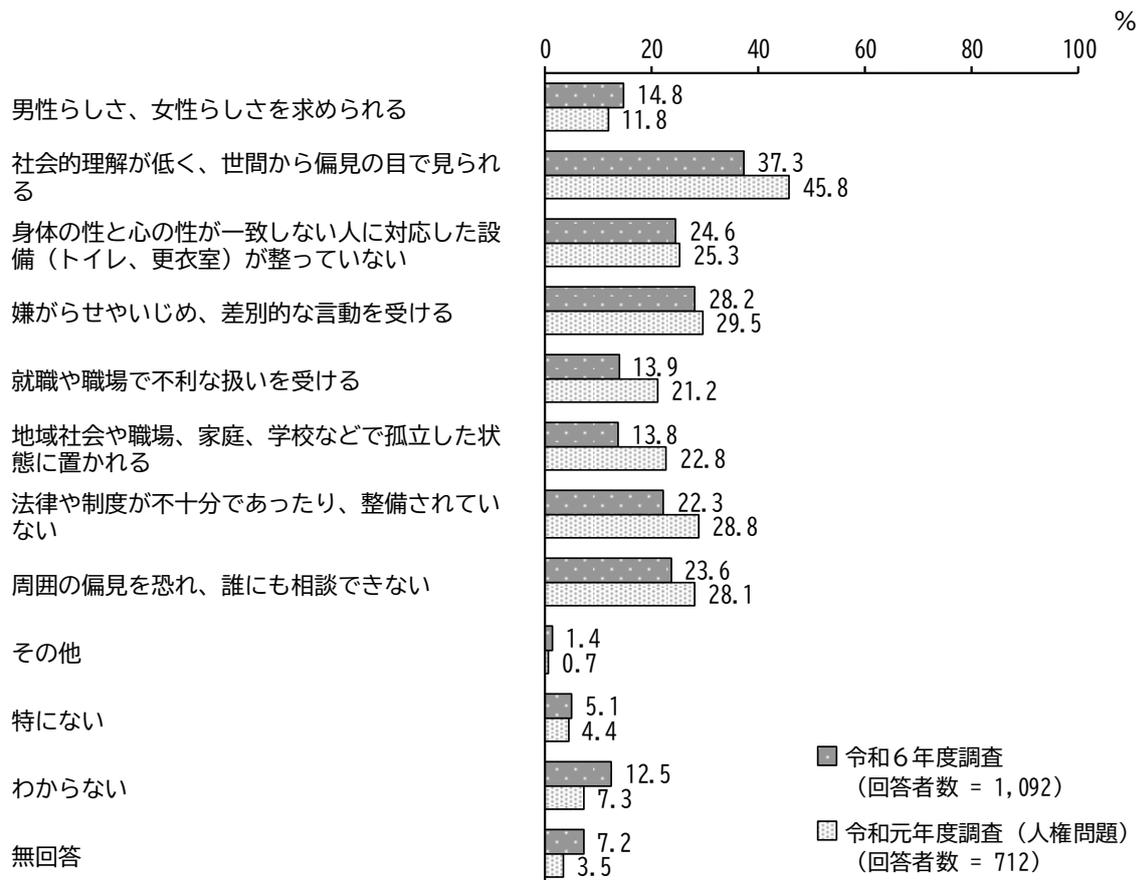
年代別にみると、10歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



問 36 LGBTQ等性的少数者に関することで、次の事例のうち、あなたが特に問題だと思う事例は何ですか。(当てはまるもの3つ以内に○)

「社会的理解が低く、世間から偏見の目で見られる」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「嫌がらせやいじめ、差別的な言動を受ける」の割合が 28.2%、「身体の性と心の性が一致しない人に対応した設備（トイレ、更衣室）が整っていない」の割合が 24.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「社会的理解が低く、世間から偏見の目で見られる」「就職や職場で不利な扱いを受ける」「地域社会や職場、家庭、学校などで孤立した状態に置かれる」「法律や制度が不十分であったり、整備されていない」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性らしさ、女性らしさを求められる	社会的理解が低く、世間から偏見の目で見られる	身体の性と心の性が一致しない人に対応した設備(トイレ、更衣室)が整っていない	嫌がらせやいじめ、差別的な言動を受ける	就職や職場で不利な扱いを受ける	地域社会や職場、家庭、学校などで孤立した状態に置かれる	法律や制度が不十分であったり、整備されていない	周囲の偏見を恐れ、誰にも相談できない	その他	特にない	わからない	無回答
全体	1,092	14.8	37.3	24.6	28.2	13.9	13.8	22.3	23.6	1.4	5.1	12.5	7.2
男性	488	15.6	36.1	20.9	25.2	13.7	12.9	21.9	21.9	1.2	6.1	13.1	8.6
女性	573	13.8	38.7	28.3	31.2	14.5	14.7	22.5	24.8	1.4	4.2	12.0	5.8

【年代別】

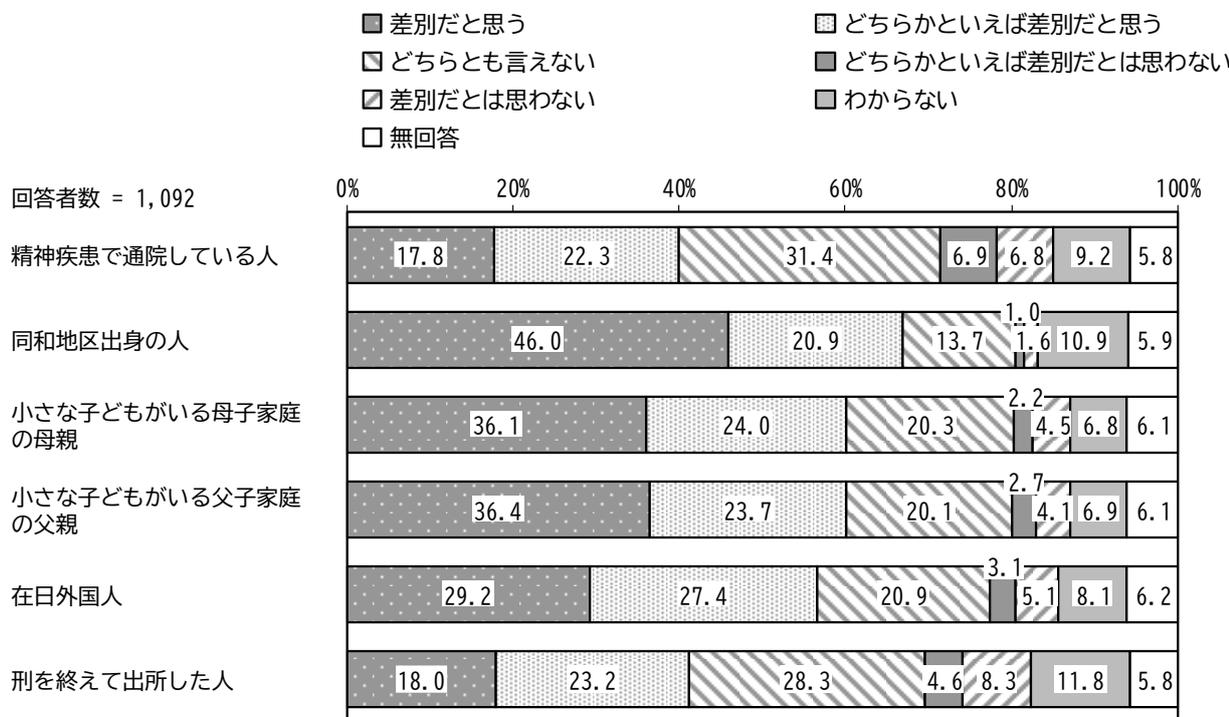
年代別にみると、10歳代で「男性らしさ、女性らしさを求められる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性らしさ、女性らしさを求められる	社会的理解が低く、世間から偏見の目で見られる	身体の性と心の性が一致しない人に対応した設備(トイレ、更衣室)が整っていない	嫌がらせやいじめ、差別的な言動を受ける	就職や職場で不利な扱いを受ける	地域社会や職場、家庭、学校などで孤立した状態に置かれる	法律や制度が不十分であったり、整備されていない	周囲の偏見を恐れ、誰にも相談できない	その他	特にない	わからない	無回答
全体	1,092	14.8	37.3	24.6	28.2	13.9	13.8	22.3	23.6	1.4	5.1	12.5	7.2
10歳代	51	27.5	39.2	23.5	39.2	11.8	9.8	25.5	27.5	5.9	3.9	7.8	2.0
20歳代	62	22.6	29.0	25.8	38.7	9.7	6.5	25.8	27.4	1.6	6.5	8.1	1.6
30歳代	104	18.3	37.5	26.9	39.4	9.6	17.3	26.0	25.0	2.9	4.8	5.8	5.8
40歳代	164	17.1	42.1	29.3	38.4	13.4	14.0	22.0	23.8	3.7	4.3	6.7	4.3
50歳代	174	14.9	42.0	28.2	31.0	17.8	11.5	24.7	27.0	0.6	3.4	8.6	5.7
60歳代	193	14.0	45.1	26.4	28.5	14.0	17.6	22.8	28.0	0.5	4.7	9.8	4.1
70歳代	211	10.0	35.1	24.2	18.5	16.6	15.2	23.2	19.9	—	8.1	18.5	7.1
80歳代以上	116	8.6	19.0	10.3	6.0	11.2	11.2	9.5	12.9	—	4.3	30.2	24.1

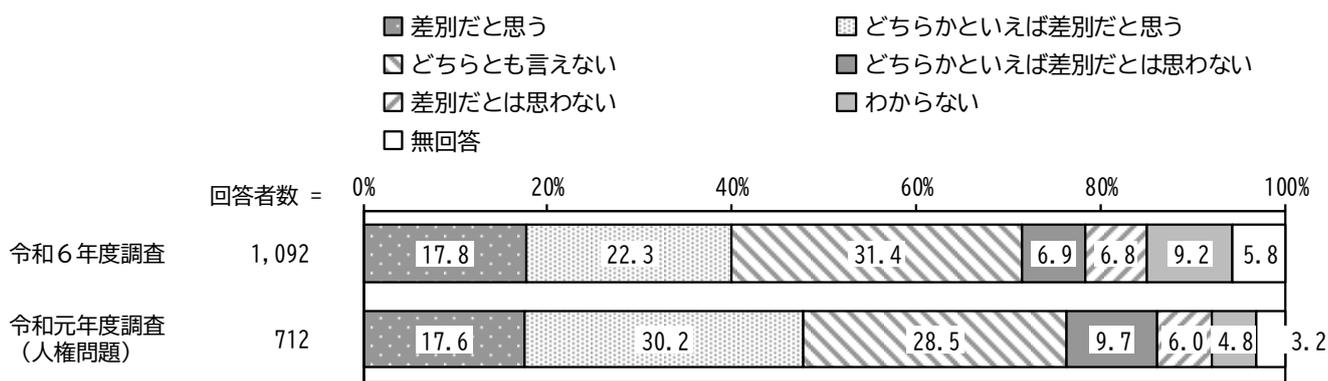
問 37 仕事をする能力と適性が十分あるにもかかわらず以下の人が採用を拒否された場合、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに最も近い番号に○をつけてください。
(○はそれぞれ1つ)

『同和地区出身の人』で「差別だと思う」の割合が高く、『精神疾患で通院している人』『刑を終えて出所した人』で「どちらとも言えない」の割合が高くなっています。



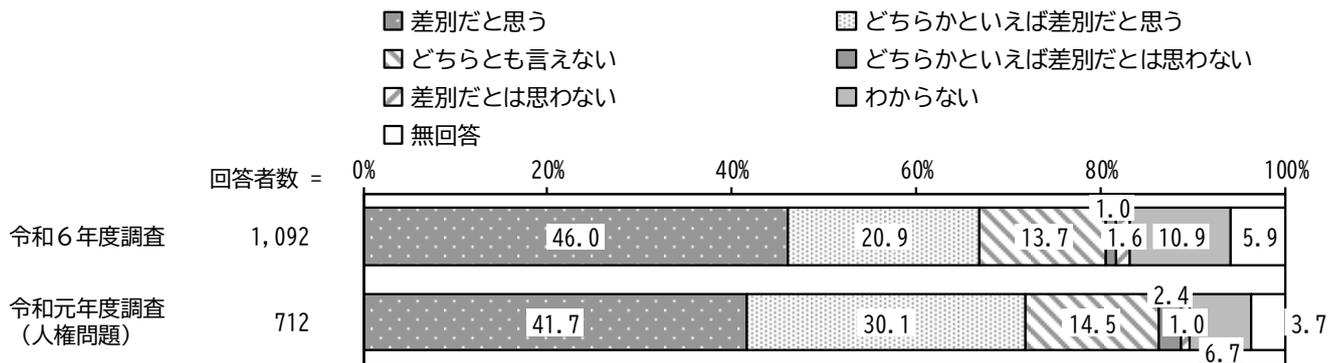
(1) 精神疾患で通院している人

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえば差別だと思う」の割合が減少しています。



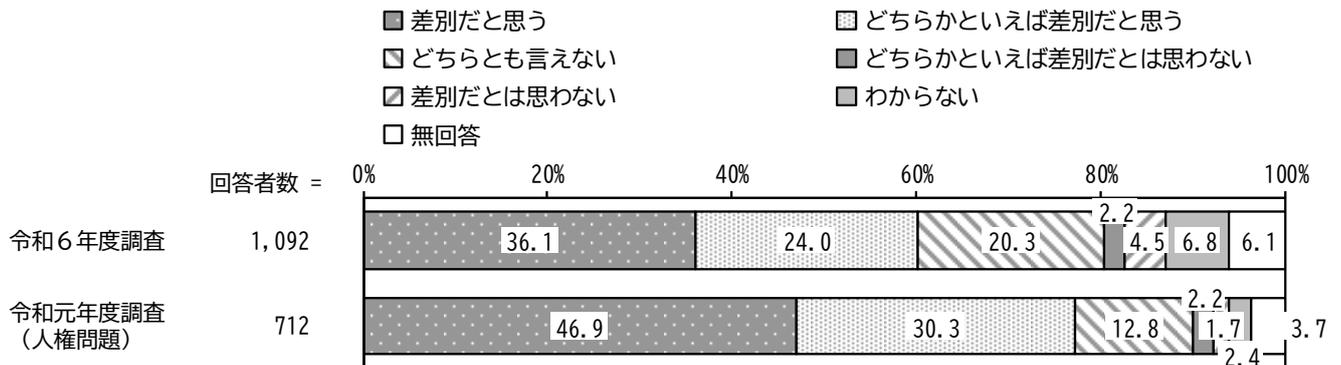
(2) 同和地区出身の人

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえば差別だと思う」の割合が減少しています。



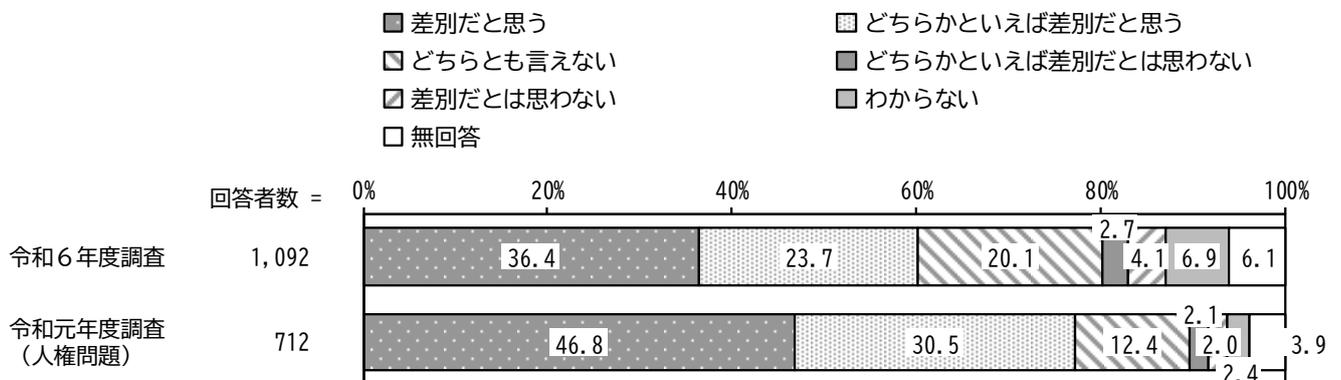
(3) 小さな子どもがいる母子家庭の母親

令和元年度調査と比較すると、「どちらとも言えない」の割合が増加しています。一方、「差別だと思う」「どちらかといえば差別だと思う」の割合が減少しています。



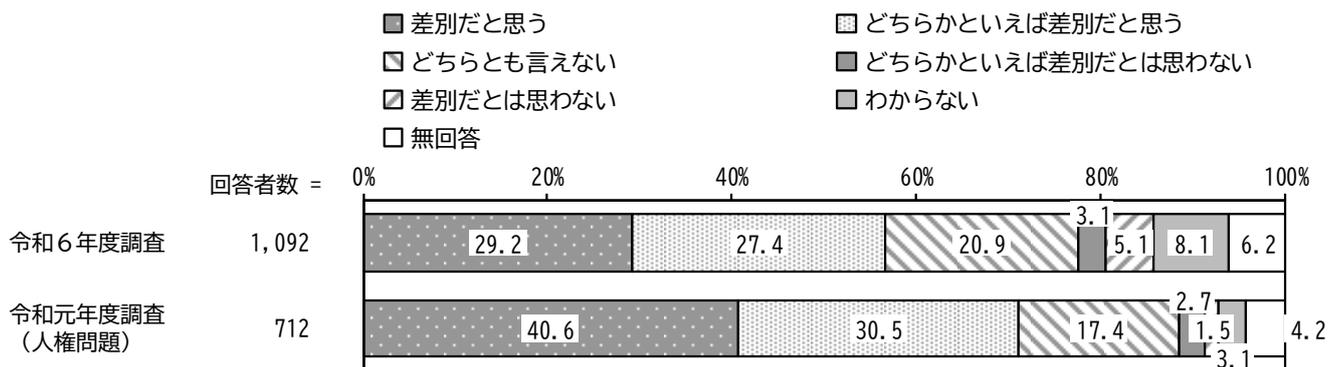
(4) 小さな子どもがいる父子家庭の父親

令和元年度調査と比較すると、「どちらとも言えない」の割合が増加しています。一方、「差別だと思う」「どちらかといえば差別だと思う」の割合が減少しています。



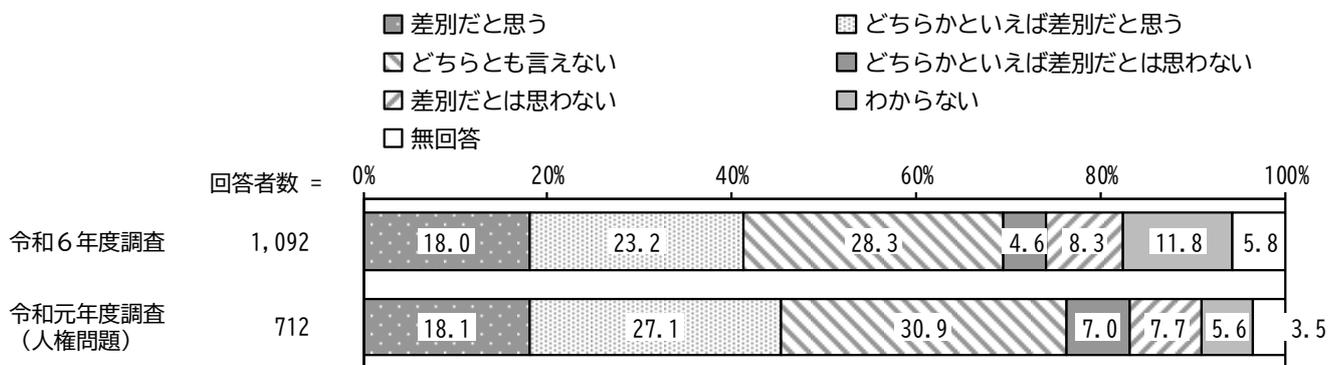
(5) 在日外国人

令和元年度調査と比較すると、「差別だと思う」の割合が減少しています。



(6) 刑を終えて出所した人

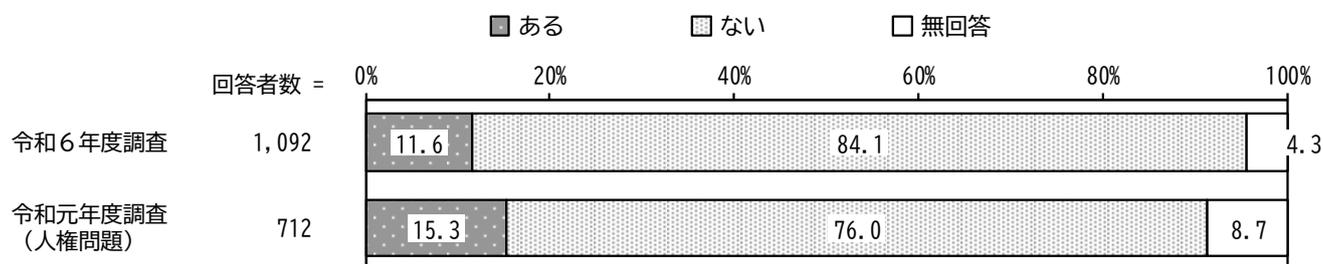
令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。



問 38 あなたはこれまでに人権問題に関する研修会や講演会に参加したことがありますか。
「ある」「ない」のどちらかに○をつけてください。

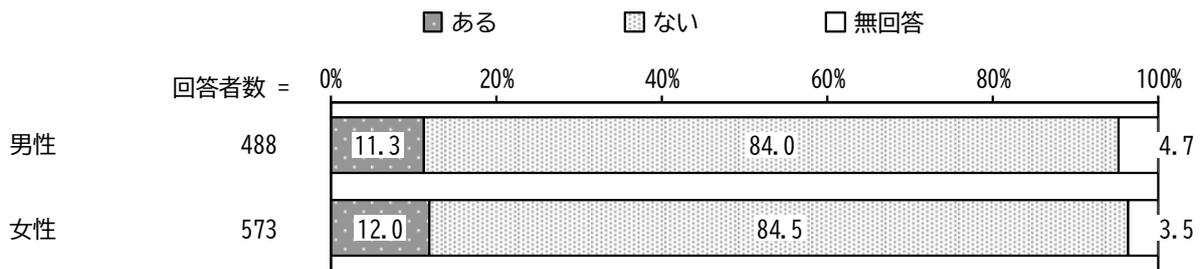
「ある」の割合が11.6%、「ない」の割合が84.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「ない」の割合が増加しています。



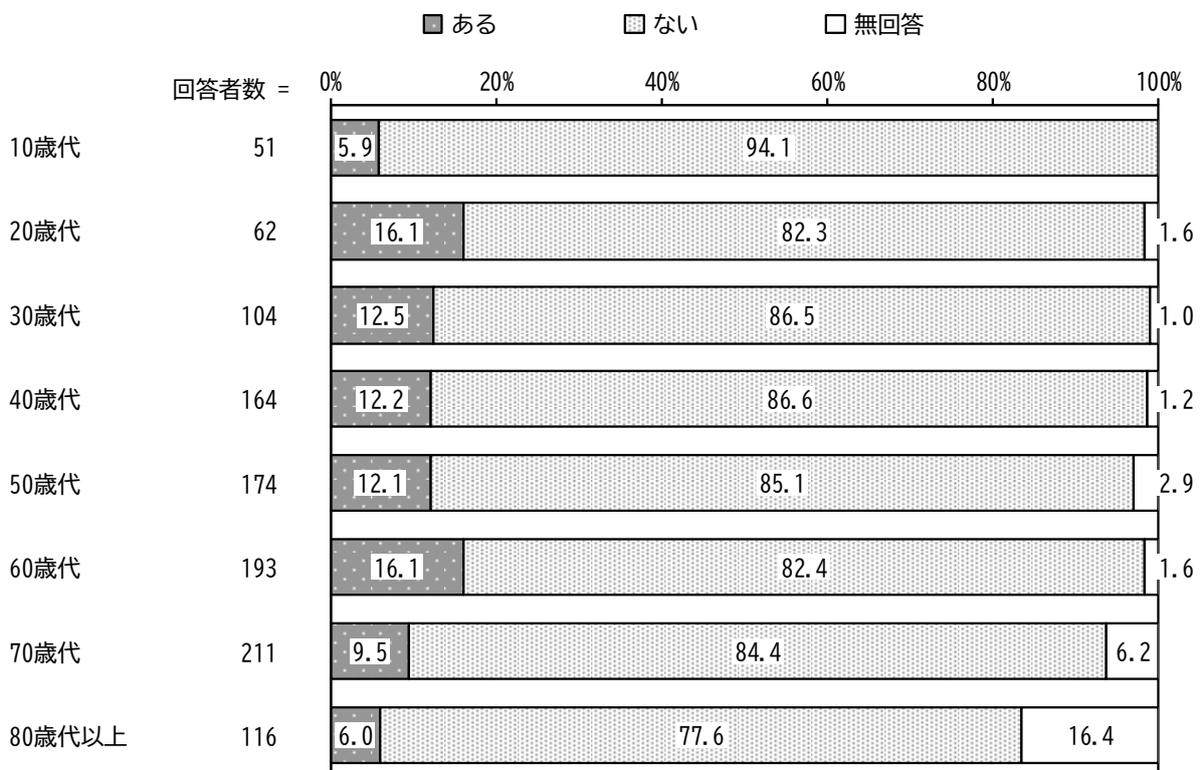
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年代別】

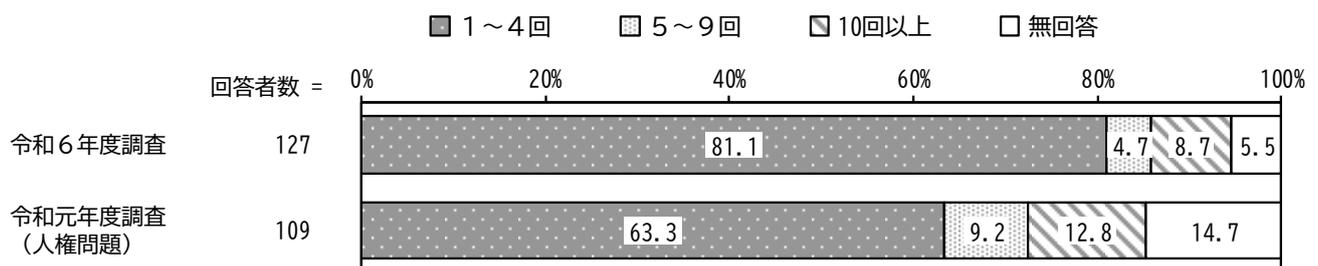
年代別にみると、10歳代で「ない」の割合が高くなっています。



なお、「ある」を選んだ方は、参加回数にも○をつけてください。

「1～4回」の割合が81.1%と最も高く、次いで「10回以上」の割合が8.7%、「5～9回」の割合が4.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「1～4回」の割合が増加しています。

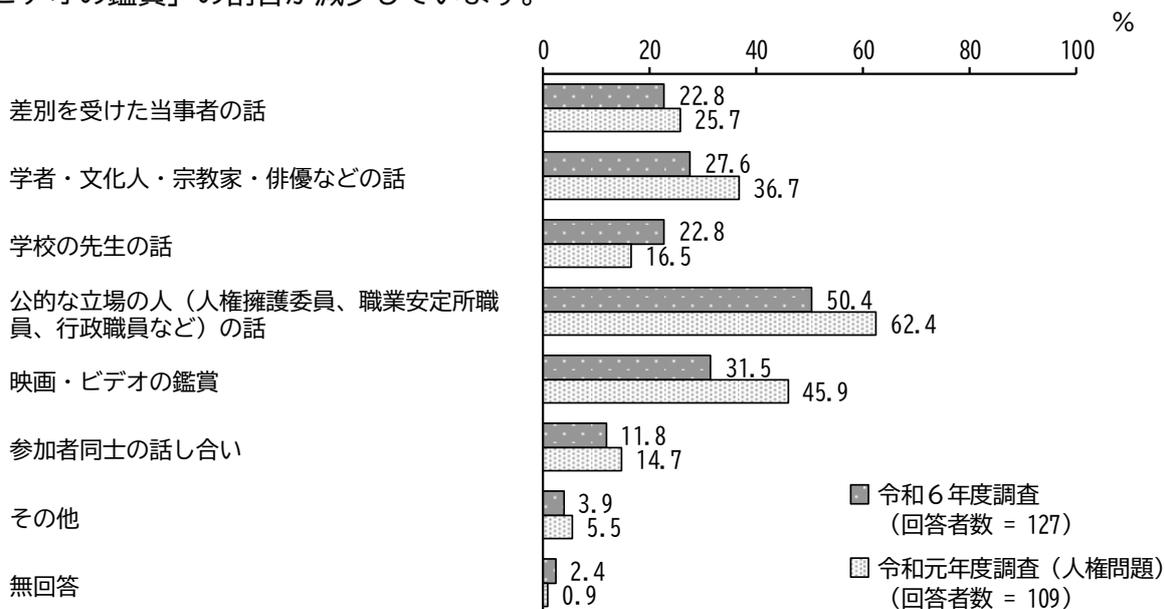


問 38 で「ある」と答えた方にお聞きします

問 38-1 あなたが参加した人権啓発・人権教育はどのようなものでしたか。
(当てはまるものすべてに○)

「公的な立場の人（人権擁護委員、職業安定所職員、行政職員など）の話」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「映画・ビデオの鑑賞」の割合が 31.5%、「学者・文化人・宗教家・俳優などの話」の割合が 27.6%となっています。

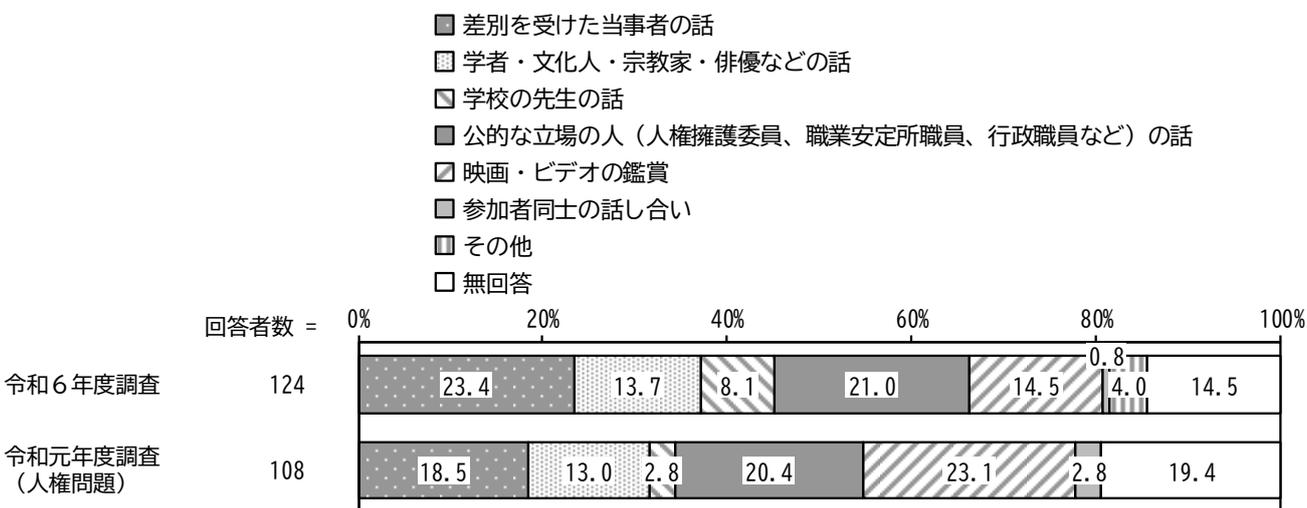
令和元年度調査と比較すると、「学校の先生の話」の割合が増加しています。一方、「学者・文化人・宗教家・俳優などの話」「公的な立場の人（人権擁護委員、職業安定所職員、行政職員など）の話」「映画・ビデオの鑑賞」の割合が減少しています。



問 38-2 問 38-1 で○をつけた中で最も印象が効果的であったのは何番ですか。
(番号は1つ)

「差別を受けた当事者の話」の割合が 23.4%と最も高く、次いで「公的な立場の人（人権擁護委員、職業安定所職員、行政職員など）の話」の割合が 21.0%、「映画・ビデオの鑑賞」の割合が 14.5%となっています。

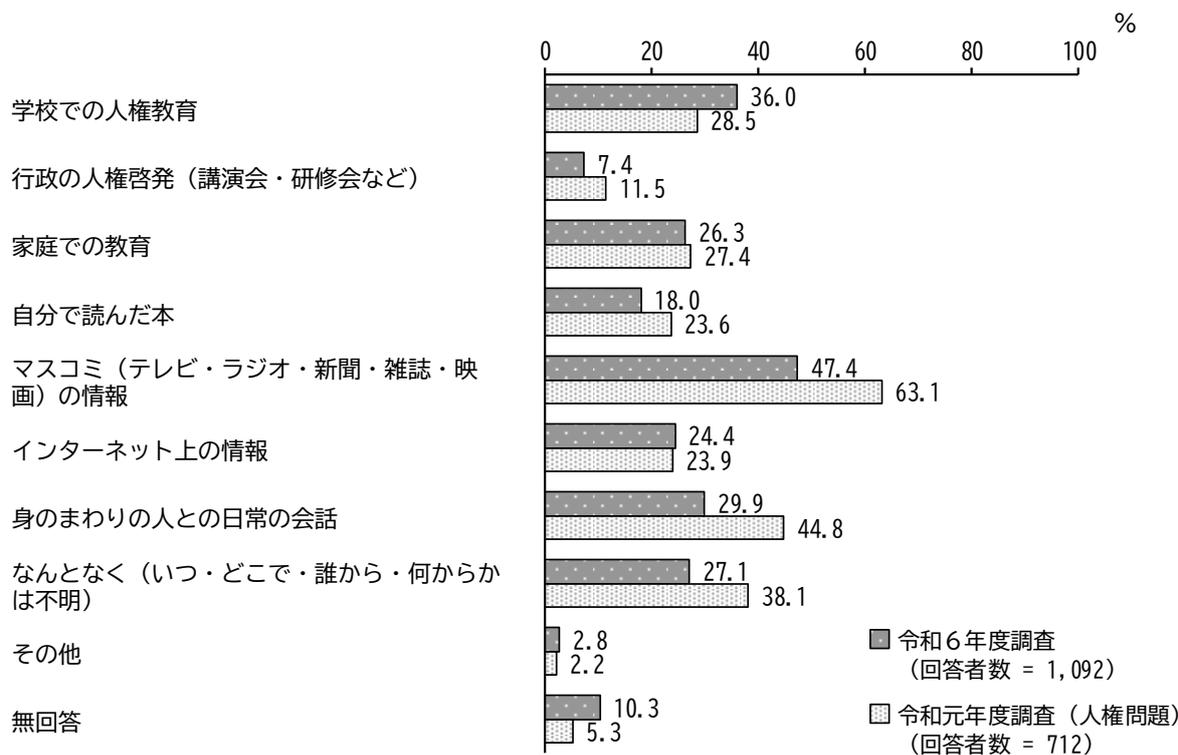
令和元年度調査と比較すると、「学校の先生の話」の割合が増加しています。一方、「映画・ビデオの鑑賞」の割合が減少しています。



問 39 あなたの人権に対する考え方は何から影響を受けていると思いますか。
(当てはまるものすべてに○)

「マスコミ（テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・映画）の情報」の割合が47.4%と最も高く、次いで「学校での人権教育」の割合が36.0%、「身のまわりの人との日常の会話」の割合が29.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「学校での人権教育」の割合が増加しています。一方、「自分で読んだ本」「マスコミ（テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・映画）の情報」「身のまわりの人との日常の会話」「なんとなく（いつ・どこで・誰から・何からかは不明）」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	学校での人権教育	行政の人権啓発（講演会・研修会など）	家庭での教育	自分で読んだ本	マスコミ（テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・映画）の情報	インターネット上の情報	身のまわりの人との日常の会話	なんとなく（いつ・どこで・誰から・何からかは不明）	その他	無回答
全体	1,092	36.0	7.4	26.3	18.0	47.4	24.4	29.9	27.1	2.8	10.3
男性	488	37.5	7.4	24.2	17.4	46.5	27.3	26.4	25.4	2.5	10.2
女性	573	34.7	7.5	28.4	18.5	48.3	22.3	33.7	28.4	3.0	9.4

【年代別】

年代別にみると、10歳代で「学校での人権教育」の割合が高くなっています。

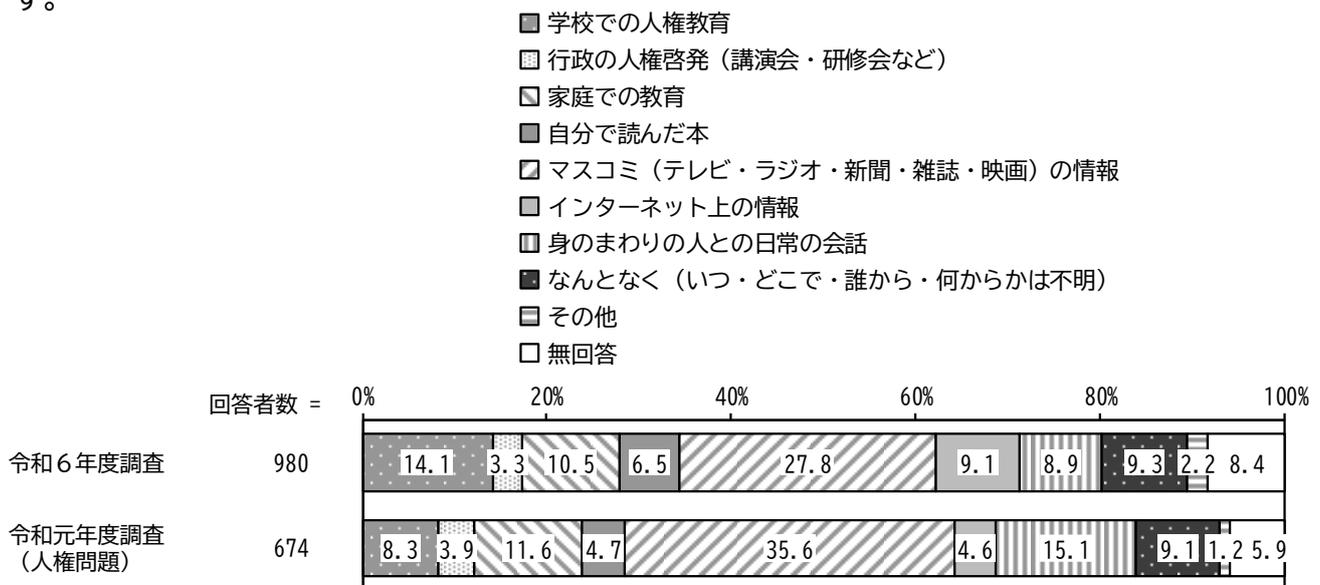
単位：%

区分	回答者数(件)	学校での人権教育	行政の人権啓発(講演会・研修会など)	家庭での教育	自分で読んだ本	マスコミ(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・映画)の情報	インターネット上の情報	身のまわりの人との日常の会話	なんとなく(いつ・どこで・誰から・何からかは不明)	その他	無回答
全体	1,092	36.0	7.4	26.3	18.0	47.4	24.4	29.9	27.1	2.8	10.3
10歳代	51	68.6	—	29.4	27.5	41.2	41.2	23.5	13.7	5.9	2.0
20歳代	62	59.7	8.1	30.6	21.0	38.7	48.4	22.6	29.0	—	3.2
30歳代	104	44.2	3.8	39.4	22.1	36.5	45.2	46.2	26.0	1.0	1.9
40歳代	164	45.1	4.3	28.7	17.7	43.3	35.4	28.7	31.7	4.9	3.7
50歳代	174	37.9	8.0	25.9	19.0	40.8	19.5	31.0	31.6	5.7	6.3
60歳代	193	31.6	11.9	27.5	17.6	64.2	24.4	31.6	21.8	1.6	7.8
70歳代	211	25.6	8.5	20.4	17.1	56.9	10.9	27.5	30.8	0.9	15.2
80歳代以上	116	12.9	7.8	16.4	11.2	36.2	3.4	24.1	24.1	3.4	32.8

問 39-1 問 39 で○をつけた中で最も影響を受けたと感じるものは何番ですか。(番号は1つ)

「マスコミ(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・映画)の情報」の割合が27.8%と最も高く、次いで「学校での人権教育」の割合が14.1%、「家庭での教育」の割合が10.5%となっています。

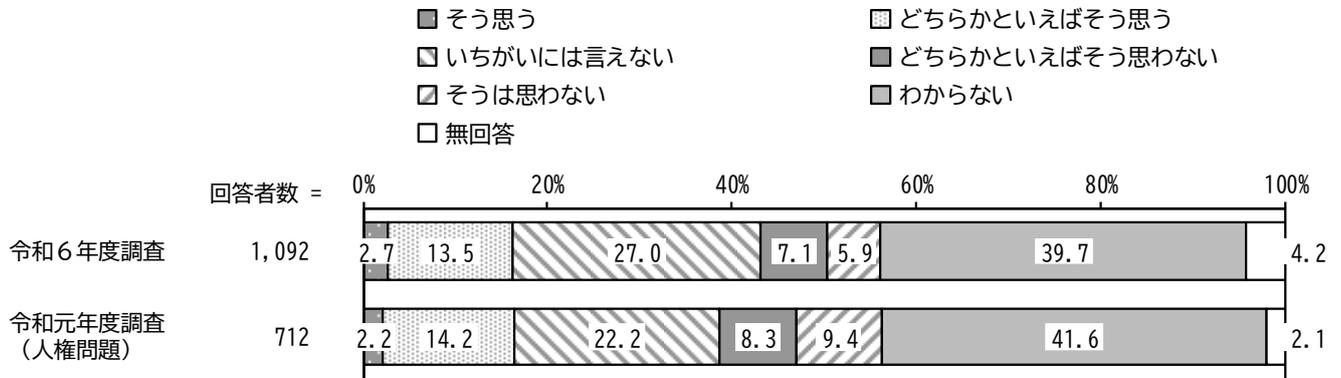
令和元年度調査と比較すると、「学校での人権教育」の割合が増加しています。一方、「マスコミ(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・映画)の情報」「身のまわりの人との日常の会話」の割合が減少しています。



問 40 袋井市は市民生活の中に人権尊重の意識が定着していると思いますか。(〇は1つ)

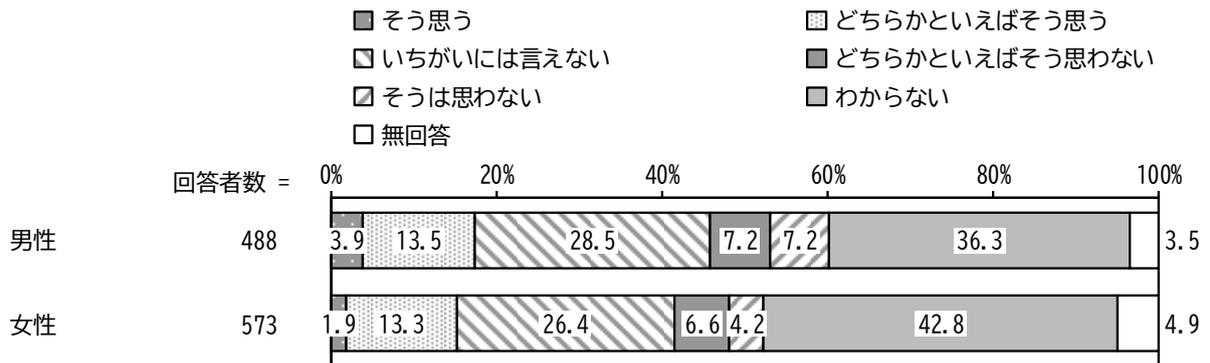
「わからない」の割合が39.7%と最も高く、次いで「いちがいいには言えない」の割合が27.0%、「どちらかといえばそう思う」の割合が13.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



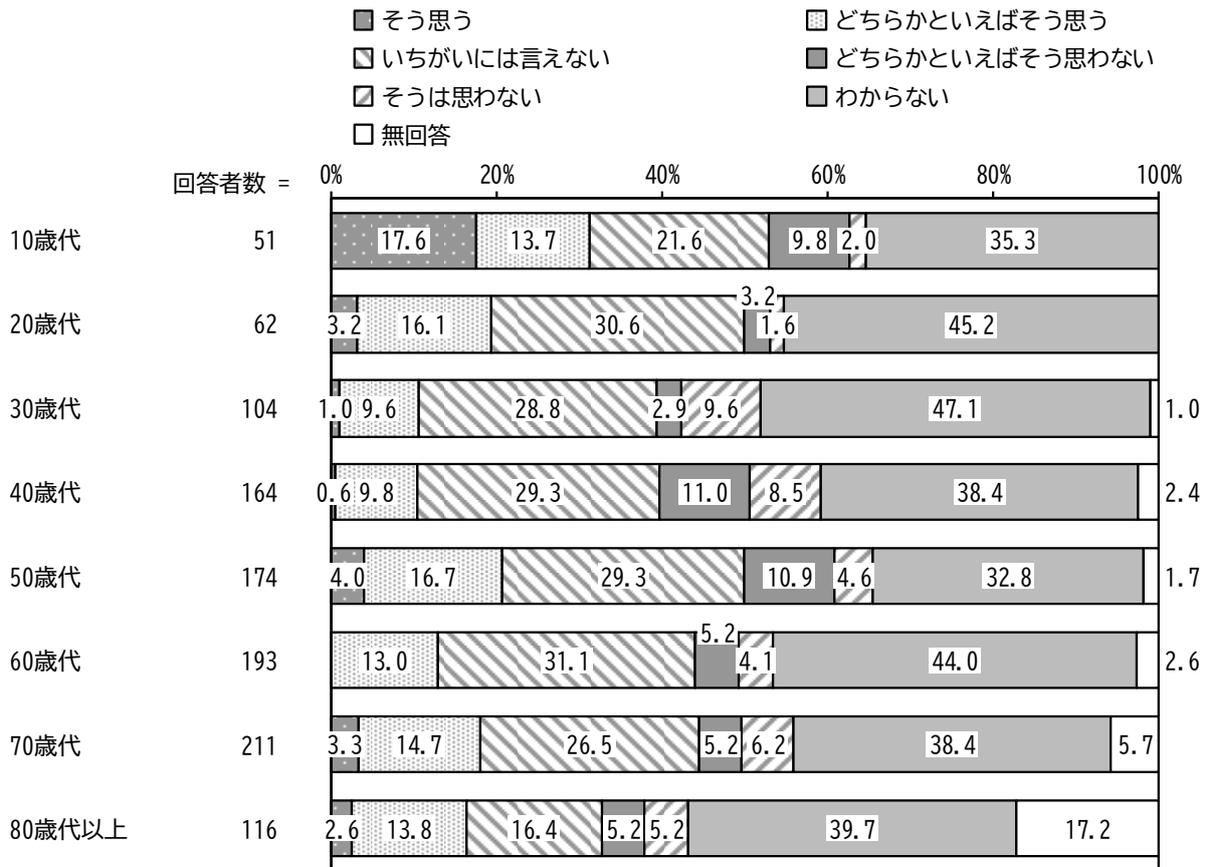
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年代別】

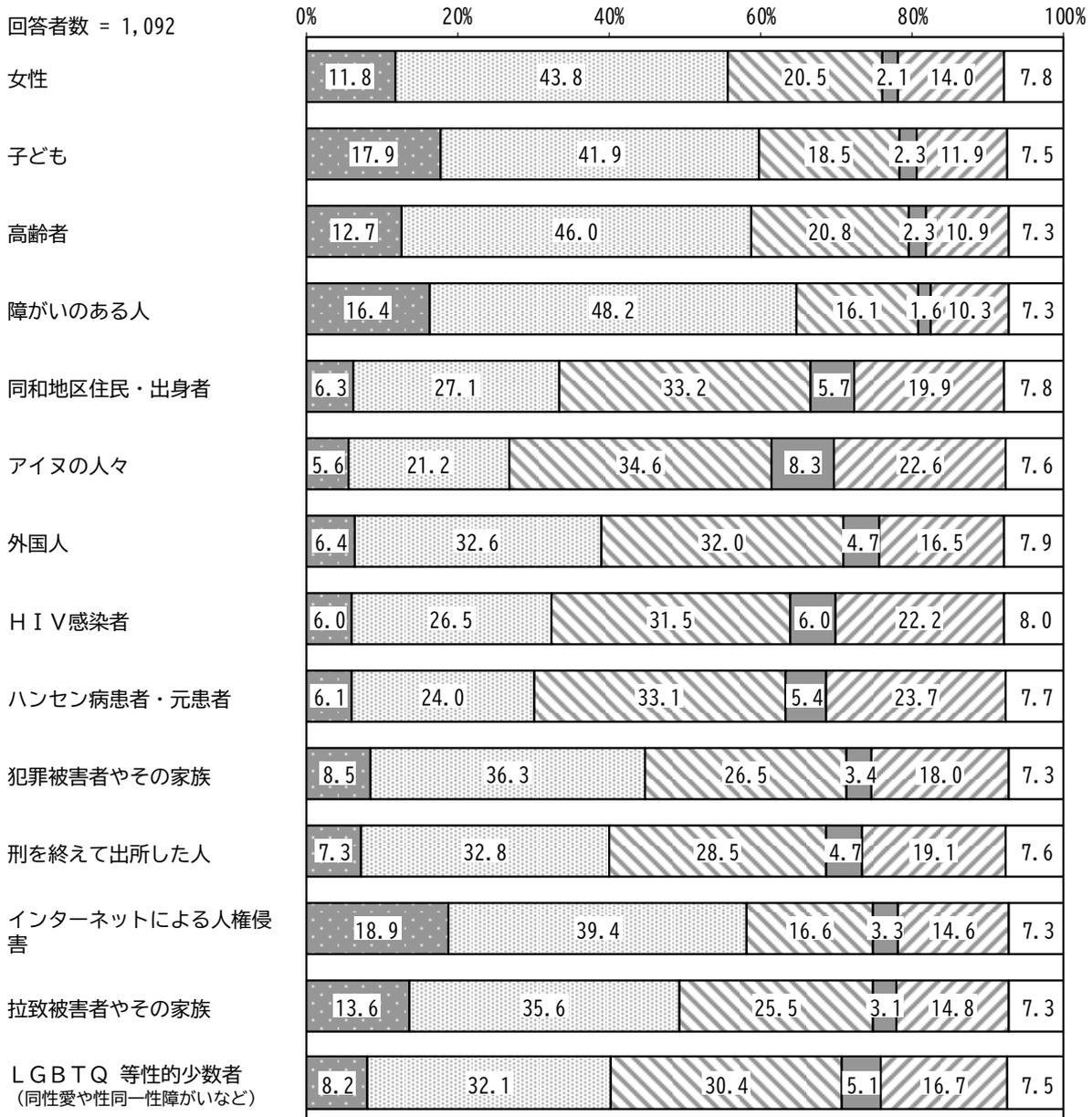
年代別にみると、30歳代で「わからない」の割合が高くなっています。



問 41 次の人権問題についてどの程度関心がありますか。それぞれについて当てはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

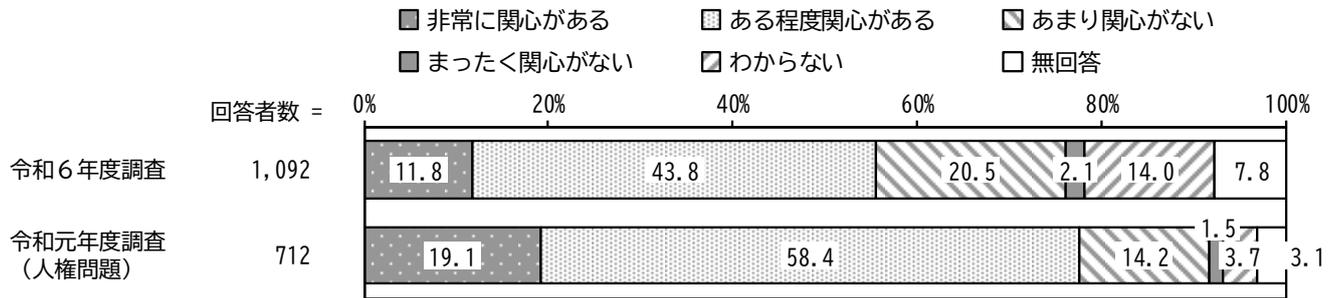
『障がいのある人』で「ある程度関心がある」の割合が高くなっています。

- 非常に関心がある □ ある程度関心がある □ あまり関心がない
- まったく関心がない □ わからない □ 無回答



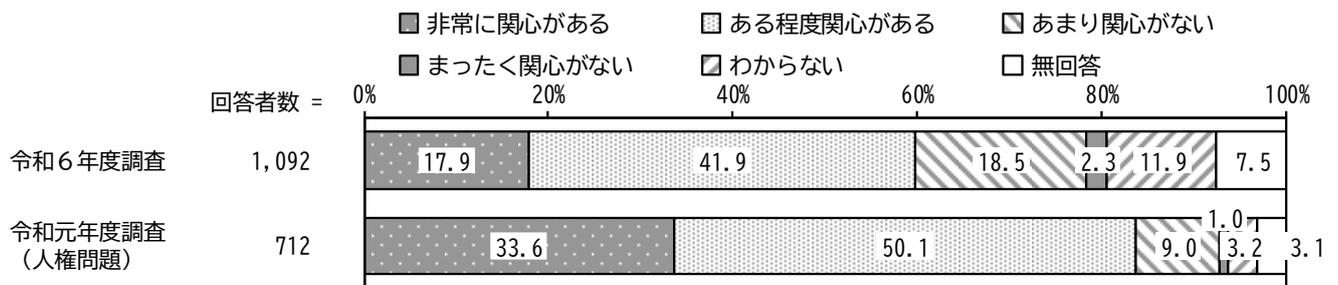
(1) 女性

令和元年度調査と比較すると、「あまり関心がない」「わからない」の割合が増加しています。一方、「非常に関心がある」「ある程度関心がある」の割合が減少しています。



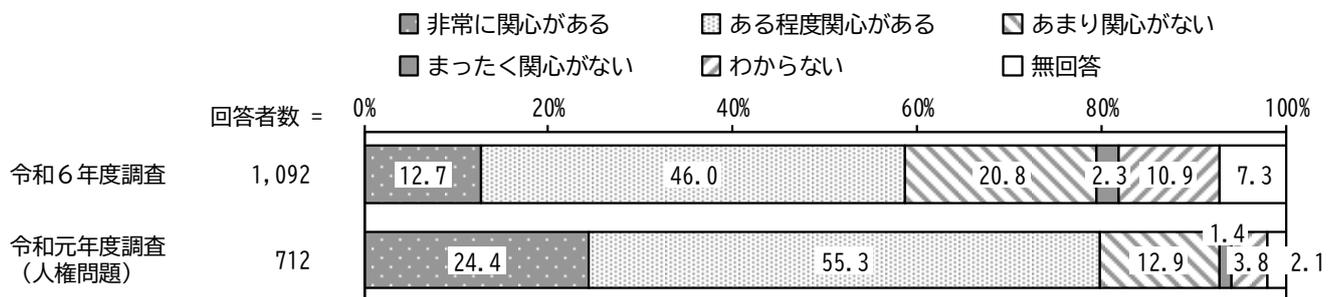
(2) 子ども

令和元年度調査と比較すると、「あまり関心がない」「わからない」の割合が増加しています。一方、「非常に関心がある」「ある程度関心がある」の割合が減少しています。



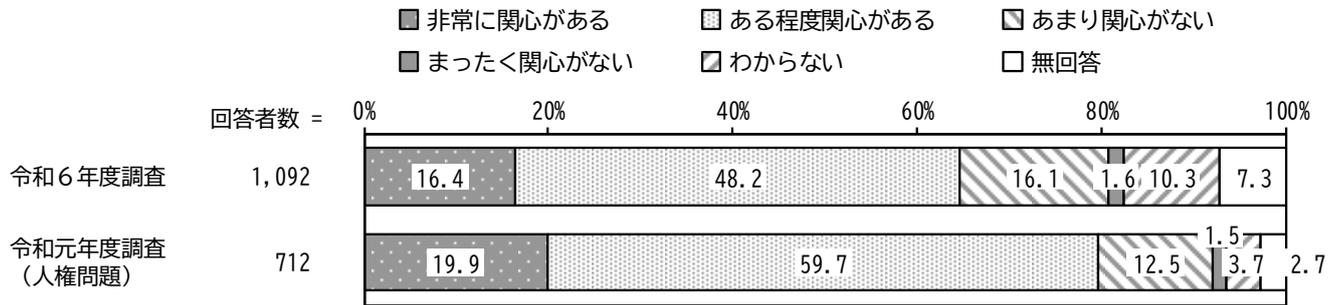
(3) 高齢者

令和元年度調査と比較すると、「あまり関心がない」「わからない」の割合が増加しています。一方、「非常に関心がある」「ある程度関心がある」の割合が減少しています。



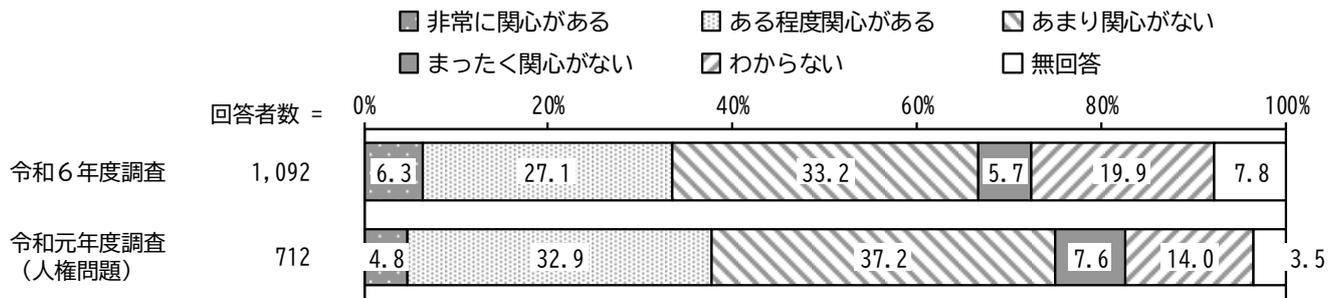
(4) 障がいのある人

令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「ある程度関心がある」の割合が減少しています。



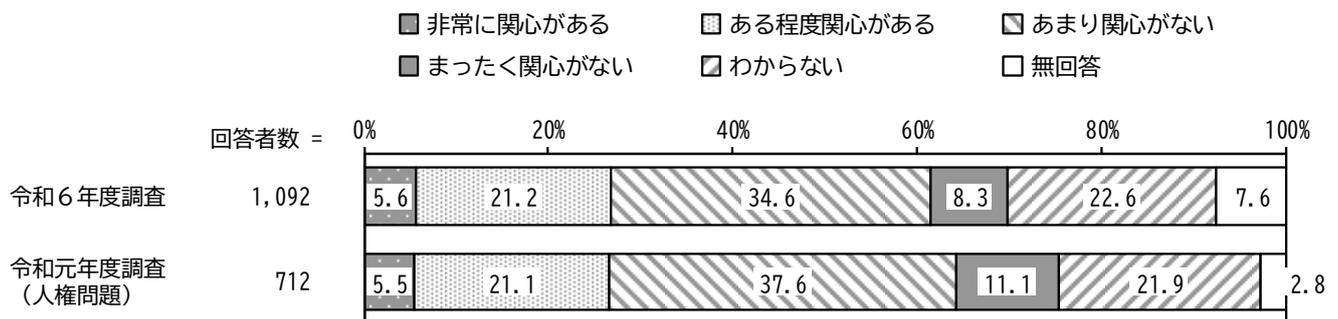
(5) 同和地区住民・出身者

令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「ある程度関心がある」の割合が減少しています。



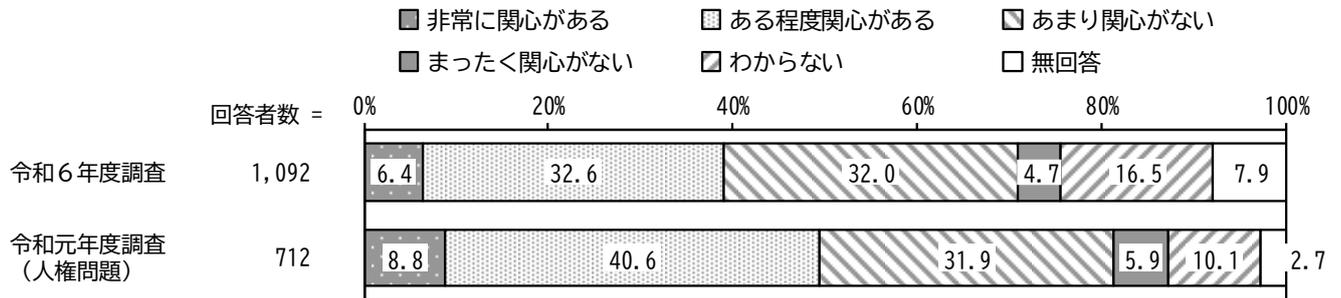
(6) アイヌの人々

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



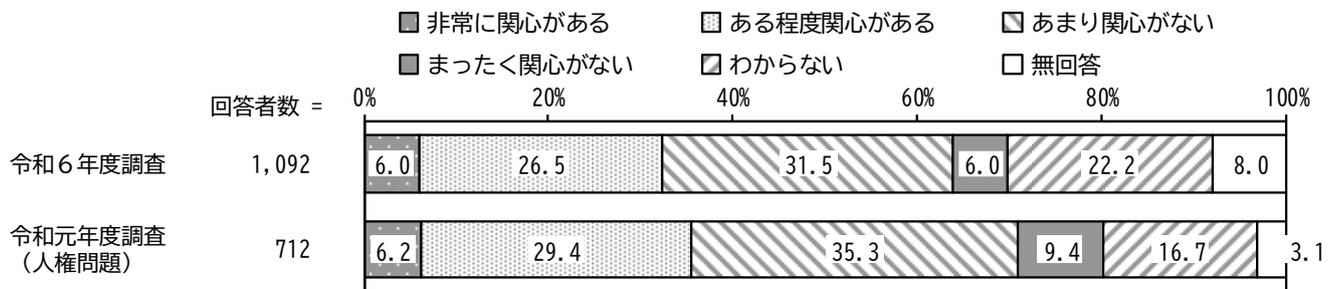
(7) 外国人

令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「ある程度関心がある」の割合が減少しています。



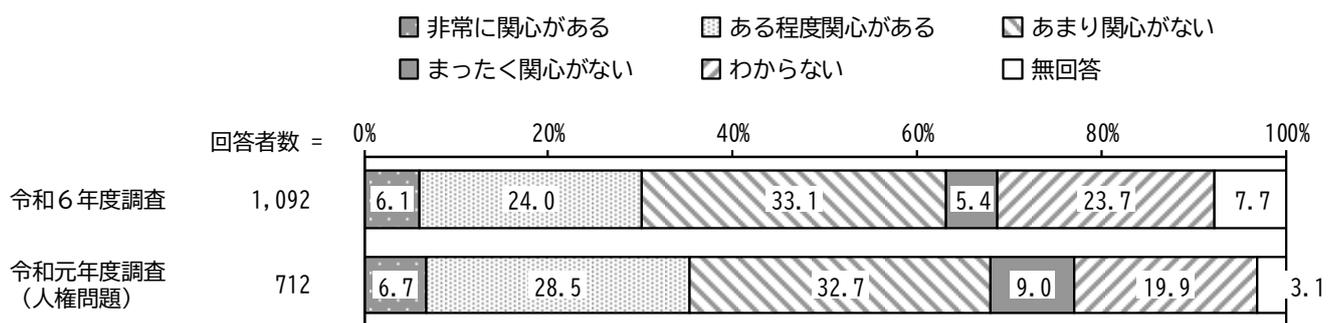
(8) HIV感染者

令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。



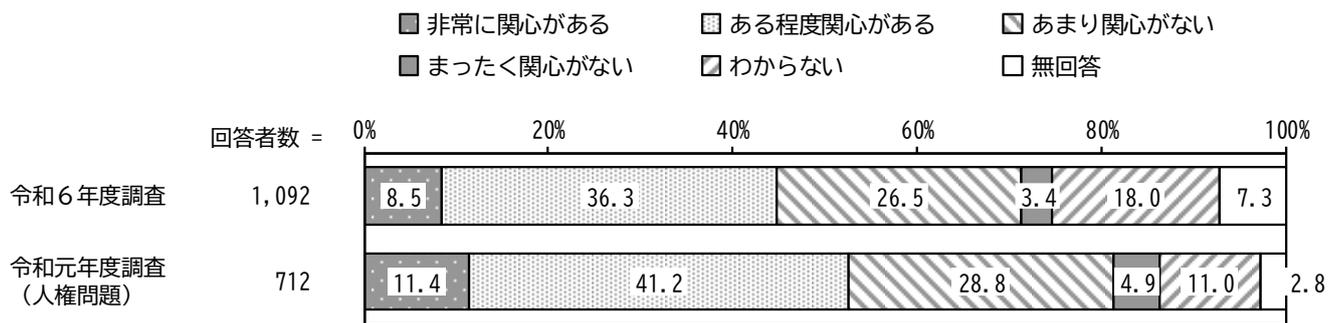
(9) ハンセン病患者・元患者

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



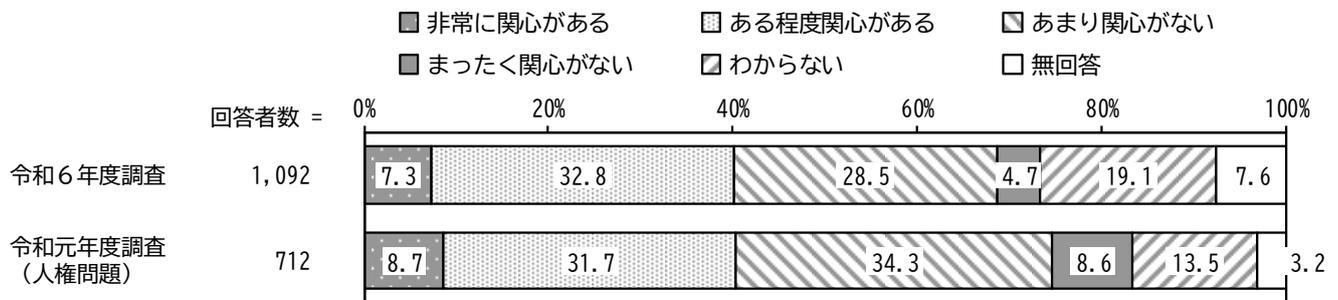
(10) 犯罪被害者やその家族

令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。



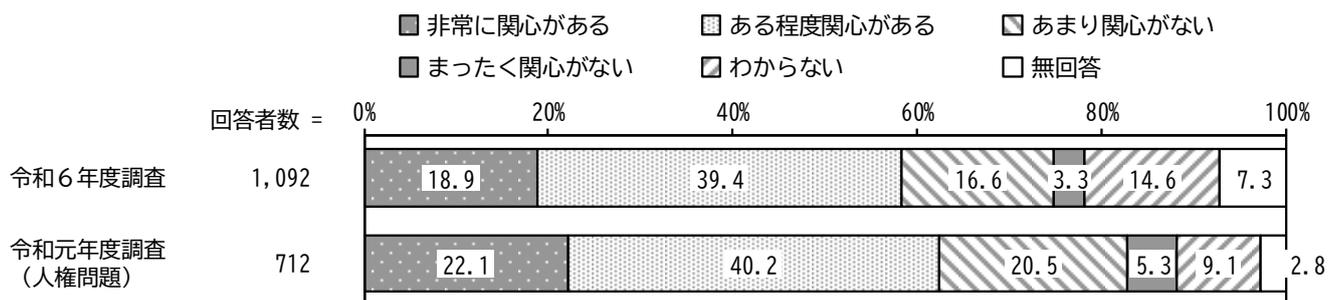
(11) 刑を終えて出所した人

令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「あまり興味がない」の割合が減少しています。



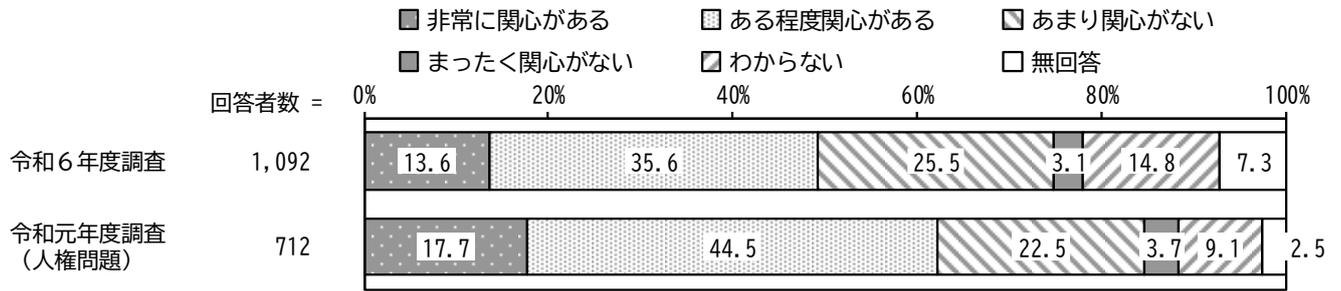
(12) インターネットによる人権侵害

令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。



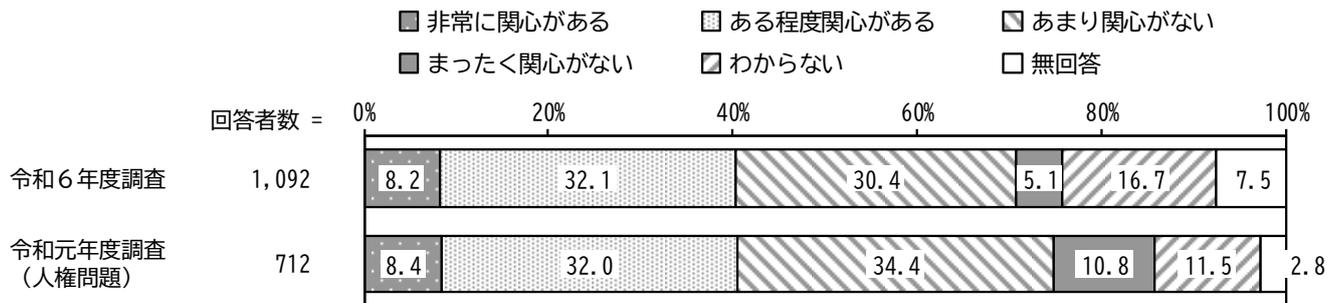
(13) 拉致被害者やその家族

令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「ある程度関心がある」の割合が減少しています。



(14) L G B T Q等性的少数者（同性愛や性同一性障がいなど）

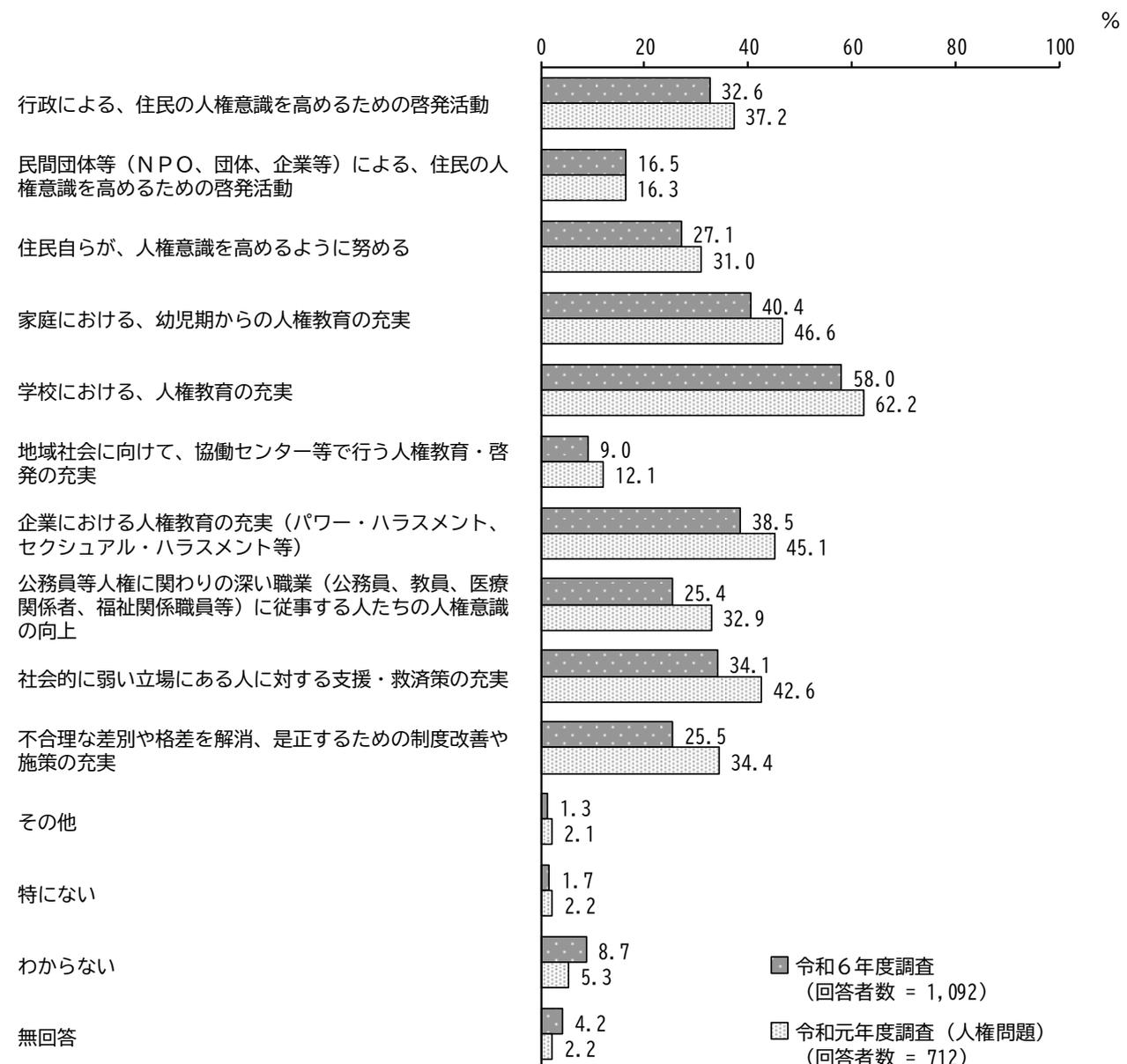
令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加しています。一方、「まったく関心がない」の割合が減少しています。



問 42 人権が尊重される社会を実現するために、あなたが必要だと思う取り組みは何ですか。(当てはまるものすべてに○)

「学校における、人権教育の充実」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「家庭における、幼児期からの人権教育の充実」の割合が 40.4%、「企業における人権教育の充実（パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等）」の割合が 38.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「家庭における、幼児期からの人権教育の充実」「企業における人権教育の充実（パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等）」「公務員等人権に関わりの深い職業（公務員、教員、医療関係者、福祉関係職員等）に従事する人たちの人権意識の向上」「社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済策の充実」「不合理な差別や格差を解消、是正するための制度改善や施策の充実」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、女性で「社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済策の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	行政による、住民の人権意識を高めるための啓発活動	民間団体等（NPO、団体、企業等）による、住民の人権意識を高めるための啓発活動	住民自らが、人権意識を高めるように努める	家庭における、幼児期からの人権教育の充実	学校における、人権教育の充実	地域社会に向けて、協働センター等で行う人権教育・啓発の充実	企業における人権教育の充実（パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等）
全 体	1,092	32.6	16.5	27.1	40.4	58.0	9.0	38.5
男性	488	34.8	16.8	30.5	36.7	57.2	9.2	33.6
女性	573	31.4	17.1	24.1	44.3	59.3	9.2	42.2

区分	公務員等（公務員、教員、医療関係者、福祉関係職員等）に従事する人たちの人権意識の向上	社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済策の充実	不合理な差別や格差を解消、是正するための制度改善や施策の充実	その他	特にない	わからない	無回答
全 体	25.4	34.1	25.5	1.3	1.7	8.7	4.2
男性	21.5	28.9	25.4	1.4	2.0	8.8	4.1
女性	28.6	39.1	25.8	0.9	1.6	8.4	4.2

【年代別】

年代別にみると、70歳代で「公務員等人権に関わりの深い職業（公務員、教員、医療関係者、福祉関係職員等）に従事する人たちの人権意識の向上」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	行政による、住民の人権意識を高めるための啓発活動	民間団体等（NPO、団体、企業等）による、住民の人権意識を高めるための啓発活動	住民自らが、人権意識を高めるように努める	家庭における、幼児期からの人権教育の充実	学校における、人権教育の充実	地域社会に向けて、協働センター等で行う人権教育・啓発の充実	企業における人権教育の充実（パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等）
全体	1,092	32.6	16.5	27.1	40.4	58.0	9.0	38.5
10歳代	51	35.3	11.8	33.3	39.2	52.9	3.9	37.3
20歳代	62	30.6	11.3	30.6	40.3	56.5	8.1	45.2
30歳代	104	26.0	14.4	25.0	49.0	65.4	6.7	42.3
40歳代	164	25.6	15.9	26.2	42.7	62.8	5.5	40.2
50歳代	174	32.8	17.2	25.3	39.1	52.9	9.2	43.7
60歳代	193	39.4	18.1	26.9	41.5	64.2	8.3	43.0
70歳代	211	41.7	20.9	31.3	40.8	61.6	14.7	34.1
80歳代以上	116	21.6	14.7	20.7	30.2	37.9	9.5	19.0

区分	公務員等（公務員、教員、医療関係者、福祉関係職員等）に従事する人たちの人権意識の向上	社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済策の充実	不合理な差別や格差を解消、是正するための制度改善や施策の充実	その他	特になし	わからない	無回答
全体	25.4	34.1	25.5	1.3	1.7	8.7	4.2
10歳代	15.7	31.4	29.4	—	3.9	5.9	—
20歳代	17.7	30.6	19.4	—	—	12.9	—
30歳代	20.2	23.1	26.0	1.0	1.9	5.8	1.9
40歳代	22.6	27.4	22.6	3.7	1.8	7.9	1.2
50歳代	18.4	33.9	25.9	1.1	1.7	8.6	2.3
60歳代	26.4	39.4	25.9	0.5	1.0	6.2	3.1
70歳代	41.2	45.0	31.3	1.4	1.9	5.7	3.3
80歳代以上	22.4	29.3	19.0	0.9	2.6	20.7	20.7

発行：袋井市
編集：袋井市 市民生活部 しあわせ推進課
住所：〒437-8666
静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1
電話 0538-44-3121